marantz® AV Surround Receiver
SR6004

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警　告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 本機の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落し込んだり、水を入れないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにしてください。電源コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。電源コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一、本機を落したり、キャビネットを破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- 本機に付属している電源コードのみ使用してください。他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。電流容量などの違いにより火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場や窓ぎわで雨などがかかるおそれのある所等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

警　告

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。電源周波数は 50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
- 本機の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
  - 本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  - 本機を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
  - 本機の上に物を置く。
- 本機の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- エアコンの下に置かないでください。エアコンから水滴が滴下した場合、汚損・故障・火災・感電の原因となります。

分解禁止

- 本機の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注　意

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所や湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動のある所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 次のような異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
  - 窓を閉めきった自動車の中
  - 直射日光が当たる場所
  - 火や暖房器具など熱を発生する機器の近く
- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

- 5 年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

この度はマランツ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保管してください。

付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品がそろっていることをご確認ください。

- リモコン……1個

- 電池（単4）……2個
- 電源コード……1本
- AMループアンテナ……1個
- FMアンテナ……1個
- マイク……1個
- ワイヤレスレシーバーRX101……1個
- 取扱説明書（本書）……1冊
- 保証書（箱に貼付）……1枚

目次

本機の主な特長

Dolby Pro Logic IIz

本機は、Front height スピーカーを使用することにより今までの水平方向の音場に垂直方向の表現力を加えたDolby Pro Logic IIz デコーダーを搭載しています。

HD オーディオデコーダー搭載

本機には、32 bit 最新 DSP と 192 kHz/24 bit D/A コンバーターを採用した高音質 HD オーディオデコーダーが搭載されています。従来のサラウンドフォーマットに加えて、Blu-ray Disc に収録されている最新のサラウンドフォーマットも忠実に再生します。

- Dolby TrueHD
- Dolby Digital Plus
- DTS-HD(Master Audio、Hi-Resolution Audio)

Audyssey MultEQ® オートセットアップシステム

付属の Audyssey 社製高性能マイクを使い、視聴エリア内の 6 ヶ所の視聴位置でスピーカーの特性とリスニングルームの特性を測定したデータを、高性能 DSP にて分析、演算処理をおこないリスニングルーム全体を複数のリスナーに対し、最適な視聴環境になるように周波数特性を補正するオートセットアップ機能を搭載しました。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することにより、すべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り入れることによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

ハイパワー 7 チャンネルアンプ

大型電源トランスや大容量コンデンサによる強力電源に支えられた、全チャンネル同一パフォーマンスのハイパワー、ワイドレンジのディスクリートアンプを搭載しました。映画・音楽を問わず、優れたスピーカードライブ能力を実現しています。

HDMI 端子の搭載

本機は以下の機能に対応した HDMI 入出力端子を搭載しています。

- Deep Color
- Dolby TrueHD
- DTS-HD Master Audio
- スーパーオーディオCD
- DVDオーディオ

また、本機には HDMI 出力端子が 2 系統（選択式）搭載されており、モニターとプロジェクターを同時につないだ状態で容易に切り替えることができます。

ビデオコンバーター

デジタル処理によるビデオコンバーターを搭載しました。ビデオ /S- ビデオ→コンポーネント→ HDMI へアップコンバートできます。コンポーネント→ビデオへダウンコンバートも可能です。

ビデオスケーラー

高精度 10bit スケーラーIC を搭載しました。
アナログビデオ端子に入力された 480i/480p/720p/1080i 信号を 1080p までアップスケーリングして HDMI へ出力することが可能です。

I/P コンバーター

高性能 I/P（インターレース／プログレッシブ）コンバーターを搭載しました。本機に入力される 480i のコンポジット、S- ビデオ、コンポーネントビデオ信号を高速で正確な I/P 変換をおこない、コンポーネントの映像出力端子へ高品質でスムーズな 480p 映像を出力します。

GUI 機能

セットアップメニューに GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）を採用しました。
スピーカーセットアップやアコースティックイコライザーのセットアップメニューでは、美しい 3D グラフィックイメージによるセットアップが可能です。

広帯域コンポーネントビデオセレクター

コンポーネントビデオ信号に対して入力を 3 系統、出力を 1 系統設けました。ハイビジョン信号等の広帯域（80MHz（− 3dB））な映像信号に対応します。

M-XPort (Marantz-eXtension Port)

拡張性に優れたマランツ独自の M-XPort を搭載しました。本機には Bluetooth オーディオと赤外線リモコン受信部として使用できるワイヤレスレシーバーRX101 を付属しています。

USB 端子

本機の USB 端子には第 5 世代以降の iPod および iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhone を接続できます。iPod から音声がデジタル（LPCM）伝送されるため、本機を通してより高音質で再生することができます。また、USB メディアを接続すると MP3、AAC、WMA および WAV フォーマットで記録されたコンテンツを再生することができます。

M-DAX（Marantz-Dynamic Audio eXpander）搭載

MP3 や AAC 等の非可逆圧縮によって失われた音域成分を補う M-DAX 機能を搭載しました。

DC トリガー出力

電動スクリーンや電動カーテンなど、12V（ボルト）DC トリガーで動作する機器の操作がおこなえます。

RS-232C コントロール端子搭載

RC9001 ／ RX9001 等の外部機器によるコントロールに対応します。

マルチゾーン機能

メインゾーンに加えて 2 つの別室で使用できるゾーン出力端子を備えています。またゾーン A でコンポーネントビデオを選択できるビデオセレクター機能を備えています。

その他の特長

- 192kHz/24bit A/Dコンバーターをアナログ入力用に採用
- L/R 2チャンネルスピーカーでもサラウンド効果を楽しめるバーチャルサラウンド機能
- 音楽再生時に映像出力を停止させる、ビデオオフモード
- 液晶表示付きフルバックライトリモコン（ラーニング＆マクロ機能付き）
- 環境に配慮した待機電力低減モード
- フロントパネルにカーソルボタンを搭載
- ヘッドホンで優れた頭外定位感を実現するドルビーヘッドフォンを搭載
- CDプレーヤーや DVDプレーヤーとのデジタル接続でHDCDソフトが再生できるHDCDデコーダーを搭載

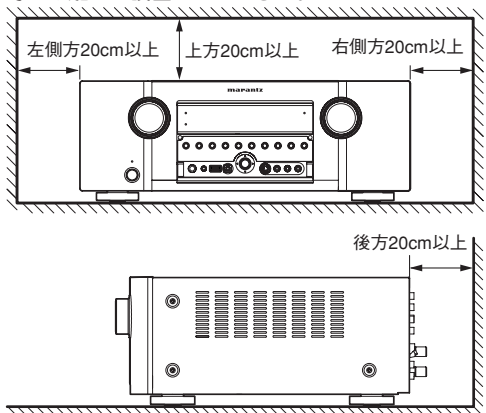
ご使用の前に

ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流 100Vをご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz地域または 60Hz地域でご使用できます。

設置についてのご注意

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には設置しないでください。
- 直射日光が当たる所
- 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 振動のある所
- ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- 窓ぎわで雨などがかかる恐れのある所
- アンプ等の発熱の多い機器の上

放熱のため、本機を下図のとおりに壁や他の機器等から離して設置してください。

上に物をのせない

本機の上に物をのせて放熱を妨げると、事故や故障の原因になります。

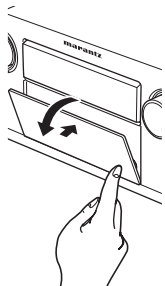
高温注意

使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外の部分は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。
特に高温注意マークのある面及びその周辺は高温になりますので絶対に触れないでください。

フロントパネルドアの開閉

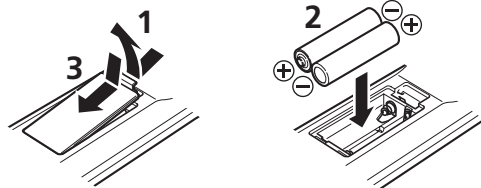
本機の操作をフロントパネルドアの内部にあるボタンで操作したい場合、パネルの下側を押してパネルドアを開けてください。
ボタンを使用しないときは、パネルドアを閉めておいてください。

ご注意

パネルドアとパネルの間に指をはさまないように注意してください。

リモコンの使用について

リモコンに電池を入れる

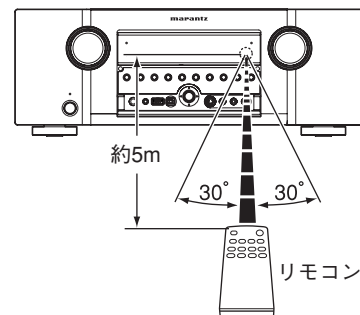
付属のリモコンを最初にご使用になる前に、リモコンに電池を入れてください。
付属の電池はリモコンの動作確認用です。

1. 電池カバーを外します。
2. 電池を極性表示（⊕プラスと ⊖マイナス）に注意し、表示とおりに正しく装着します。
3. 電池カバーを元に戻します。

電池の取り扱いについて

電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。
- 電池のプラス ⊕とマイナス ⊖の向きを機器の表示とおり正しく入れてください。
- 電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますので、指定以外の電池は使用しないでください。 また、新しい電池と古い電池を混ぜたり、種類の違う電池を混ぜたりして使用しないでください。
- 電池は充電しないでください。
- 電池はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- 電池は金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。
- 長期間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐために電池を取り出しておいてください。もし、電池が液もれを起こしたときは、素手で液にさわらずに、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷する恐れがありますので、取り扱いには十分ご注意ください。誤って液が付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。
- 電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

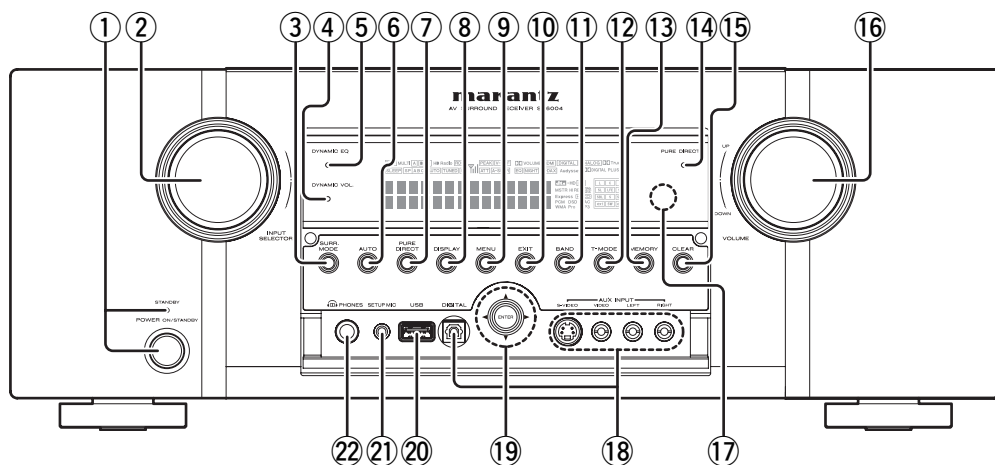
- 不要になった電池を廃棄する場合は、テープなどで絶縁をし、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 電池は火のそばや直射日光の当たる所、炎天下の車内、熱器具の近くなど高温の場所に置かないでください。

リモコンの動作範囲

リモコンによる本機の操作可能範囲は下図のとおりです。

使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。 リモコンが操作できない場合があります。
- リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称

フロントパネル

① POWER ON ／ STANDBY ボタン STANDBY インジケーター
電源の入／切（待機状態）を切り替えます。ボタンを押すと電源が入ります。
もう一度押すと、待機状態（STANDBY モード）になり STANDBY インジケーターが点灯します。
（15 ページ参照）

② INPUT SELECTOR つまみ
入力ソース機器を選択するときに使います。（15 ページ参照）

③ SURR. MODE ボタン
このボタンを押すと、サラウンドモードが切り替わります。（38、67 ページ参照）

④ DYNAMIC VOL. インジケーター
Audyssey Dynamic Volume™ を使用しているときに点灯します。

⑤ DYNAMIC EQ インジケーター
Audyssey Dynamic EQ™ を使用しているときに点灯します。

⑥ AUTO ボタン
このボタンを押すと、オートサラウンドモードになります。
このモードを選択すると、本機は入力信号に対応するサラウンドモードを自動的に選択します。
（38、67 ページ参照）

⑦ PURE DIRECT ボタン
ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードを選択します。（38 ページ参照）

⑧ DISPLAY ボタン
このボタンを押すと、表示部のディスプレイモードを切り替えることができます。（38 ページ参照）

⑨ MENU ボタン
このボタンを押すと、GUI メニューシステムが起動します。（22 ページ参照）

⑩ EXIT ボタン
このボタンを押すと、GUI メニューシステムを終了します。（22 ページ参照）

⑪ BAND ボタン
このボタンを押すと、チューナーの FM と AM が切り替わります。（15 ページ参照）

⑫ T-MODE ボタン
このボタンを押すと、FM バンドを選択中に、オート・ステレオ・モードまたはモノ・モードが選択できます。
オート・ステレオ・モードのときは「AUTO」インジケーターが点灯します。（16 ページ参照）

⑬ MEMORY ボタン
このボタンを押すと、チューナーに周波数をプリセットする、または放送局名を入力することができます。（43 ページ参照）

⑭ PURE DIRECT インジケーター
PURE DIRECT モードを選択しているときに点灯します。

⑮ CLEAR ボタン
このボタンを押すと、放送局メモリ設定、あるいはプリセット・スキャンをキャンセルすることができます。（43、44 ページ参照）

⑯ VOLUME つまみ
全体的な音量を調整します。このつまみを右に回すと音量が大きくなります。（15 ページ参照）

⑰ リモコン受光部
リモコンの赤外線信号を受信します。

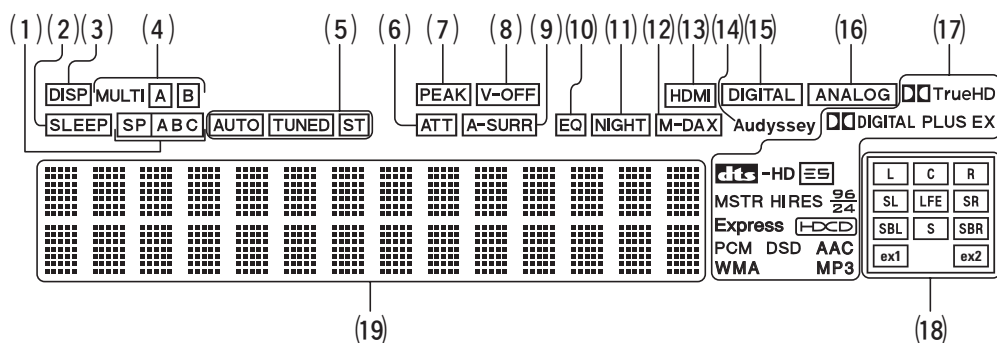
⑱ AUX INPUT 端子
ビデオカメラ、ポータブル DVD、ゲーム機等の接続に使用できます。

⑲ カーソルボタン（◀/▶/▲/▼）／ ENTER ボタン
このボタンを押すと、GUI メニューシステム、USB および AM／FM チューナーを操作できます。
（15、22、43 ページ参照）

⑳ USB 端子
iPod または USB メディアを接続します。（18、45 ページ参照）

㉑ MIC 端子
付属のマイクを使用して、スピーカーの特性を自動的に測定および補正することができます。
（26 ページ参照）

㉒ PHONES 端子
ヘッドホン用の接続端子です。この端子にヘッドホンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。（39 ページ参照）

表示部

(1) SP ABC インジケーター

選択しているスピーカーシステムを表示します。スピーカーオフ時は A、B、C ともに消灯します。（18、39 ページ参照）

(2) SLEEP インジケーター

メインゾーンでスリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。（41 ページ参照）

(3) DISP インジケーター

表示部が消灯（ディスプレイオフ）状態のときに点灯します。（38 ページ参照）

(4) MULTI AB インジケーター

マルチゾーン機能またはゾーンスピーカー機能を使用しているときに点灯します。（53 ページ参照）

(5) TUNER インジケーター

AUTO： チューナーがオートステレオモードのときに点灯します。
TUNED： 放送を受信しているときに点灯します。
ST（ステレオ）： FM 放送をステレオで受信しているときに点灯します。

(6) ATT インジケーター

アッテネーション機能を使用しているときに点灯します。（41 ページ参照）

(7) PEAK インジケーター

アナログ入力を選択時、入力信号が過大レベルになると点灯します。
このとき、アッテネーション機能を使って入力レベルを下げてください。（41 ページ参照）

(8) V-OFF インジケーター

ビデオオフ機能を使用しているときに点灯します。（38 ページ参照）

(9) A-SURR インジケーター

AUTO SURROUND（オートサラウンド）モードが選択されているときに点灯します。（38 ページ参照）

(10) EQ インジケーター

HT-EQ（ホームシアター）モード選択しているときに点灯します。（31 ページ参照）

(11) NIGHT インジケーター

NIGHT モード機能を使用しているときに点灯します。（39 ページ参照）

(12) M-DAX インジケーター

M-DAX 機能を使用しているときに点灯します。（39 ページ参照）

(13) HDMI インジケーター

本機が HDMI 接続されているときに点灯します。

(14) Audyssey インジケーター

EQ（イコライザー）モードが“AUDYSSEY”、“AUDYSSEY FRONT”、“AUDYSSEY FLAT”のときに点灯します。（36 ページ参照）

(15) DIGITAL インジケーター

デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(16) ANALOG インジケーター

アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。

(17) デジタル信号フォーマットインジケーター

入力されているデジタル入力信号のフォーマットを点灯します。

TrueHD：
Dolby TrueHD 信号が入力されているときに点灯します。
DIGITAL：
Dolby Digital 信号が入力されているときに点灯します。
DIGITAL PLUS：
Dolby Digital Plus 信号が入力されているときに点灯します。
DIGITAL EX：
Dolby Digital EX 信号が入力されているときに点灯します。
dts：
dts 信号が入力されているときに点灯します。
dts ES：
dts-ES 信号が入力されているときに点灯します。
dts-HD MSTR：
dts-HD Master Audio 信号が入力されているときに点灯します。
dts-HD HIRES：
dts-HD High Resolution Audio 信号が入力されているときに点灯します。
dts 96/24：
dts-96/24 処理が施された dts 信号が入力されているときに点灯します。
HDCD：
デジタル入力で HDCD（High Definition Compatible Digital）信号が入力されているときに点灯します。
PCM：
PCM（Pulse Code Modulation）信号が入力されているときに点灯します。
DSD：
DSD（Direct Stream Digital）信号が入力されているときに点灯します。
AAC：
USB メディアで AAC フォーマットのファイルを再生中または AAC 信号が入力されているときに点灯します。
WMA：
USB メディアで WMA フォーマットのファイルを再生中に点灯します。
MP3：
USB メディアで MP3 フォーマットのファイルを再生中に点灯します。

(18) プログラムチャンネルインジケーター

入力されたデジタル入力信号のチャンネルを点灯します。

- 2ch信号が入力したとき、L、Rが点灯します。
- 5.1ch信号が入力したとき、L、C、R、SL、SR、LFEが点灯します。
- Dolby Digital EXまたはDTS-ES信号が入力したとき、L、C、R、SL、S、SR、LFEが点灯します。
- 7.1ch信号が入力したとき、L、C、R、SL、SR、SBL、SBR、LFEが点灯します。
- 上記以外のチャンネルが含まれている場合、ex1またはex2が点灯します。

詳細は、67 ページの「使用するサラウンドモードと入力信号について」をご覧ください。

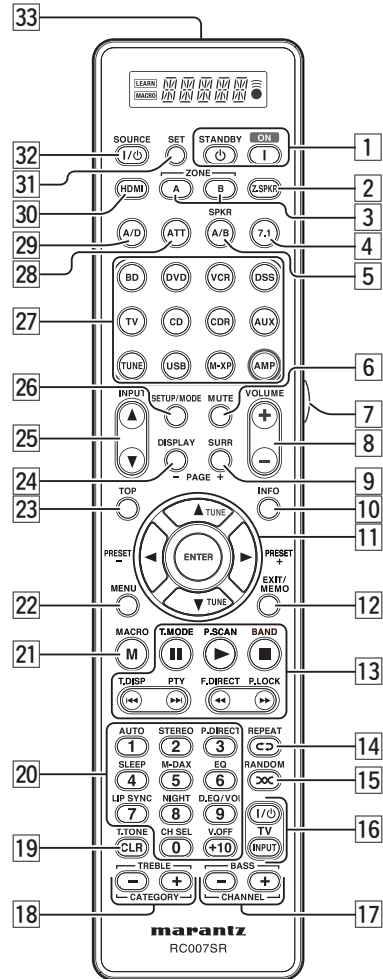
ご注意

- 本機がDolby TrueHDをデコードしているとき、使用中のスピーカーのチャンネル数に応じて入力信号のステータスが表示されます。
L、C、R、SL、SR、SWの5.1chのスピーカーシステムを使用している場合、7.1chの信号が入力されたときでも、“SBL”、“SBR”および“S”インジケーターは点灯しません。

(19) メインインフォメーション表示

入力ファンクション、サラウンドモード、ボリュームや受信周波数等を表示します。

リモコン

付属のリモコンはユニバーサルリモート・コントローラーです。
POWER（電源）ボタン、数字ボタン、操作ボタンは本機だけではなく、様々な AV 機器に使用できます。

1 POWER ON ／ STANDBY ボタン

（アンプモード選択時）
本機の電源をオン／オフ（待機状態）するときに押します。
（15 ページ参照）

2 Z.SPKR ボタン

ゾーンスピーカーＡをオン／オフするときに押します。（53 ページ参照）

3 ZONE A ／ B ボタン

ゾーン A または B をオン／オフするときに押します。
（53 ページ参照）

4 7.1 ボタン

7.1 チャンネル入力の選択および解除するときに押します。（40 ページ参照）

5 SPKR A/B ボタン

フロントスピーカーA、B を切り替えるときに押します。
ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

A → B → A+B → OFF → A

6 MUTE ボタン

音声をミュート（消音）するときに押します。
（15 ページ参照）

7 ライトボタン

リモコンのバックライトを点灯させたいときに押します。（56 ページ参照）

8 VOLUME ＋／－ボタン

音量を調節するときに押します。
（15 ページ参照）

9 SURR ボタン

（USB モード以外を選択している場合）
サラウンドモードを選択するときに押します。
（38、67 ページ参照）

（USB モード選択時）
次のページを選択するときに使います。

10 INFO ボタン

（アンプモード選択時）
本機の設定をモニターにオンスクリーンディスプレイ表示します。

（チューナーモード選択時）
プリセットメモリーされた放送局の一覧を表示します。（43 ページ参照）

（USB モード選択時）
iPod 操作中に、リスト画面とステータス画面を切り替えます。

11 カーソルボタン／ ENTER ボタン

本機や DVD プレーヤーなどのカーソルを操作します。

（チューナーモード選択時）

PRESET ＋／－（プリセット）ボタン
プリセットメモリーされた放送局を選択するときに押します。（43 ページ参照）

TUNE ▲ / ▼ ボタン
受信周波数を調整するときに押します。
（16 ページ参照）

12 EXIT ／ MEMO ボタン

（アンプモード選択時）
本機の GUI メニューシステムを終了するときに押します。（22 ページ参照）

（チューナーモード選択時）
プリセットチャンネルを登録するときに押します。
（47 ページ参照）

13 コントロールボタン

再生、停止、一時停止や各ソース機器を操作するときに押します。

（チューナーモード選択時）**（15 ページ参照）**

T.MODE（チューナーモード）ボタン
FM 放送受信中にオートステレオまたはモノラルを選択するときに押します。
オートステレオ・モードの場合は「AUTO」表示が点灯します。

P.SCAN（プリセットスキャン）ボタン
プリセット・スキャンを開始するときに押します。

BAND（バンド）ボタン
ラジオの帯域（FM ／ AM）を選択するときに押します。

F.DIRECT（周波数ダイレクト）ボタン
受信周波数を数字キーを使用して、直接入力するときに押します。

T. DISP、PTY、P. LOCK ボタン
本機では使用しません。

（USB モード選択時）**（45 ページ参照）**

II ボタン
一時停止します。

▶ ボタン
再生します。

■ ボタン
停止します。

⏮ / ⏭ ボタン
前または次のファイルを再生します。

◀◀ / ▶▶ ボタン
早戻しまたは早送りします。

14 REPEAT ボタン

DVD プレーヤーなどの機器でリピート（繰り返し）を選択するときに押します。

15 RANDOM ボタン

DVD プレーヤーなどの機器でランダム（任意）を選択するときに押します。

16 テレビコントロール ボタン

テレビやモニターの操作（電源および入力切り替え）ができます。

⑰ BASS ／ CH ＋／－ボタン

（アンプモード選択時）
低音を調整するときに押します。（15 ページ参照）

（TV、DSS モード選択時）
チャンネルを選択するときに押します。
（54、56 ページ参照）

⑱ TREBLE ＋／－ボタン

（アンプモード選択時）
高音を調整するときに押します。（15 ページ参照）

⑲ CLR ／ T.TONE ボタン

チューナーなどのメモリーを消去するときに使用します。

（アンプモード選択時）
テストトーンメニューを選択するときに使用します。（30 ページ参照）

⑳ 数字ボタン

ソース機器にトラックなどの番号を設定するときに押します。
リモコンがアンプモードに設定されている場合、これらのボタンを用いて以下の操作ができます。

（アンプモード選択時）

1/AUTO ボタン
オートサラウンドを選択するときに押します。
（38 ページ参照）

2/STEREO ボタン
STEREO モードを選択するときに押します。

3/P.DIRECT ボタン
ソースダイレクトまたはピュアダイレクトを選択するときに押します。（38 ページ参照）

4/SLEEP ボタン
スリープタイマー機能を設定するときに押します。
（41 ページ参照）

5/M-DAX ボタン
M-DAX 機能を選択するときに押します。
（39 ページ参照）

6/EQ ボタン
Audyssey® モードを選択するときに押します。
（36 ページ参照）

7/LIP SYNC ボタン
LIP SYNC（リップシンク）モードを選択するときに押します。（41 ページ参照）

8/NIGHT ボタン
Dolby Digital 信号を再生中にナイトモードを選択するときに押します。（39 ページ参照）

9/D.EQ/VOL ボタン
Audyssey Dynamic EQ / Dynamic Volume モードを選択するときに押します。

0/CH SEL ボタン
チャンネルレベルまたは 7.1CH 入力のレベルを調整するときに押します。（24、31 ページ参照）

+10/V.OFF ボタン
ビデオオフモードを選択するときに押します。
（38 ページ参照）

㉑ M ボタン

マクロプログラムを使うときに使います。
ノーマルモードとマクロモードを切り替えます。
（59 ページ参照）

㉒ MENU ボタン

（アンプモード選択時）
本機の GUI メニューシステムを呼び出しするときに押します。（22 ページ参照）

（USB モード選択時）
iPod 操作中に上位階層に移動します。

㉓ TOP ボタン

（アンプモード選択時）
本機のセットアップメニューを表示中にトップメニューに戻ります。（22 ページ参照）

（USB モード選択時）
最上位アイテムを表示します。

㉔ DISPLAY ボタン

（USB モード以外を選択している場合）
本機のディスプレイモードを選択するときに押します。（38 ページ参照）

（USB モードを選択している場合）
前のページに戻るときに使います。

㉕ INPUT ▲ / ▼ ボタン

本機の入力ソースを選択するときに押します。

㉖ SETUP ボタン

DVD プレーヤーなどのセットアップをおこなうときに押します。

（USB モード選択時）
iPod 操作中にダイレクト / リモートモードを切り替えます。

㉗ ソースボタン

ソースボタンを 1 回押すと、このリモコンの操作モードが選択した機器に切り替わります。
ソースボタンを 2 秒以内に 2 回続けて押すと、本機の入力セレクターが変わります。

ご注意

- 本機の操作をおこなうには AMP ボタンを押してください。（アンプモード）

㉘ ATT ボタン

アナログ入力時に入力レベルを減衰させたいときに押します。
PEAK インジケーターが点灯する場合、この機能を使用してください。（41 ページ参照）

㉙ A/D ボタン

HDMI、デジタルおよびアナログ入力を一時的に切り替えるときに押します。（40 ページ参照）

㉚ HDMI ボタン

HDMI 出力 1 と 2 を切り替えます。

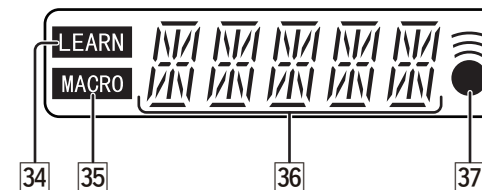
㉛ SET ボタン

このリモコンの学習モードとプリセットモードを操作するときに押します。（56 ページ参照）

㉜ I / ⏻ SOURCE ボタン

DVD プレーヤー等のソース機器の電源をオン／オフするときに使います。
本機の電源をオン／オフするときにも使います。

㉝ 赤外線送信部と学習用センサー

この部分から赤外線が送信されます。本機または操作したい機器の赤外線受光部に向けて使用してください。
学習機能を使用するときは、この部分に他のリモコンの赤外線送信部分を向けて使用してください。
（57 ページ参照）

㉞ LEARN インジケーター

リモコンが学習モードのときに表示されます。

㉟ MACRO インジケーター

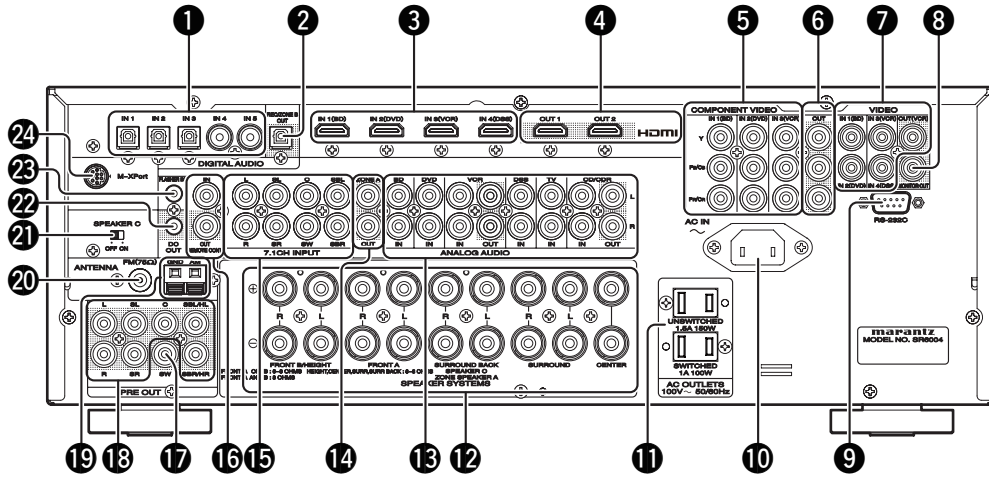
リモコンがマクロ学習モードのときに表示されます。

㊱ インフォメーションディスプレイ

操作対象のソース機器名やリモコンのモードを表示します。

㊲ インジケーター

各ボタンが押されてリモコンが信号を送信しているときに表示されます。

リアパネル

❶ デジタルオーディオ入力端子
デジタル機器（DVD、CD、MD、BS チューナー等）のデジタル信号出力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用してください。入力端子は INPUT SETUP にて変更することができます。（11、23 ページ参照）

❷ デジタルオーディオ出力端子
デジタル録音機器（CD レコーダー、MD レコーダー等）またはゾーン B 用のアンプの光デジタル信号入力端子に接続します。（11、20 ページ参照）

❸ HDMI 入力端子
HDMI 出力端子付きの Blu-ray Disc プレーヤーや DVD プレーヤーと接続します。（13 ページ参照）

❹ HDMI 出力端子
HDMI 入力端子付きのモニターやプロジェクターと接続します。（13 ページ参照）

❺ COMPONENT VIDEO 入力端子
コンポーネントビデオ出力端子付きのビデオ機器と接続します。（12 ページ参照）

❻ COMPONENT VIDEO 出力端子
コンポーネントビデオ入力端子付きのモニターやプロジェクターと接続します。（12 ページ参照）

❼ 映像信号用端子
ビデオ機器のビデオ端子と接続します。（12 ページ参照）

❽ モニター用映像出力端子
モニターやプロジェクターのビデオ入力端子と接続します。（12 ページ参照）

❾ RS-232C 端子
将来に向けてソフトウェアのアップグレードや外部コントロールシステムの接続用に使用します。

❿ AC IN
付属の電源コードを接続し、家庭用交流 100V（50/60Hz）のコンセントに電源プラグを差し込みます。

万一の事故防止のため、本機から電源コードが外せるように配置してください。

⓫ AC アウトレット
本機の AC アウトレットから他の AV 機器に電源を供給できます。
本機は SWITCHED と UNSWITCHED の AC アウトレットを装備しています。

SWITCHED（スイッチド：連動）
本機の電源オン／スタンバイに連動し、電源供給をオン／オフします。
消費電力が最大 100W までの機器を接続できます。

UNSWITCHED（アンスイッチド：非連動）
本機の電源オン／スタンバイに関係なく、電源供給をします。消費電力が最大 150W までの機器を接続できます。

警告
絶対許容電力以上の機器を接続しないでください。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。

ご注意
マルチゾーン機能がオンのときは、本機の電源オン／スタンバイに関わらず SWITCHED 側からも電源が供給されます。

⓬ スピーカー出力端子
スピーカーを接続します。（10 ページ参照）

⓭ アナログオーディオ信号用端子
オーディオやビデオ機器のオーディオ端子と接続します。（12 ページ参照）

⓮ ゾーン A 出力端子
マルチゾーンのオーディオ出力端子です。
他のオーディオアンプに接続することにより、マルチゾーンシステムで選択したソースを離れた部屋で聴くことができます。（20 ページ参照）

⓯ 7.1ch 音声入力端子
スーパーオーディオ CD マルチチャンネルプレーヤーや DVD オーディオプレーヤーのマルチチャンネル音声出力端子に接続します。（19 ページ参照）

⓰ リモートコントロール入出力端子
リモートコントロール（RC-5）端子が装備されたマランツ製 AV 機器と接続します。（21 ページ参照）

⓱ サブウーファー用出力端子
サブウーファー用プリアンプ出力です。サブウーファー用の外部パワーアンプもしくはアンプ内蔵サブウーファーに接続します。（19 ページ参照）

⓲ プリアンプ出力端子
音声各チャンネルのプリアンプ出力端子です。外部パワーアンプを追加する場合に使用します。（19 ページ参照）

⓳ AM アンテナ端子およびアース端子
付属の AM ループアンテナを接続します。
受信状態が最良になる位置にループアンテナを置いてください。（14 ページ参照）

⓴ FM アンテナ端子（75 Ω）
付属の FM アンテナを接続します。
電波の弱い地域は市販の FM アンテナをご使用ください。（14 ページ参照）

㉑ SPEAKER C セレクタースイッチ
スピーカー C を使用するときは「ON」にします。サラウンドバック、ハイトまたはゾーンスピーカー A を使用するときは「OFF」にしてください。（18 ページ）

㉒ DC トリガー出力端子
この端子は他の機器を制御するための DC トリガー信号を出力する端子です。（スクリーン、電源等）GUI メニューシステムでこれらの端子を作動させる条件を設定できます。（21、35 ページ参照）

ご注意
この出力電圧は制御専用です。駆動用としては使用できません。

㉓ FLASHER IN 端子
キーパッドなどを用いて各部屋から機器をコントロールする際に使用します。（21 ページ参照）

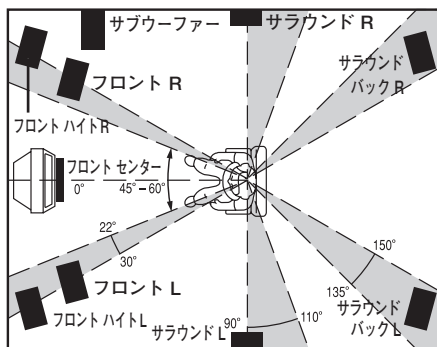
㉔ M-XPort 端子
付属のマランツ製ワイヤレスレシーバー RX101 を接続します。（18 ページ参照）

基本接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R、フロントハイト L/R、サブウーファーの合計 9.1 チャンネルです。
サラウンド再生に最低限必要なスピーカーシステムはフロント L/R、サラウンド L/R ですが、この場合 Dolby Digital EX や DTS-ES の再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。（25 ページ参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。

フロント L/R スピーカー

リスニングポジションから見て L と R のスピーカーが 45 度～ 60 度の角度を持つように設置することを推奨します。

センタースピーカー

フロント L/R スピーカーと前面をそろえるか、または少しだけ後方にずらして設置します。

サラウンド L/R スピーカー

サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの真横または少しだけ後方にずらした壁際に設置します。スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

サラウンドバック L/R スピーカー

7.1ch サラウンド再生に必要なスピーカーです。リスニングポジションの後の壁際に設置します。
スピーカー前面の中心が、部屋の中心を向くようにします。

フロントハイト L/R スピーカー

Dolby Pro Logic Ⅱz サウンドを再生するのに必要なスピーカーです。
このスピーカーによって立体的な空間を作り出すサウンド効果を高めます。

サブウーファー

低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱うため、部屋の中であれば位置はそれほど重要ではありません。

スピーカー配置の高さ

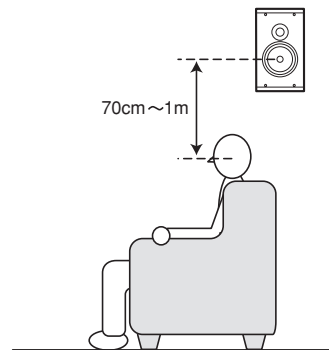
フロントスピーカー（L、R、センター）

3 つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さにそろえます。

ご注意

スピーカーをブラウン管テレビの近くに置く場合、フロント L/R およびセンタースピーカーは防磁型のスピーカーをご使用ください。

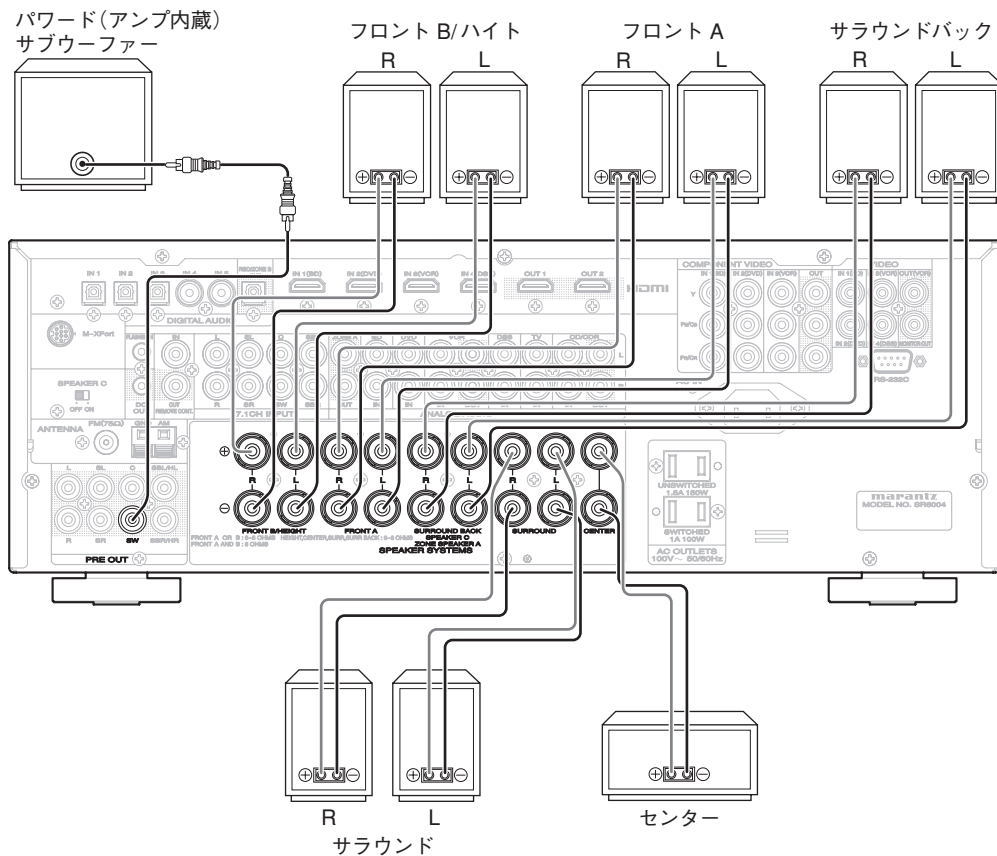
サラウンド L/R、サラウンドバック L/R スピーカー

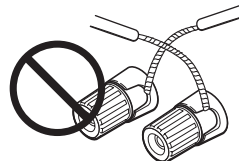
スピーカーをリスナーより 70 センチから 1 メートルくらい上方に設置します。これにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

フロントハイト L/R スピーカー

フロント L/R スピーカーから 1m より上方に設置します。
フロントスピーカーより広い角度で設置してかまいませんが、理想的にはフロントスピーカーからそのまま上にあげた状態の角度を推奨します。

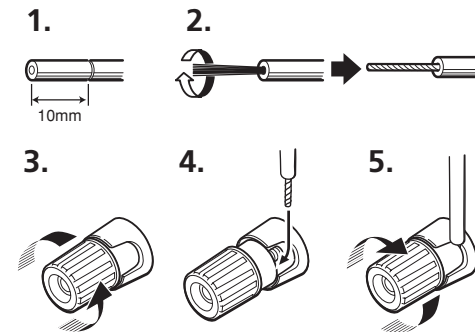
基本接続

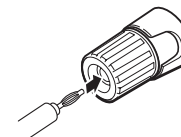
スピーカーシステムとの接続

- お使いになるスピーカーシステムは本機のリアパネルに記載されたインピーダンスのスピーカーを必ず使用してください。
- サブウーファーを接続する際、パワード（アンプ内蔵）サブウーファーはPRE OUTのサブウーファー用出力端子に接続してください。

ご注意

- 回路の破損を防止するため、スピーカーコードの芯線同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。

- 電源が入った状態でスピーカー端子に触れないでください。感電する恐れがあります。
- 1つのスピーカー端子に2本以上のスピーカーケーブルを接続しないでください。本機が破損する可能性があります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずにおこなってください。間違って接続すると信号位相が反転し、再生される音楽は不自然になります。

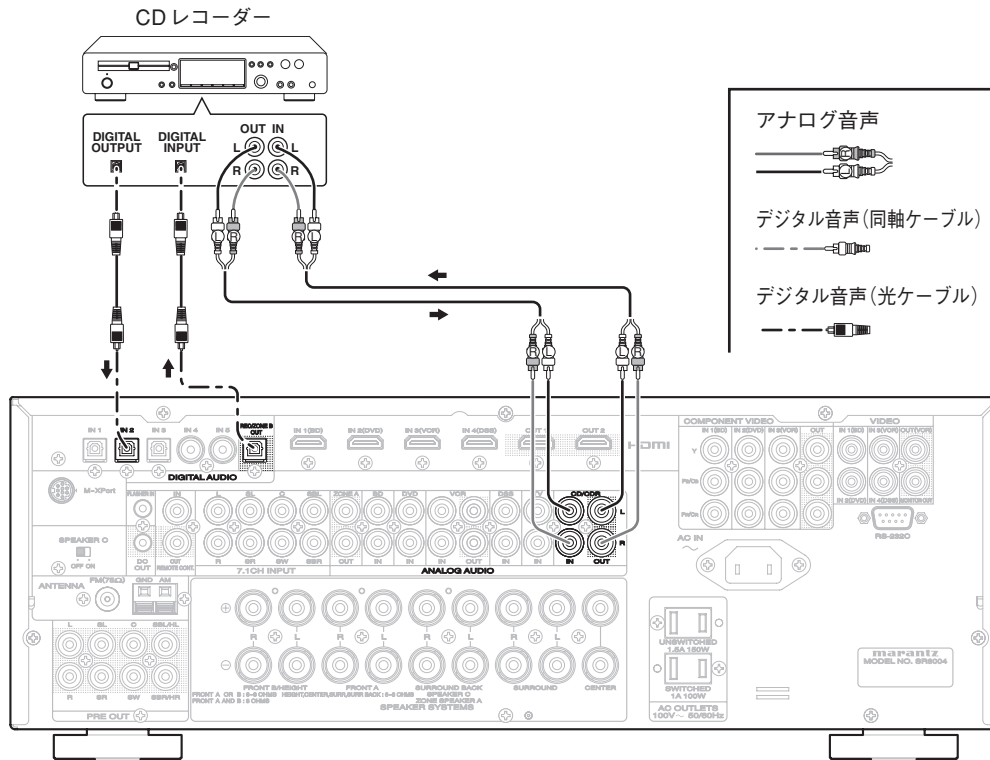
スピーカーコードの接続

1. コードの被ふくを約10mm はがします。
2. ショート防止のため、コードの芯線部分をきつくよじってください。
3. スピーカー端子を左方向に回して緩めます。
4. スピーカー端子の側面にある穴にスピーカーコードの芯線部分を挿入します。
5. スピーカー端子を右方向に回して、締めます。

バナナプラグとの接続

バナナプラグを差し込みます。

オーディオ機器との接続

VCR 出力端子と CD/CDR 出力端子の出力は、現在選択されているアナログ入力ソースの音声です。

ご注意

- すべての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- L（左）チャンネルとR（右）チャンネルを正しく接続してください。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続する機器については、機器の取扱説明書を参照してください。
- 接続したケーブルを電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音が発生することがあります。

デジタル音声機器の接続

- リアパネルには光デジタル入力端子が 3系統と同軸デジタル入力端子が2系統あります。
  これらの端子に、CD、DVD、その他のデジタルソース機器のPCM、Dolby Digital、DTS ビットストリーム信号を入力することができます。
- リアパネルには光デジタル出力端子が 1系統あります。この端子はCD レコーダーやMDレコーダーの光デジタル入力端子に接続することができます。この端子をゾーン B出力として使用する場合は録音用出力として使用することはできません。
- DVDプレーヤーやデジタル入力端子に接続されたその他のデジタルソースの音声形式の設定については、各機器の取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2、3 入力端子には光ファイバーケーブルをご使用ください。DIG-4、5 入力端子では75Ωの同軸ケーブル（デジタル音声用または映像用）をご使用ください。
- お持ちの機器に応じて、それぞれのデジタル入出力端子への入力を指定することができます。23ページをご覧ください。

ご注意

- 本機のデジタル信号端子はEIA規格に準拠しています。この規格に準拠しないケーブルを使用すると雑音が発生したり音が途切れたりすることがあります。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。
  デジタル端子とアナログ端子に入力された信号は、対応するデジタル端子とアナログ端子にそれぞれ出力されます。

基本接続

ビデオ機器との接続

ビデオ、S- ビデオ、コンポーネント端子

本機には３つのタイプの映像端子があります。

VIDEO（ビデオ）端子

ビデオ端子の映像信号は従来の複合（コンポジット）映像信号です。

S-VIDEO（S- ビデオ）端子

S- ビデオ端子の映像信号は輝度信号（Y）と色信号（C）に分離して伝送します。

コンポーネント（色差ビデオ）端子

コンポーネントビデオ信号は輝度信号（Y）緑、色差信号（PB）青、色差信号（PR）赤の３本から構成されており、より高品質な映像再生ができます。ご使用の映像機器にコンポーネントビデオ出力端子がある場合はコンポーネントビデオ出力の使用をお勧めします。

ビデオカメラ、ポータブル DVD プレーヤー、ゲーム機など

ご注意

- 音声チャンネルの L（左）R（右）を正しく接続してください。赤いコネクターは R（右）チャンネル用、白いコネクターは L（左）チャンネル用です。
- 入力と出力を正しく接続してください。
- お手持ちの DVD プレーヤーなどデジタルソース機器のデジタル音声出力形式を設定しなければならない場合があります。
  接続した各機器の取扱説明書を参照してください。
- 本機には「ビデオコンバート機能」があります。映像の入出力については 42 ページを参照してください。
- AUX のビデオと S ビデオは同時に使用することはできません。S ビデオ入力を使用するときはビデオ入力には何も接続しないでください。

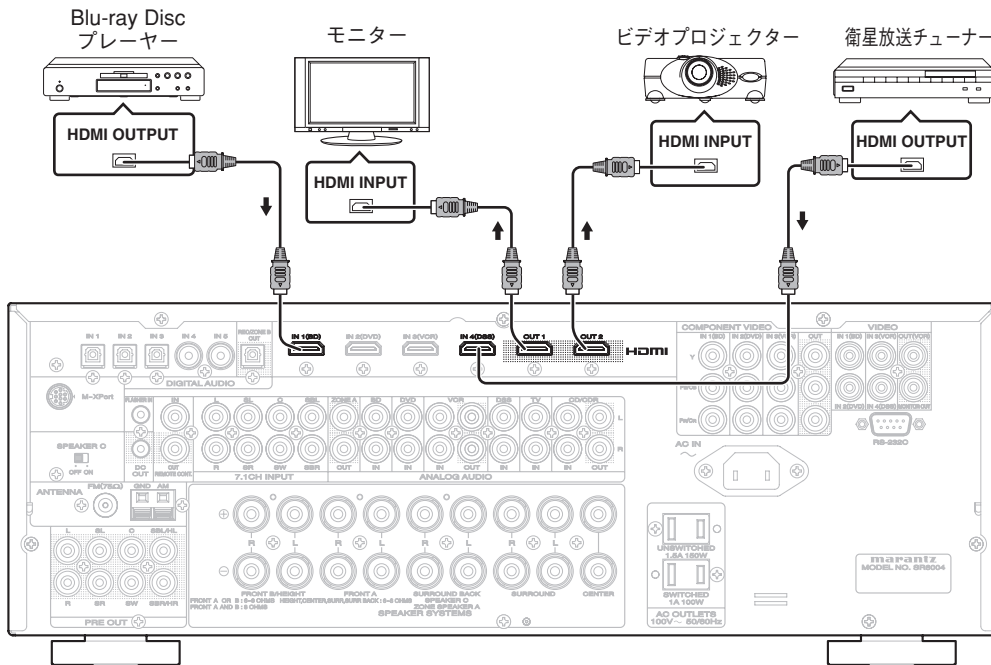
HDMI 対応機器の接続

HDMI 端子

本機にはHDMI入力端子が4系統、HDMI出力端子が2系統あります。この端子はBlu-ray Discプレーヤーやその他のソースから直接ディスプレイ機器にデジタル映像および音声信号を送ります。そのためアナログ変換による信号の劣化を最小限に抑えることができるので、高品質の映像をお楽しみいただけます。

ご注意

- HDCP* に対応していないモニター機器にHDMI 出力を接続しても信号は出力されません。HDMIの映像を見るには、HDCPに対応した機器に接続してください。
- HDMI端子の詳細については、本機に接続するTVまたはディスプレイ機器の取扱説明書を参照してください。

* HDCP: 高帯域デジタルコンテンツ・プロテクション

HDMI 対応機器の接続

市販のHDMIケーブルを使用して本機のHDMI端子とBlu-ray Discプレーヤー／DVDプレーヤー／TV／プロジェクターなどのHDMI端子を接続します。
HDMI端子のマルチチャンネルオーディオ伝送には、対応したプレーヤーが必要です。

ご注意

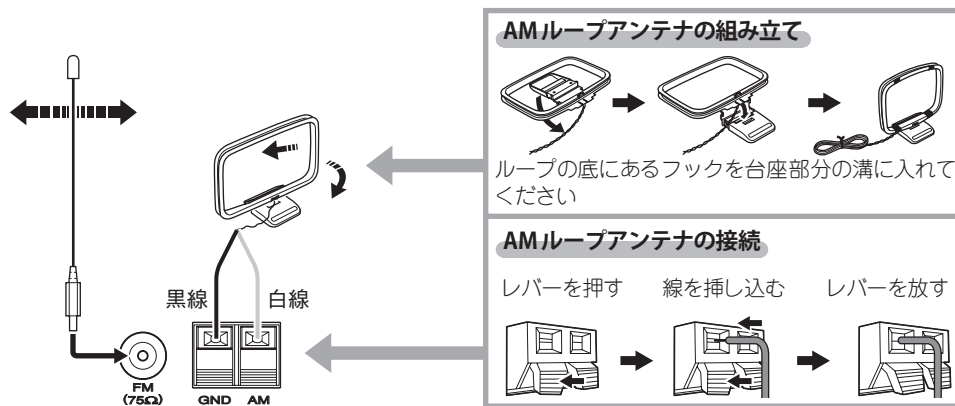
- DVDプレーヤーなどのソース機器の中にはHDMIリピーター動作に対応しない機器があります。このときTVまたはプロジェクターなどのモニター機器には出力されません。
- 複数の機器を接続したときは、お互いの干渉を防ぐため、使わない機器の電源を切ってください。
- 電源が入った状態でケーブルを抜き差しすると、故障の原因になります。電源を切った状態でケーブルの抜き差しをおこなってください。
- 本機のHDMI端子は下記の機能に対応しています。
  - Deep Color
  - Dolby TrueHD
  - DTS-HD Master Audio
  - スーパーオーディオCD
  - DVD-Audio

  詳細は接続する機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI端子から入力された音声信号でマルチチャンネルPCMおよびサンプリング周波数64kHz以上の信号はDIGITAL OUT端子から出力されません。
- HDMI信号は、使用するケーブルの品質によってノイズの影響を受けることがあります。
- 本機はHDMIコントロールに対応していません。しかし、本機をHDMIコントロールに対応した機器間に接続し、HDMIコントロール信号をスルーして制御をおこなうことができます。(HDMIコントロールスルー)
  HDMI OUTPUT 2はHDMIコントロールスルーに対応していません。HDMIコントロールスルーを使用する場合は、HDMI OUTPUT1を使用してください。なお、HDMI入力はすべてHDMIコントロールスルーに対応しています。
  HDMIコントロールとは、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を用いた機器間相互制御の機能です。HDMIケーブルでつなぐことにより、機器間で連動した操作をおこなうことができます。

基本接続

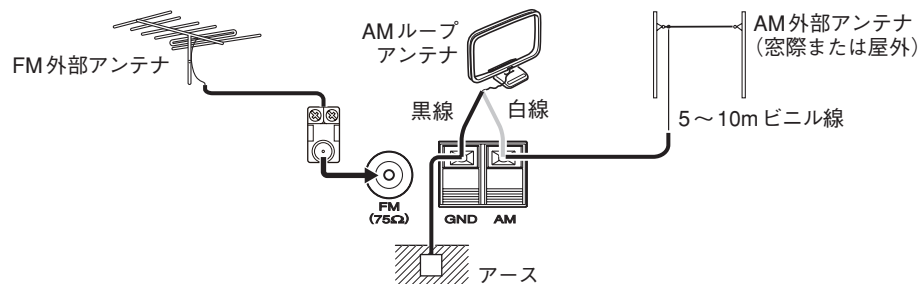
アンテナの接続

付属アンテナの接続

FM／AM 放送を聴くときはアンテナを接続してください。付属のアンテナは室内でご使用ください。

ご注意

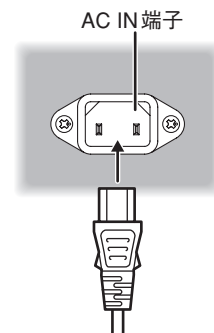
- 付属のFMアンテナを使用する際アンテナ線を伸ばし、最もクリアに受信できる位置に固定してください。
- 付属のAMアンテナを使用する際アンテナ線を本機、テレビや電源コードからなるべく遠ざけて、最もクリアに受信できる方向に向けてください。

屋外アンテナの接続

受信状態が良くない地域では、屋外アンテナ（別売り）を設置することをお勧めします。
アンテナを設置するときは雑音源（ネオンサイン、交通量の多い道路、送電線、変圧器など）から離してください。

ご注意

- AM屋外アンテナを使用するときも、AMループアンテナは取り外さないでください
- 付属のFMアンテナは接続しないでください
- 本機のGND端子は安全用アースではありません。

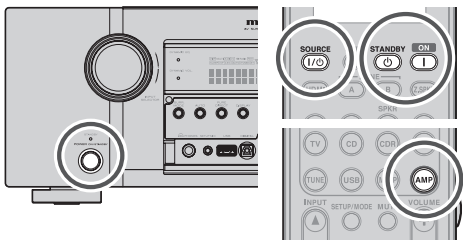
電源コードの接続

1. 付属の電源コードを本機の後面のAC IN端子に差し込んでください。

2. 電源プラグをコンセントに差し込んでください。

基本操作

基本操作

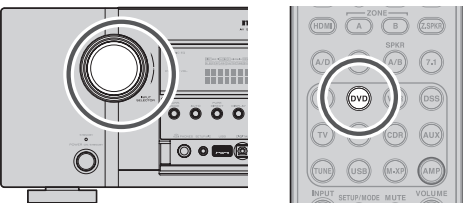
アンプ操作

電源を入れる

1. 視聴したいAV機器（DVDプレーヤーなど）の電源を入れます。
2. 本機の **POWER ON/STANDBY**ボタンを押します。ボタンを押すたびにオンとスタンバイに切り替わります。

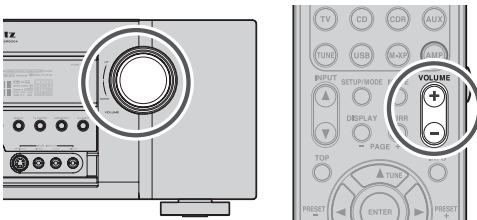
   リモコンで操作するには、**AMP**ボタンを押したあとで **ON**または **STANDBY**ボタンを押してください。

入力ソースの選択

例：DVDを再生する

（本機で操作する場合）
INPUT SELECTOR つまみを回して DVD を選択します。
（リモコンで操作する場合）
リモコンの **DVD** ボタンを 2 回続けて押します。

- 入力ソースが変わるとフロントパネルの表示部およびモニター画面に入力ソース名が表示されます。
- ファンクションリネーム機能を使用している場合は設定した名前が表示されます。（24ページ参照）
- 入力ソースが変わると、ソースに応じてサラウンドモードなどの設定が前回メモリーされた内容に変わります。
- チューナー（FMまたは AM）を選択したときは、直前に選択されていた映像が引き続き出力されます。

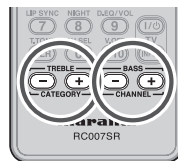
音量を調整する

フロントパネルの **VOLUME** つまみ、またはリモコンの **VOLUME ＋ / －**ボタンで、お好みの音量に調節します。

音量を上げるには、**VOLUME** つまみを右に回すか、リモコンの **VOLUME ＋**ボタンを押します。
音量を下げるには、**VOLUME** つまみを左に回すか、リモコンの **VOLUME －**ボタンを押します。

ご注意

- 音量は－∞と -71 から＋18 dB の範囲で 1 dB 単位で調整できます。
- CHANNEL LEVEL 設定でチャンネルのレベルを＋ 1 dB 以上に設定した場合、最大音量は+18 dB より小さくなります。（31 ページ参照）
- 本機の電源を切っても音量は記憶されていますが、+9dB 以上に設定されていた場合、次回の電源オン時には +8dB に設定されます。

トーンを調整する

お好みや部屋の音響に合わせて低音域（BASS）と高音域（TREBLE）を調整することができます。
1dB ステップで +/-6dB まで調整できます。

リモコンの **AMP** ボタンを押します。
低音域を調整するには **BASS+** または **BASS-** ボタンを押します。
高音域を調整するには **TREBLE+** または **TREBLE-** ボタンを押します。

ご注意

トーンコントロール機能は、以下のモードではご使用できません。

- ソースダイレクト、ピュアダイレクトモードおよび7.1ch インプットモード
- Dolby Virtual Speaker モードおよび Dolby Headphone 使用時
- Dolby TrueHD 192 kHz および 176.4/192kHz PCM 再生中
- アコースティックイコライザーまたは M-DAX 使用時

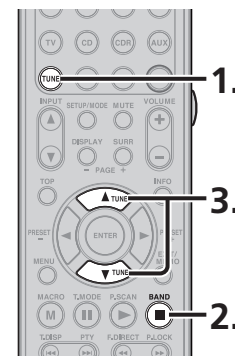
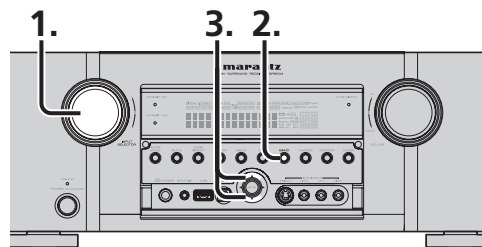
一時的に消音（ミュート）する

電話がかかってきたときなどに、一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。

1. リモコンの **MUTE**ボタンを押すと、本機のディスプレイおよびモニターテレビに "MUTE" と表示され、スピーカーから音が出なくなります。録音出力が途切れることはありません。
2. 再度リモコンの**MUTE**または**VOLUME ＋/－**ボタンを押すとミュートは解除されます。

チューナー（FM ／ AM）を聴く

チューナー機能の操作をリモコンでおこなう場合は、リモコンをチューナーモードにしてから操作をおこないます。

オートチューニング

（本機で操作する場合）

1. **INPUT SELECTOR**つまみを回してチューナー（FMまたは AM）を選択します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたは AM）を選択します。
3. ▲または ▼ボタンを 1秒以上押し続けると、オートチューニングモードになりスキャンを開始します。
4. 放送局を受信するとスキャンは停止して放送を聴くことができます。スキャン中に▲または ▼ボタンを押すとスキャンは停止します。

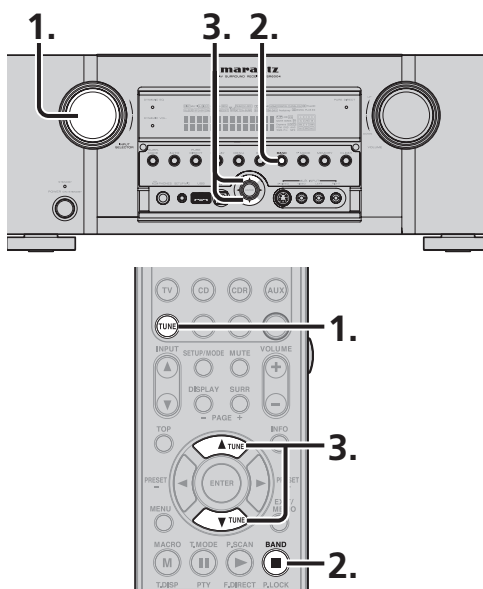
基本操作

（リモコンで操作する場合）

1. **TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. **▲TUNE**または**▼TUNE**ボタンを1秒以上押すと、オートチューニングモードになりスキャンを開始します。
4. 放送局を受信するとスキャンが停止して放送を聴くことができます。スキャン中に**▲TUNE**または**▼TUNE**ボタンを押すとスキャンは停止します。

ご注意

受信状態が良くない場合、スキャンが停止しないことがあります。その場合はマニュアルチューニングまたはダイレクトチューニングをおこなってください。

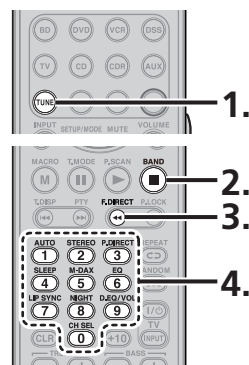
マニュアルチューニング

（本機で操作する場合）

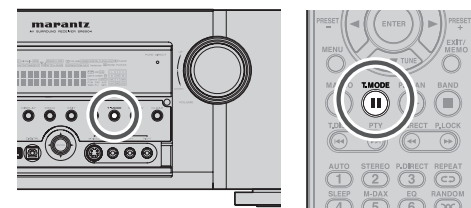
1. **INPUT SELECTOR**つまみを回してチューナー（FMまたはAM）を選択します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. ▲または▼ボタンを押して聴きたい放送局の周波数に合わせます。

（リモコンで操作する場合）

1. **TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. **▲TUNE**または**▼TUNE**ボタンを押して聴きたい放送局の周波数に合わせます。

ダイレクトチューニング

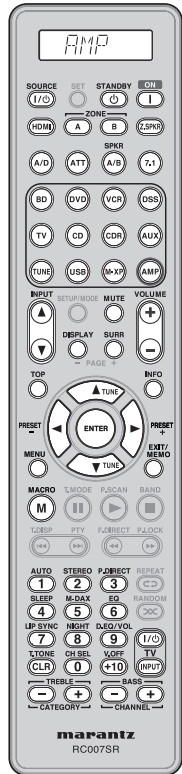
聴きたい放送局の周波数がわかっている場合には、周波数を直接入力することができます。

1. **TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. **BAND**ボタンを押して聴きたいバンド（FMまたはAM）を選択します。
3. **F.DIRECT**ボタンを押すと本機のディスプレイに「FREQ---」と表示されます。
4. 数字ボタンで聴きたい放送局の周波数を入力します。
5. 入力した周波数が選局されます。

FM受信モードを切り替える

通常はFMオートステレオモードで使用しますが、受信状態が良くない放送局では雑音が目立つことがあります。
その場合にはFMモノモードに切り替えると雑音が軽減され聴きやすくなります。

1. **T-MODE**ボタンを押すとディスプレイのAUTOインジケーターが消灯しモノモードになります。
2. もう一度**T-MODE**ボタンを押すとAUTOインジケーターが点灯しオートステレオモードになります。

リモコンで本機を操作する

付属リモコンを使って本機を操作するには、**AMP** ボタンまたは **TUNE** ボタンを押してください。アンプおよびチューナーの詳細については以下を参照してください。

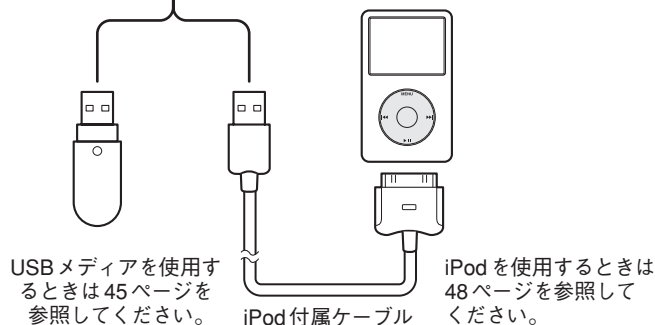
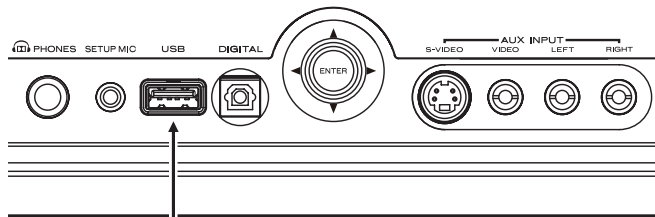
アンプモード

SOURCE ON/OFF	本機の電源オン／スタンバイ
STANDBY	本機の電源をスタンバイ
POWER ON	本機の電源をオン
HDMI	HDMI 出力 1／2 切り替え
ZONE A/B	ゾーン A または B をオン／オフ切り替え
Z.SPKR	ゾーンスピーカー A をオン／オフ切り替え
A/D	HDMI／デジタル／アナログ入力の切り替え
ATT	アナログ入力のレベルを減衰
SPKR A/B	フロントスピーカーシステムの A／B 切り替え
7.1	7.1CH INPUT のオン／オフ切り替え
SOURCE	ソース機器を選択
AMP	リモコンをアンプモードに設定
INPUT ▲/▼	本機の入力セレクターを切り替え
DISPLAY	フロントパネルのディスプレイモード切り替え
MUTE	一時的にミュート（消音）
SURR	サラウンドモードの切り替え
VOLUME+/–	音量の調整
TOP	セットアップメニュー表示中にトップに戻る
INFO	現在の設定をモニター画面に表示
カーソル	セットアップメニュー表示中にカーソル移動
ENTER	セットアップメニュー表示中に設定の確認
MENU	セットアップメニューを表示
EXIT	セットアップメニューを終了
MACRO	マクロモードを選択
AUTO（1）	オートサラウンドモードを選択
STEREO（2）	ステレオモードを選択
P.DIRECT（3）	ソースダイレクト／ピュアダイレクトモード切り替え
SLEEP（4）	スリープタイマーの設定／解除
M-DAX（5）	M-DAX モードの切り替え
EQ（6）	EQ モードの切り替え
LIP SYNC（7）	リップシンクの時間設定
NIGHT（8）	ナイトモードのオン／オフ
D.EQ/VOL（9）	Audyssey Dynamic EQ/Dynamic Volume モードを選択
T.TONE（CLR）	テストトーンメニューを開始
CH SEL（0）	スピーカーレベルまたは 7.1ch レベルの調整
V.OFF（+10）	モニター画面の映像をオン／オフ
TV POWER	モニターテレビの電源オン／オフ
TV INPUT	モニターテレビの入力切り替え
TREBLE–/+	高音域の調整
BASS–/+	低音域の調整

チューナーモード

HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
INFO	プリセットメモリーされた情報をリスト表示
TUNE ▲/▼	受信周波数を調整
PRESET +▶/–◀	プリセットメモリーされた放送局を選択
EXIT/MEMO	プリセットメモリーの登録
T.MODE	FM オートステレオ／モノを切り替え
P.SCAN	プリセットスキャンを開始
BAND	受信バンド（FM／AM）切り替え
F.DIRECT	受信周波数を数字キーで入力
0-9	周波数やメモリーチャンネルを入力
CLR	入力を取り消し
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え

応用接続

USB メディア /iPod の接続

本機に USB メディアや iPod を接続します。

アドバイス

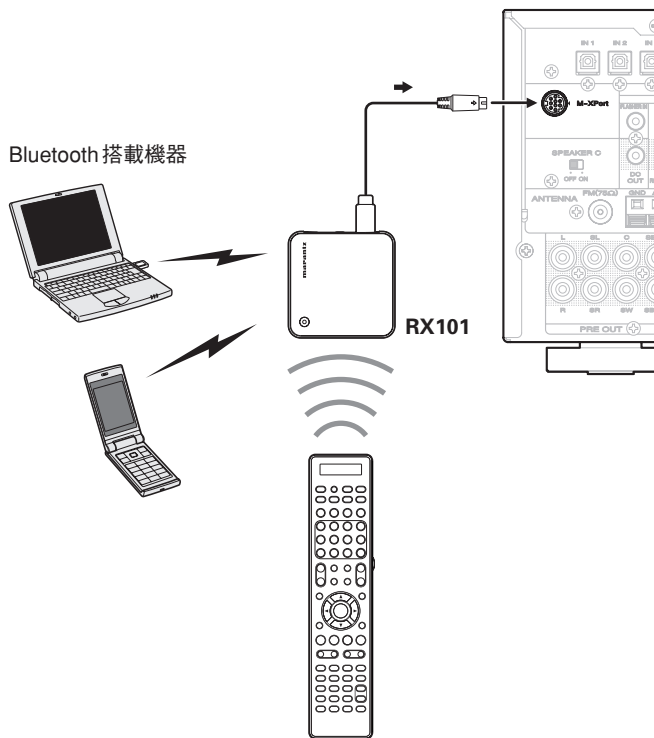
なるべく本機の電源を切ってから USB メディアや iPod を取り外してください。
電源が入っているときに USB メディアや iPod を外すと、データが失われたり、USB メディアや iPod が損傷することがあります。

ご注意

USB 延長用ケーブルはご使用にならないでください。

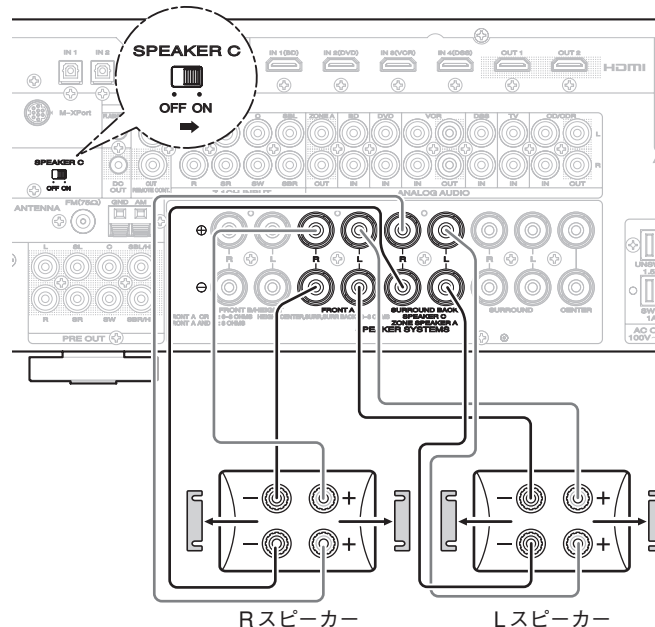
ワイヤレスレシーバー RX101 との接続

本機の M-XPort（Marantz-eXtension Port）端子に付属のワイヤレスレシーバーRX101 を接続することができます。

- 設置や操作方法については、RX101に付属している取扱説明書をお読みください。

スピーカー C を使用した接続例（バイアンプ接続）

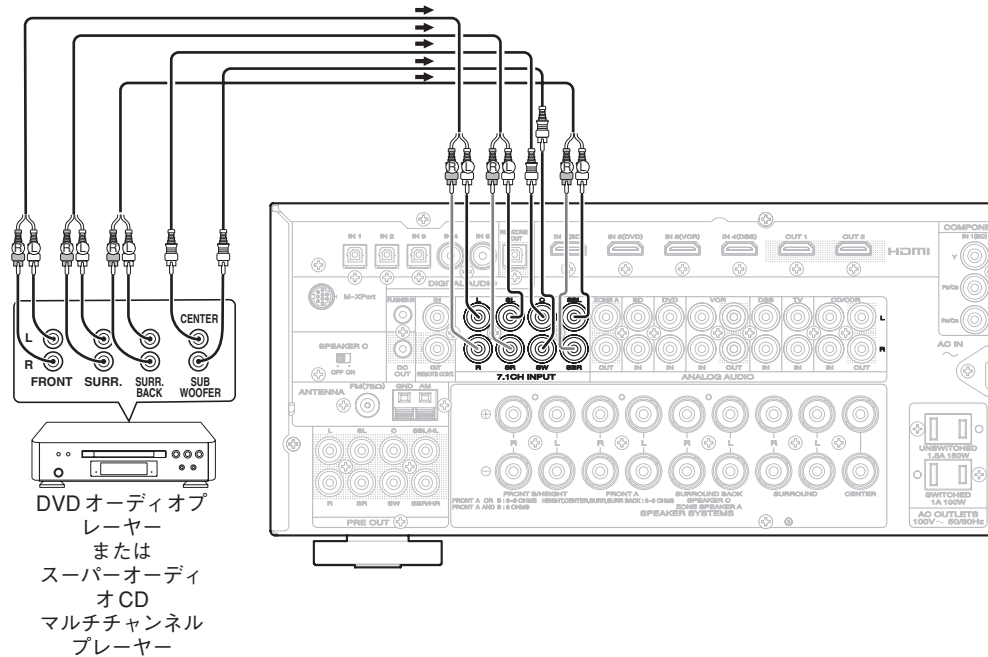
2 組の入力（高音用 ＆ 低音用）があるスピーカーに、バイアンプ接続ができます。
これは低音用と高音用のユニットを別々のチャンネルのアンプでドライブできることを意味しています。
従来の AV アンプでは難しかった低能率のスピーカーもバイアンプドライブで、より高音質が楽しめます。
接続は図を参照してください。リアパネルの SPEAKER C 切り替えスイッチを ON にします。

ご注意

- 接続を間違えると本機の保護回路がはたらきスタンバイ状態になります（スタンバイインジケーターが点滅します）。このような状態になったときはスピーカーと本機の接続を再確認してください。
- SPEAKER Cセレクタースイッチの設定を変える前に本機の電源を切ってください。
- スピーカーはバイアンプ対応のスピーカーをご使用ください。
- 接続する際、スピーカーのショートバーは必ず外してください。

ご注意

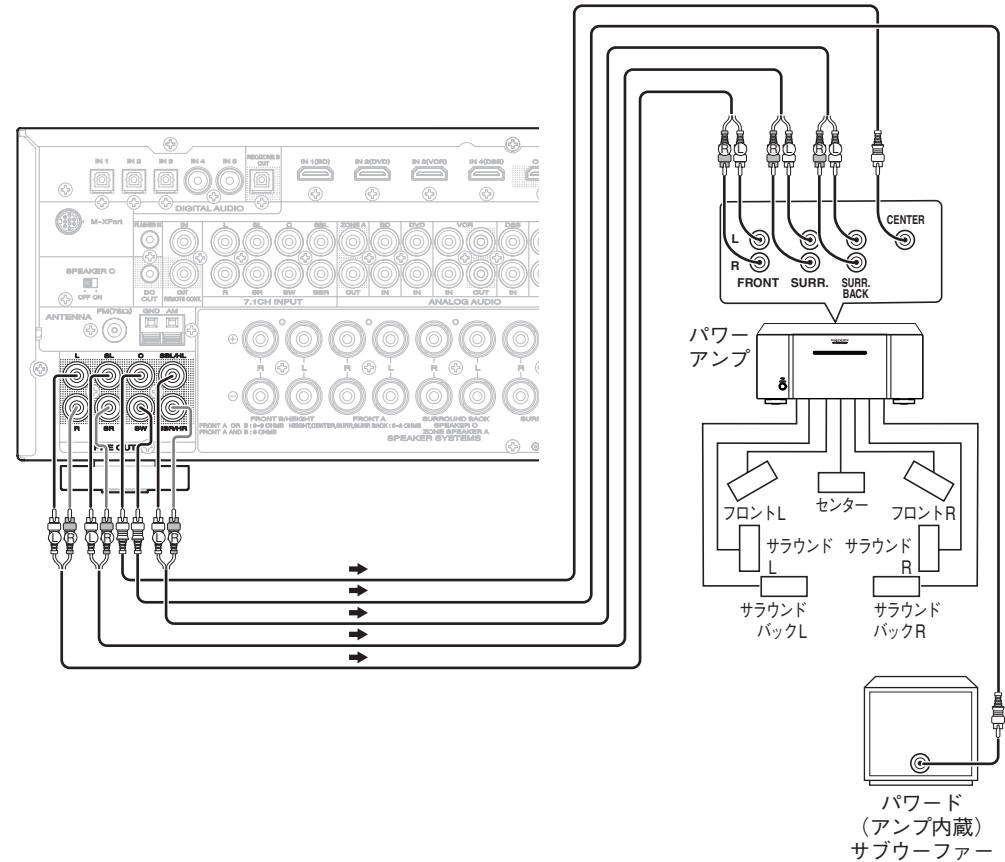
サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、本機のサラウンドバックスピーカー端子をゾーン A スピーカー端子またはスピーカーC 端子として使用できます。

マルチチャンネルオーディオ機器との接続

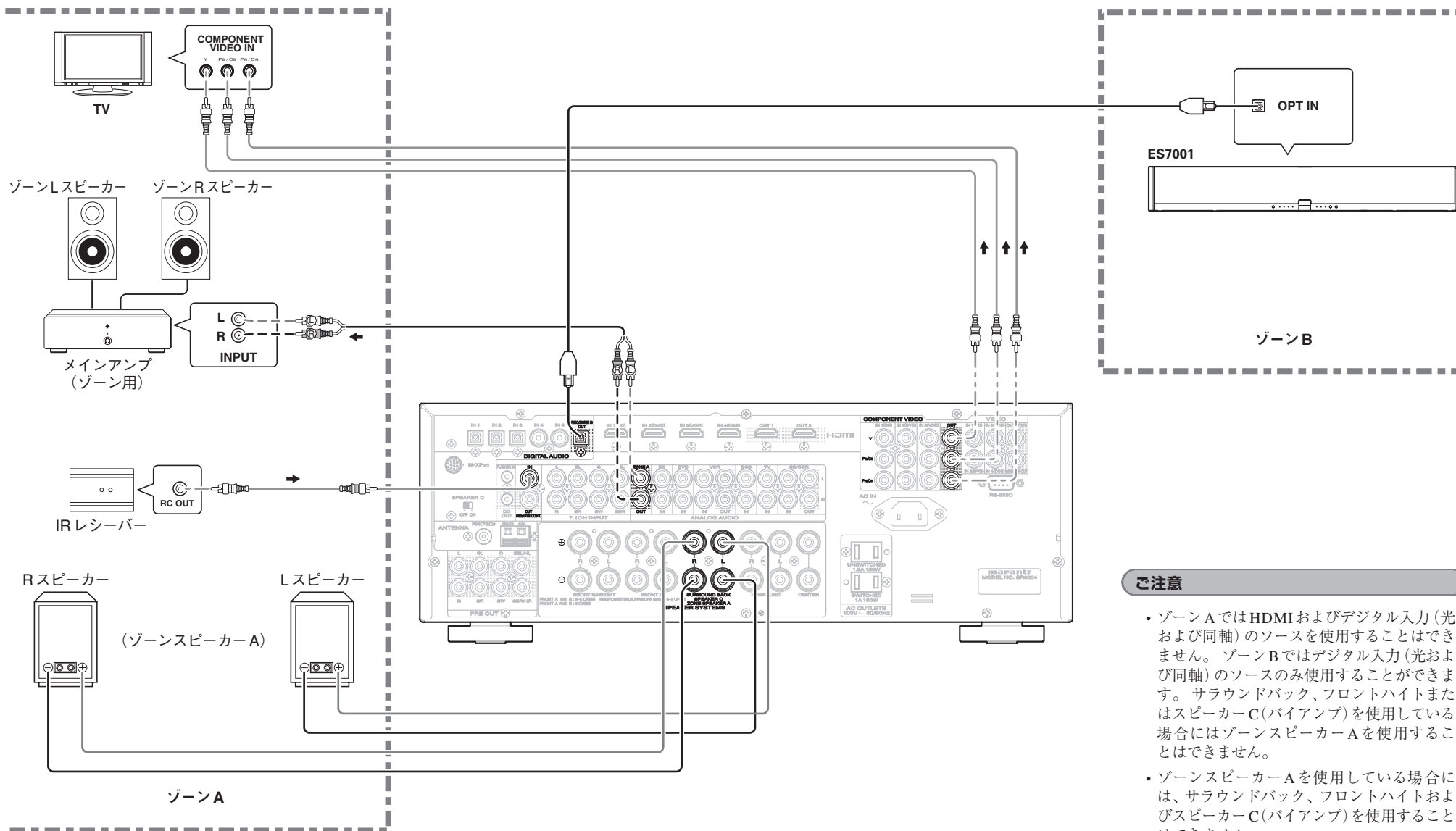
7.1CH 音声入力端子は、スーパーオーディオ CD マルチチャンネルプレーヤー、DVD オーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の端子です。
これらの端子を使用する場合には、7.1 CH INPUT に切り替え、セットアップメニューを使用して、7.1 CH 入力レベルを設定してください。（24、40 ページ参照）

パワーアンプとの接続

パワーアンプ単体をシステムに追加することで、さらにホームシアターの臨場感を高めることができます。プリアンプ音声出力端子をパワーアンプと接続し、それぞれのスピーカーと、それに対応するパワーアンプを接続してください。

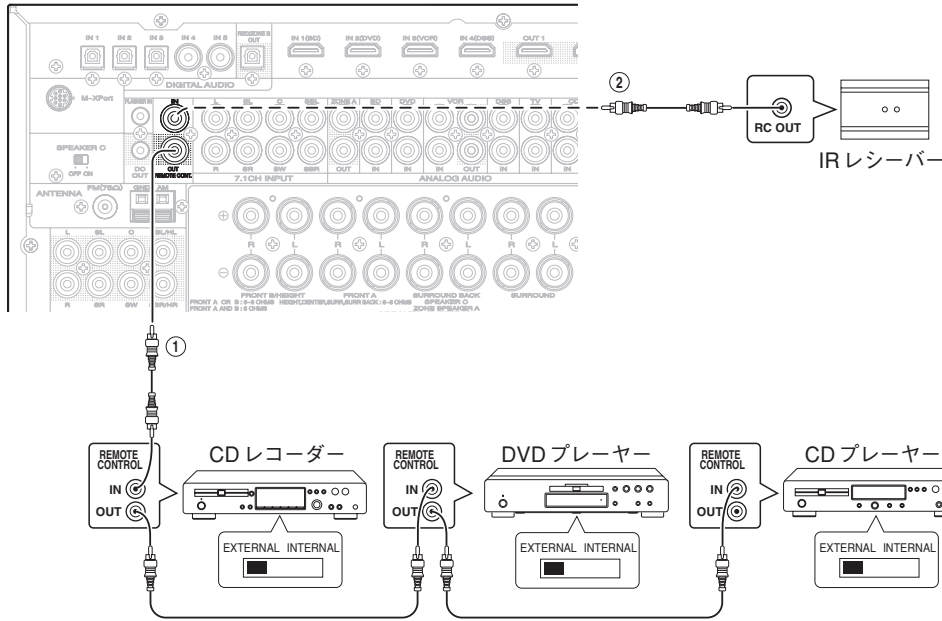
ご注意

本機の Surround BACK プリアウト端子は、FRONT HEIGHT および ZONE SPEAKER A と兼用になっています。これらの端子からはいずれかの音声が出力されますのでご注意ください。

応用接続

マルチゾーン接続

図のようにマランツ製などのアンプと組み合わせることによって別室にて本機に接続された再生機器を使って音楽や映画鑑賞をすることができます。

ご注意

- ゾーンAではHDMIおよびデジタル入力（光および同軸）のソースを使用することはできません。 ゾーンBではデジタル入力（光および同軸）のソースのみ使用することができます。 サラウンドバック、フロントハイトまたはスピーカーC（バイアンプ）を使用している場合にはゾーンスピーカーAを使用することはできません。
- ゾーンスピーカーAを使用している場合には、サラウンドバック、フロントハイトおよびスピーカーC（バイアンプ）を使用することはできません。

リモートコントロールの接続

①
他のマランツ AV 製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。

- リモコン操作は本機に向けておこなってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- このリモートコントロール接続をおこなう場合、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチは、EXTERNALまたはEXT. に設定してください。
- マランツ製のパワーアンプ（一部のモデルを除く）をこれらの端子のいずれかに接続すると、パワーアンプの電源スイッチは本機の電源スイッチと連動して作動します。

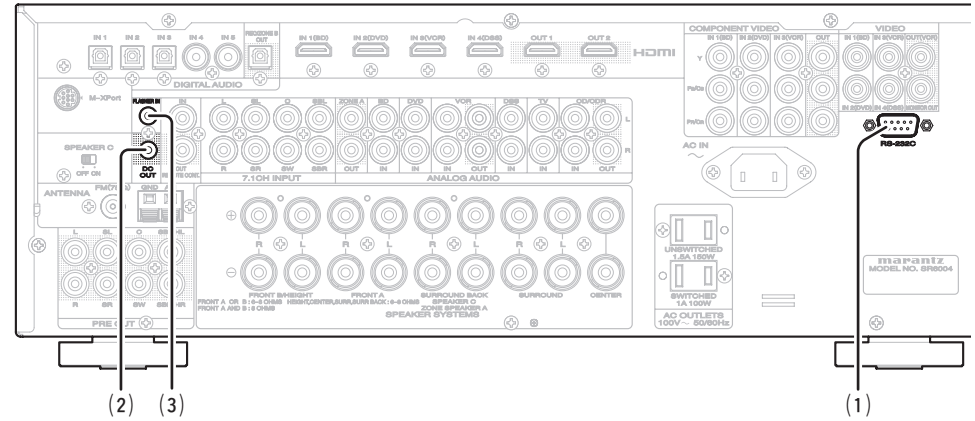
②
本機のリモートコントロール端子に外付け赤外受光部などを接続して操作する場合、必ず以下の手順に従って本機の赤外受光部の動作を無効にしてください。

1. フロントパネルの **SURROUND MODE**ボタンと**MENU**ボタンを同時に5秒間押し続けます。
2. FLディスプレイにIR＝ENABLEと表示されます。
3. ◀または▶**カーソル**を押してこれを IR = DISABLEに変更します。
4. **ENTER**ボタンを押します。この設定をおこなうと本機の赤外線受光部が無効になります。

ご注意

外付け赤外受光部などが接続されていない場合は、必ず「IR=ENABLE」に設定してください。「IR=DISABLE」に設定されていると、リモコンでの操作ができません。

5. 元の設定に戻すには、手順 **1**から **4**を繰り返し、IR＝ENABLEに設定してください。

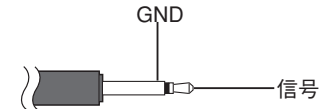
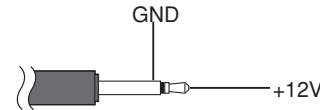
その他の接続

(1) RS232C

外部コントロール機器と接続します。（接続の際はストレートケーブルを用います。また、メンテナンス用にも用います。）

(2) DC OUT（DC トリガー）

DC TRIGGER 出力（12V）を外部機器と接続することによって外部機器をコントロールします。
出力電流は最大 44mA です。

(3) FLASHER IN

コントロール BOX 等を接続することにより本機をコントロールできます。

システムセットアップ

すべての機器の接続が終了したあと、GUI メニューシステムを用いて各種設定をおこなってください。

グラフィカル・ユーザー・インターフェース（GUI）メニューシステム

本機には GUI メニューシステムが搭載されています。このシステムを、リモコンまたはフロントパネルの**カーソル**ボタン ▲/▼/◀/▶ と **ENTER** ボタンを用いて様々な設定をおこないます。

ご注意

「システムセットアップ」はすべて GUI メニューを見ながら設定をします。GUI メニューシステムを見るためには、お手持ちの TV またはプロジェクターのビデオ入力を本機のリアパネルの MONITOR OUT 端子に接続してください。（12、13 ページ参照）

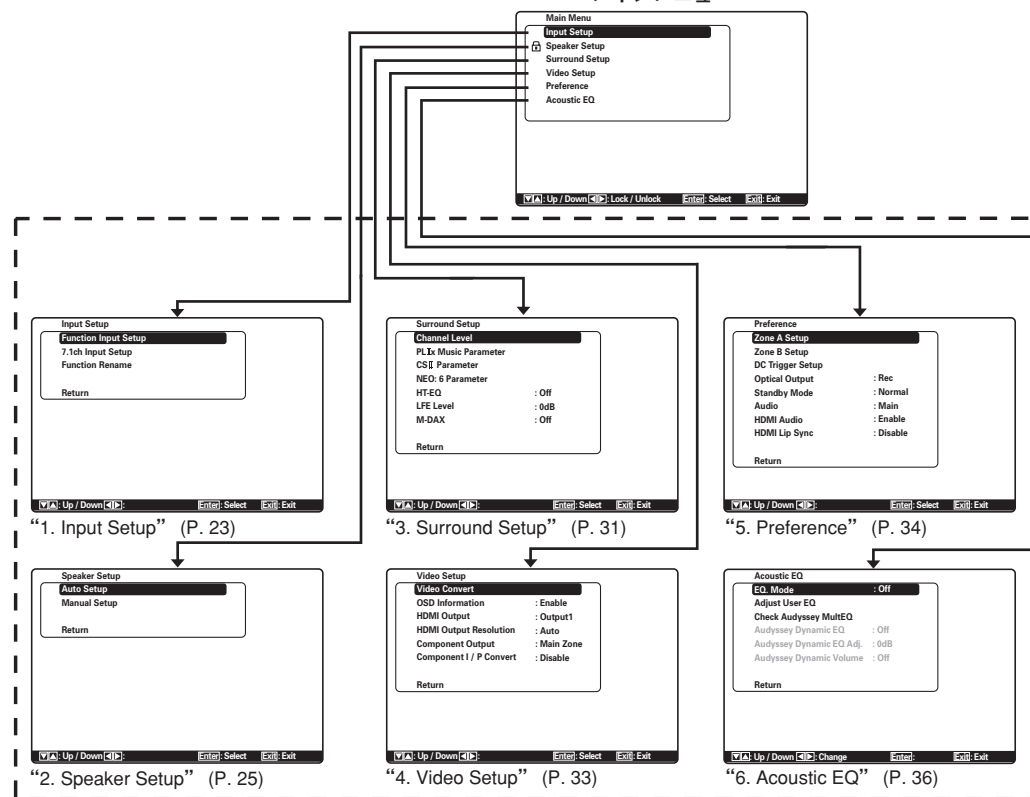
1. リモコンの**AMP**ボタンを押します。（本機でセットアップメニューを操作する場合は、この操作をする必要はありません。）
2. リモコンの**MENU**ボタンまたは本機の**MENU**ボタンを押します。
   モニターに GUIメニューシステムの「Main Menu」が表示されます。
   Main Menuには6つの設定項目があります。
3. **カーソル**ボタン ▲/▼で希望するサブメニューを選択し、ENTERボタンを押します。
   選択したサブメニューが表示されます。

アドバイス

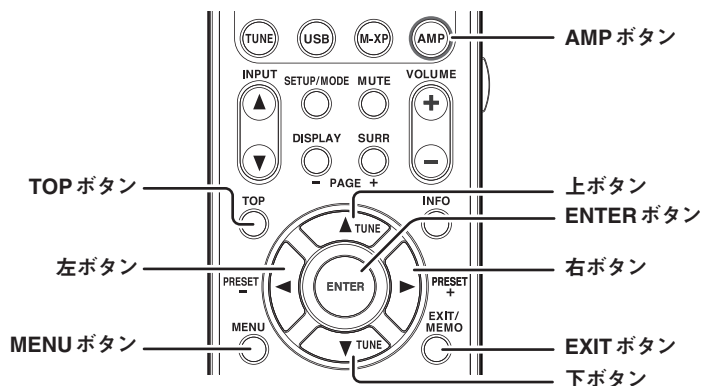
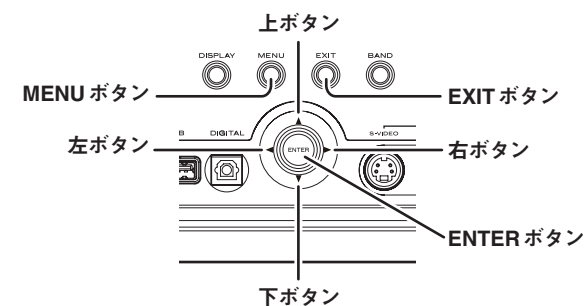
- 設定した項目を安易に変更できなくするために、ロック機能があります。
- ロック機能は Main Menu の 1 ～ 6 の各項目ごとに設定することができます。

ロック機能の設定手順

1. Main Menuを表示させてロックを設定したい項目を**カーソル**ボタン▲/▼で選択します。
2. **カーソル**ボタン ◀/▶を押して、🔒(鍵) アイコンがあらわれるようにします。
3. すべての項目に対して設定が終わったら、**EXIT**ボタンを押して終了します。

"1. Input Setup" (P. 23)
"3. Surround Setup" (P. 31)
"5. Preference" (P. 34)
"2. Speaker Setup" (P. 25)
"4. Video Setup" (P. 33)
"6. Acoustic EQ" (P. 36)

アドバイス

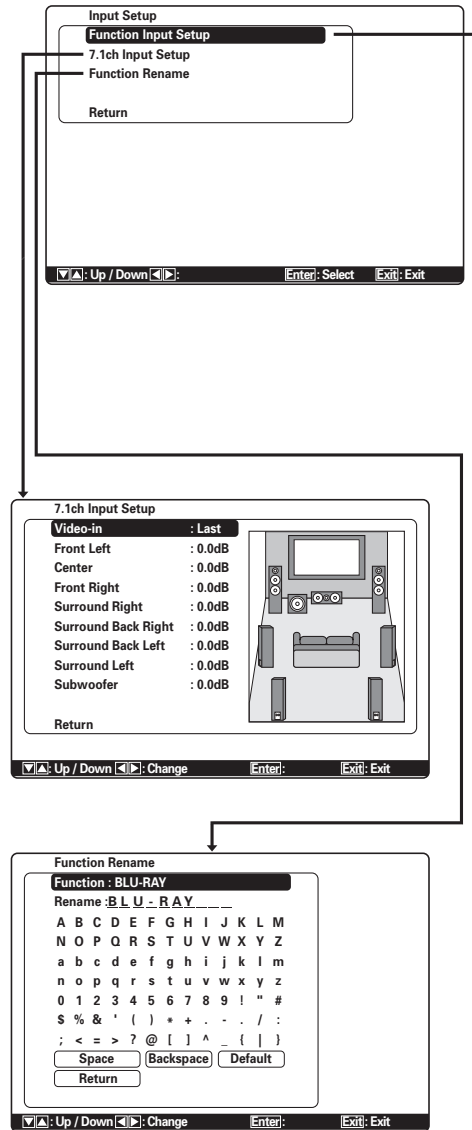
- サブメニューの設定が終了したあと、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「RETURN」に移動し、ENTER ボタンを押してメインメニューに戻ります。
- 他のサブメニューへ進むには、一旦メインメニューに戻るか、もしくはEXITで終了させ、再度GUI メニューシステムを起動させてください。
- リモコンの TOP ボタンを押すと、セットアップの設定の途中でメインメニューのトップ画面に戻ります。

RC007SR ボタンレイアウト

SR6004 ボタンレイアウト

1 INPUT SETUP

接続するオーディオ／ビデオ機器の出力と本機の各入力端子の関係を設定します。

- **Function Input Setup：**
  「1-1 FUNCTION INPUT SETUP」（23ページ参照）
- **7.1 ch Input Setup：**
  「1-2 7.1 CH INPUT SETUP」（24ページ参照）
- **Function Rename：**
  「1-3 FUNCTION RENAME」（24ページ参照）

1. Main Menuから**カーソル**ボタン▲/▼で「Input Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で設定するサブメニューを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

1-1 FUNCTION INPUT SETUP

FUNCTION INPUT SETUP では、本機のデジタル入力（Digital）、HDMI 入力（HDMI）、コンポーネントビデオ入力（Comp.）、ビデオ／S- ビデオ入力（Video）の各入力端子を本機の各 Function に自由に割り当てることができます。
また Function の Mode 設定では、各入力に対して優先順位を設定することができます。

1. Function Input Setupメニューから**カーソル**ボタン▲/▼で「FUNC INPUT SETUP」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

Function Input Setup

Function	Mode	Digital	HDMI	Comp.	Video
BLU-RAY	Auto	-	1	1	1
DVD	Auto	1	2	2	2
VCR	Auto	5	3	3	3
DSS	Auto	3	4	-	4
TV	Auto	4	-	-	Last
CD/CDR	Auto	2	-	-	Last
AUX	Auto	Front	-	-	(Front)
M-XPort	*	*	*	-	Last

Return

▼▲: Up / Down ◀▶:　Enter: Return　Exit: Exit

2. **カーソル**ボタン▲/▼/◀/▶で変更したい設定項目を選択します。

Mode（モード）

Auto:
入力信号を自動的に検出する場合は「Auto」を選択します。
HDMI 入力→デジタル入力→アナログ入力の順番に入力信号の検出がおこなわれます。
初期設定は Auto に設定されています。

HDMI:
HDMI 信号のみを使用する場合は「HDMI」を選択します。

Digital:
デジタル信号のみを使用する場合は「Digital」を選択します。

Analog:
アナログ信号のみを使用する場合は「Analog」を選択します。

Digital
希望するファンクションに 1 〜 5 までと F（フロント）デジタル入力を割り当てることができます。
デジタル入力端子の番号を割り当てます。

HDMI
HDMI 入力端子 1 〜 4 の番号を割り当てます。

ご注意

HDMI Audio が Through（スルー）に設定されていると、本機から音声を出力することはできません。（34 ページ参照）

Comp.
COMPONENT VIDEO 入力端子の番号 1 〜 3 を割り当てます。

Video
コンポジットビデオの入力端子 1 〜 4 を割り当てます。

ご注意

- ビデオ入力（Video）は同じ番号を別々のファンクションに割り当てることができます。
- ビデオ入力（Video）はLastに設定すると直前に選択していたファンクションのビデオ信号が出力されます。
- AUXのビデオ入力はフロントパネル上の入力端子が固定になっているため、他の入力端子を割り当てることはできません。

3. **ENTER**ボタンを押します。

4. **カーソル**ボタン◀/▶でそれぞれのモード設定と入力端子を選択します。

5. **ENTER**ボタンを押します。

6. 手順**2.**から**5.**までを繰り返して、各項目を設定します。

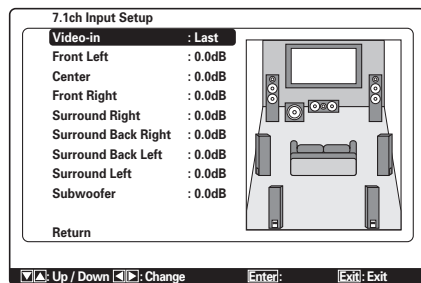
ご注意

- 割り当ての番号はリアパネルの入力端子番号です。番号をよく確認してください。
- 音声や映像が出力されない場合、入力端子番号を再確認してください。

システムセットアップ

1-2 7.1 CH INPUT SETUP

ここでは、7.1ch 入力ソース(7.1 CH IN 端子)のスピーカーレベルなどを設定します。
リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。

1. Input Setupメニューから **カーソル**ボタン▲/▼で「7.1 ch Input Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で「Video-in」を選択します。

3. **カーソル**ボタン◀/▶で、MONITOR OUT 端子から再生する映像入力ソースを選択します。
入力ソースは**カーソル**ボタン◀/▶で次の順で切り替えることができます。
Last ↔ BLU-RAY ↔ DVD ↔ VCR ↔ DSS ↔ TV ↔ CD/CDR ↔ AUX ↔ M-XPort ↔ Video-off ↔ Last ...

ご注意

- 「Last」を選択すると、7.1 ch入力モードが設定される前に選択されていたビデオソースが出力されます。
- 「Video-off」を選択すると、MONITOR OUT 端子から映像は出力されません。(GUIメニューは出力されます)。

4. **カーソル**ボタン ▲/▼で音量を調整したいチャンネルを選択します。

5. **カーソル**ボタン◀/▶で各チャンネルの音量を調整します。(各スピーカーからの音量を同一にします。)

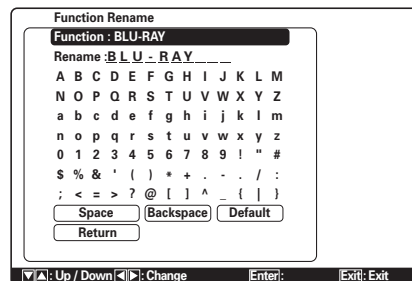
6. **カーソル**ボタン ▲/▼/◀/▶でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押して Input Setupメニューに戻ります。

ご注意

各スピーカーのレベルは－ 12 ～ ＋ 12dB の 0.5dB ステップで、サブウーファーは－ 18 ～ ＋ 12dB の 0.5dB ステップで設定できます。

1-3 FUNCTION RENAME

入力ファンクション名を任意の名前に変えることができます。
登録可能な最大文字数はスペースも含め 10 文字まで です。(文字はこの GUI メニューシステムに表示される文字から選びます) 登録したファンクション名は本機表示部と OSD インフォメーションに表示されます。
ただし、GUI メニューシステム内の項目には反映されません。

1. Input Setupメニューから、**カーソル**ボタン▲/▼で「Function Rename」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン ▲/▼で「Function」部を選択します。

3. **カーソル**ボタン◀/▶で入力ソースを選択します。

4. **カーソル**ボタン▲/▼で「Rename」部を選択します。

5. **カーソル**ボタン◀/▶で変更する位置へ移動します。(1文字目から 10文字目の間)

6. **カーソル**ボタン ▼でキャラクタ部「A」に移動します。(必ず最初は「A」に移動します。)

7. **カーソル**ボタン ▲/▼/◀/▶でキャラクタを選択します。

8. **ENTER**ボタンを押して確定します。

9. 手順**5.**から**8.**までを繰り返して、名前を入力します。

Backspace:
Rename 部の現在の位置を左に移動して 1 文字を消します。

Default:
Rename 部の名前を Function 部の名前と同じにもどします。

Space:
Rename 部の現在の位置を空白にします。

10. **カーソル**ボタン ▲/▼/◀/▶で「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押して Input Setupメニューに戻ります。

ご注意

すべてのリネーム文字をスペース(空白) にすることはできません。

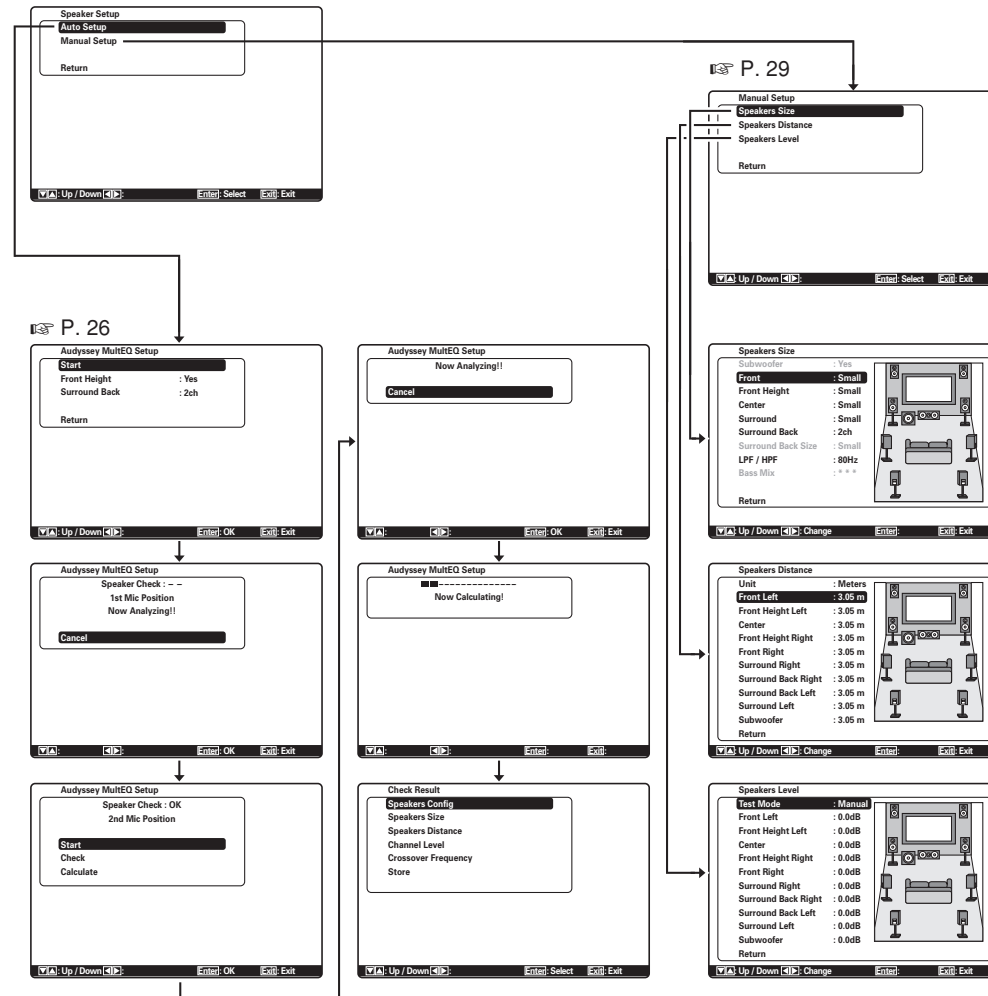
2 SPEAKER SETUP

本機を設置し、機器をすべて接続し、スピーカーの配置を決定したら、次に Speaker Setup メニューで室内環境とスピーカー配置に最適な値を設定します。

- **Auto Setup:**
  「2-1 AUTO SETUP（Audyssey MultEQ®）」（25ページ参照）
- **Manual Setup:**
  「2-2 MANUAL SETUP」（29ページ参照）

1. Main Menuから**カーソル**ボタン▲/▼で「Speaker Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で設定したいメニューを選択して**ENTER**ボタンを押します。

3. 各設定が終了したあと、**カーソル**ボタン▲/▼/◀/▶で「Return」を選択し、**ENTER**ボタンを押してサブメニュー（Speaker Setup）に戻ります。

2-1 AUTO SETUP（Audyssey MultEQ®）

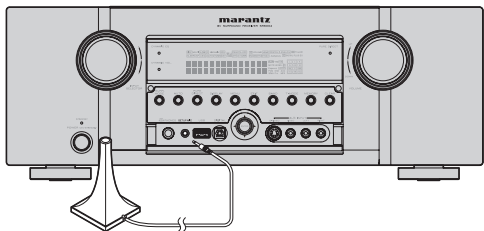
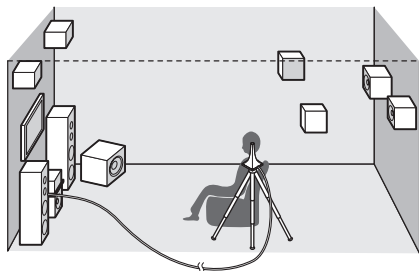
Audyssey MultEQ によるオートセットアップでは、リスニング環境の音響上の問題が自動測定され、最良の音響体験を生み出す設定に最適化されます。

Audyssey MultEQ は、スピーカーから出力される音の影響によって発生する室内における周波数特性の不調和を除去します。これにより、カラレーションが発生することなく、特定の位置だけでなく広いリスニングエリア全体で、意図したとおりの音質が再生されます。
Audyssey MultEQ では、室内の最大 6 ヶ所のリスニングポイントを測定し、スピーカーの有無を検出して、スピーカーサイズ、チャンネルレベル、距離、および最適なクロスオーバー周波数設定を自動計算します。

システムセットアップ

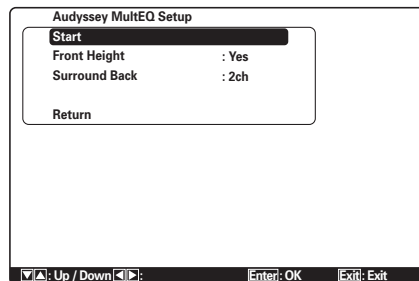
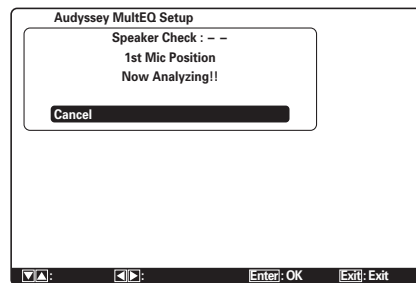
オートセットアップの操作のしかた

測定中は GUI メニュー画面に現在の状態が表示されるのでモニター機器の電源を入れてください。

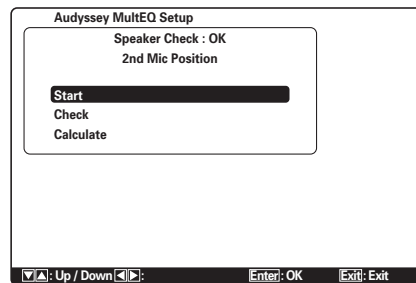
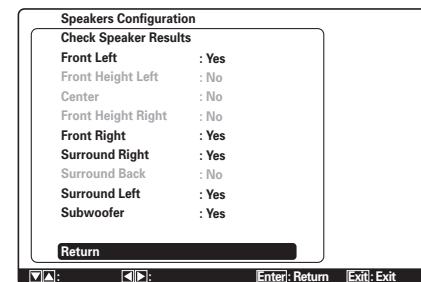
1. 付属のマイクを本機のMICジャックに接続します。

2. マイクをメインリスニングポイントに設置します。

ご注意

- 測定はメインリスニングポイントの近くで、最大6ヶ所でおこなうことができます。
  最初の測定はメインリスニングポイントにマイクを設置して測定をおこなってください。
- 測定するすべてのリスニングポイントに対して、マイクを天井にまっすぐ向けた状態で、スタンドや三脚を使用してマイクをリスニング時の耳の高さに合わせて設置してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物を置かないようにしてください。
- アンプ内蔵のサブウーファーを使用する場合はボリュームを中央に設定し、クロスオーバー周波数をオフまたは一番高い周波数に設定してください。
- 測定中は、マイクとスピーカーの間に立たないでください。室内はできるだけ静かにしてください。暗騒音が室内測定に影響を与える場合があります。窓を閉め、各種装置（携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、電化製品、調光器など）の電源を切ってください。
  測定時は、携帯電話をすべてのオーディオ電子機器から離れた場所に置いてください。携帯電話は、不使用時でも無線周波妨害（RFI）により測定に影響を与える場合があります。
  オートセットアップは、フロントパネルではなくリモコンで操作することをお勧めします。
- 各チャンネルから再生されるテストトーンの音量は、リスニング環境の周辺雑音を上回り、最適なS/N比が得られるまで大きくなります。

3. Main Menuで「Speaker Setup」を選択し、**カーソル**ボタン▲/▼で「Auto Setup」を選択し、**ENTER**ボタン押してスタート画面を表示させます。

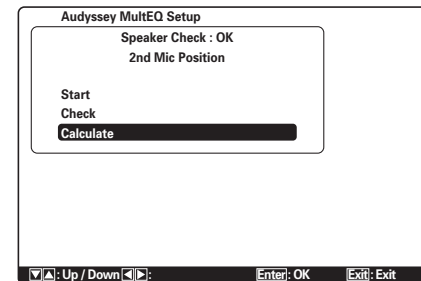
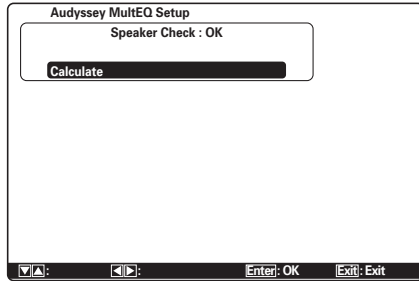
4. 使用しているサラウンドバックスピーカーのチャンネル数およびハイトスピーカーの有無を選択します。ご使用になられるスピーカーシステムの構成が 5.1チャンネルの場合はどちらも「No」（サラウンドバックスピーカー、ハイトスピーカーなし）を選択します。スピーカー Cまたは、ゾーンスピーカー Aをご使用の場合はどちらも「No」に設定します。（18、34ページ参照）
カーソルボタン▲/▼で「Start」を選択し、**ENTER**ボタンを押して測定を開始させます。

5. メインリスニングポイントとは、リスニング環境内でリスナーが主に座る、最も重要なポイントです。MultEQでは、このポイントからの測定値を使用して、スピーカーの距離、チャンネルレベル、極性、およびサブウーファーの最適なクロスオーバー値を計算します。

ご注意

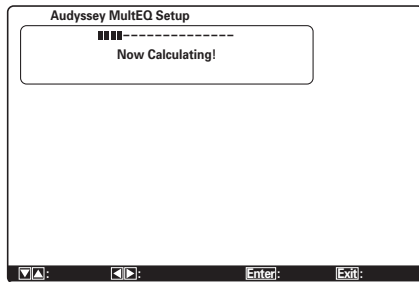
Speaker Check は接続されているスピーカーを検出します。
スピーカーが接続されていなければそれを検出して次のチャンネルへ進みます。

6. 1ポイント目のチェックが終わると次のようなGUI画面が表示がされます。

ここでチェックの結果を見る場合は**カーソル**ボタン▲/▼で「Check」を選択し、**ENTER**ボタンを押してチェック結果を表示させます。

エラーメッセージが表示された場合はその項目について適切な処理をおこなってから再測定をしてください。
（エラーメッセージは、「エラーメッセージについて」28ページを参照してください。）
チェック結果の確認が終わったら、**カーソル**ボタン▲/▼を押して「Return」を選択し、**ENTER**ボタンを押して下記のGUI画面に戻してください。
このとき、**EXIT**ボタンを押しオートセットアップを終了させることもできます。

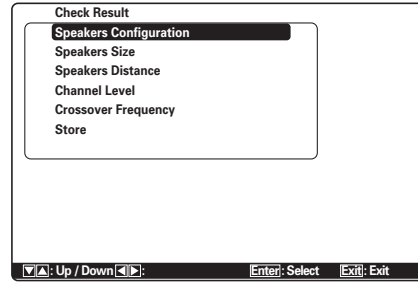
ご注意

オートセットアップは、ピュアダイレクト、ソースダイレクトまたは7.1チャンネル入力モードでは無効になります。

7. 2ポイント目のリスニングポジションにマイクを移動させてから**カーソル**ボタン▲/▼を押して「Start」を選択し**ENTER**ボタン押して2ポイント目の測定をおこないます。
このときに「Calculate」を選択して**ENTER**ボタンを押すと、 2ポイント目の測定をキャンセルして測定結果の解析をおこなうことができます。

8. **7.**の操作を繰り返してメインポジションとその周囲をあわせて 6ヶ所の測定をおこないます。
すべての測定が終わると次のGUI画面が出力されます。

カーソルボタン▲/▼を押して「Calculate」を選択し **ENTER**ボタン押し測定結果の解析をおこないます。

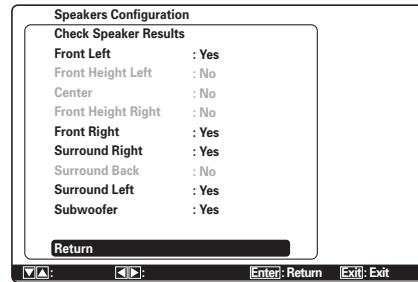
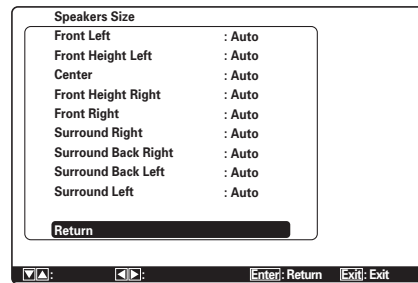
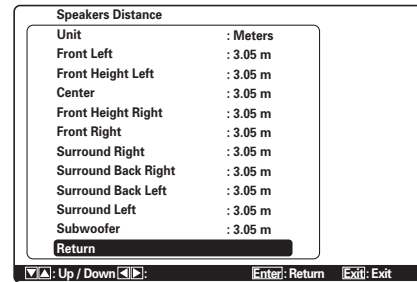
解析中は次のような GUI画面が表示されます。

ご注意

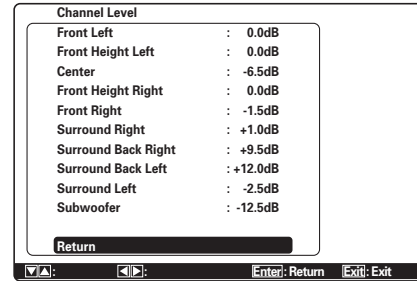
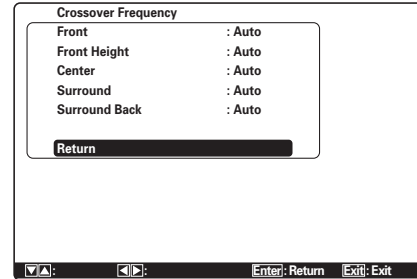
- 解析時間は接続されているスピーカーの数と測定ポイントに依存して、スピーカー数、ポイント数ともに、多くなると解析に要する時間も長くなります。
- 測定ポイント数が6ヶ所未満でも測定を終了することはできますが、6ヶ所すべてで測定することをお勧めします。また3ヶ所未満での測定は良好な補正をおこなうための十分な音響特性が得られないため、お勧めできません。

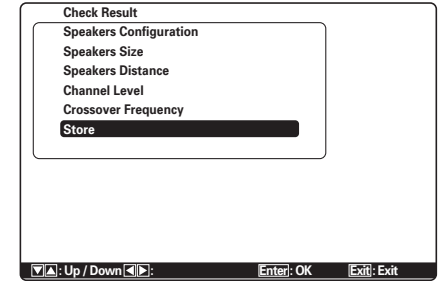
9. 測定結果の確認
測定結果の解析が終了すると、解析結果の確認画面が表示されます

カーソルボタン▲/▼を押して確認したい項目を選択して、**ENTER**ボタン押して決定します。

ご注意

イコライザー（MultEQ®）のパラメーターの確認については 37 ページをご覧ください。

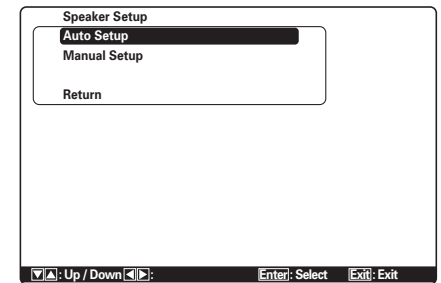
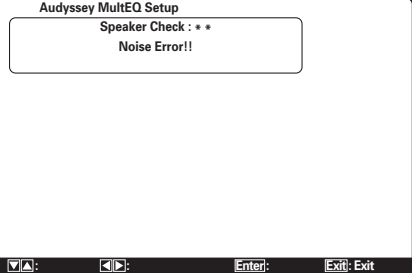
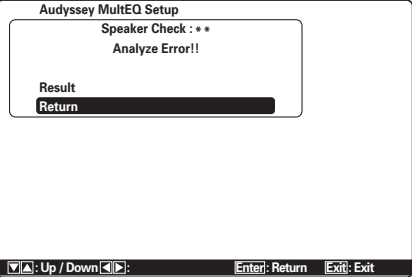
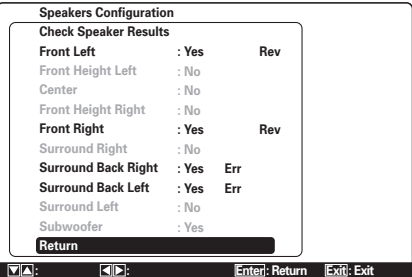
［例］ スピーカーの有無の確認画面

［例］ スピーカーサイズの確認画面

［例］ スピーカーからリスニングポジションまでの距離の確認画面

- Unitの「Meters」にカーソルをあわせて**カーソル**ボタンの ◀/▶を押すごとに距離の単位［m］メートルと［ft］フィートを切り替えることができます。
- スピーカーとマイクの距離が 9.15mを超えた場合、「> 9.15m」と表示されます。

［例］ チャンネルレベルの確認画面

［例］ クロスオーバー周波数の確認画面

- スピーカーサイズとクロスオーバー周波数は自動測定の結果であることを表すために、Autoと表示されます。

10. 測定結果のメモリー
解析結果の確認終了したら、**カーソル**ボタン▲/▼/◀/▶を押してカーソルを「Return」に合わせて **ENTER**ボタン押し、「Check Result」の画面を表示させます。

カーソルを「Store」に合わせて **ENTER**ボタン押すとイコライザーを含むすべてのパラメーターがメモリーされます。
解析結果をメモリーさせたくないときは **EXIT** ボタンを押して設定を終了します。

ご注意

「Store」を押す（メモリーする）前に EXIT ボタンを押すと測定結果および解析結果のすべてを消去してしまうので操作に注意してください。

メモリーが完了すると次のGUI画面が表示されます。

ご注意

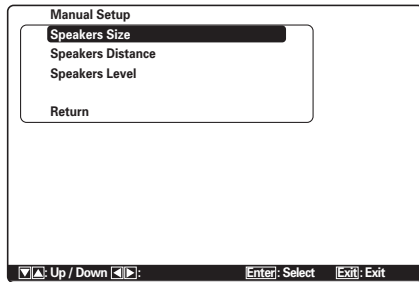
メモリー中は本機の電源を切らないでください。
本機にメモリーされているすべてのデータが消去されてしまう場合があり、また故障の原因にもなります。

システムセットアップ

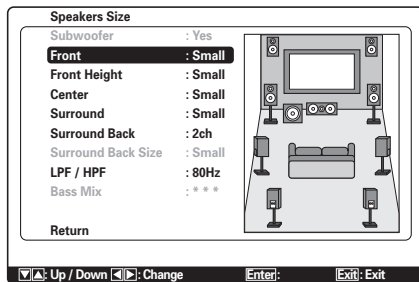
エラーメッセージについて

エラー表示		原因	対処方法
Mic Setup Error!!	Audyssey MultEQ Setup Start Front Height : Yes Surround Back : 2ch Return Mic Setup Error Check Microphone ▼▲: ◀▶: Enter: Exit: Exit	• マイクが正しく接続されていない	• 付属のマイクを接続する • マイクの接続を確認する
Noise Error!!	Audyssey MultEQ Setup Speaker Check : ＊＊ Noise Error!! ▼▲: ◀▶: Enter: Exit: Exit	• リスニングルームの騒音が大きすぎて正確な測定ができない • スピーカーから出力される音量が小さい	• 測定中はエアコン等の騒音を発生する機器の電源を切る • 周囲が静かな時間帯に測定をおこなう
Analyze Error!! * Analyze Errorは**カーソル**ボタン▲/▼を押してカーソルを「Result」に合わせて**ENTER**ボタンを押すと次のような詳細画面を表示できます	Audyssey MultEQ Setup Speaker Check : ＊＊ Analyze Error!! Result Return ▼▲: Up / Down ◀▶: Enter: Return Exit: Exit Speakers Configuration Check Speaker Results Front Left : Yes Rev Front Height Left : No Center : No Front Height Right : No Front Right : Yes Rev Surround Right : No Surround Back Right : Yes Err Surround Back Left : Yes Err Surround Left : No Subwoofer : Yes Return ▼▲: ◀▶: Enter: Return Exit: Exit	• 適切な再生をおこなうための必要なスピーカーが検出できない • スピーカーの極性が逆に接続されている 左図の例では次のような不具合が検出されています。 • フロントスピーカーのL-ChおよびR-Chの極性が逆になっている （[Rev] Reverse表示がされている） • サラウンドスピーカーが接続されていない（No表示）のにサラウンドバックスピーカーが接続されている。 上記以外にもスピーカーの接続が次のように接続されているとError になります • サラウンドバックスピーカーを 1本だけ使用している場合にサラウンドバックR端子に接続している （サラウンドバックスピーカーを 1本だけご使用の場合はL端子に接続してください）	• 電源を切り、極性が逆と表示されたスピーカーの接続を確認する （ご使用のスピーカーによっては正しく接続されていてもこの表示［Rev］がされる場合があります。この場合はエラー表示を無視してください） • スピーカーの向きや配置を確認する

2-2 MANUAL SETUP

1. Main Menuから「Speaker Setup」を選択します。
2. **カーソル**ボタン▲/▼で「Manual Setup」を選択します。
3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

4. **カーソル**ボタン▲/▼でサブメニューを選択して**ENTER**ボタンを押します。

＜ SPEAKERS SIZE ＞

5. **カーソル**ボタン▲/▼でManual SetupメニューからSpeakers Sizeを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

Speaker Size メニューでスピーカーのサイズを設定する際は以下の指針を参照してください。

Large:
十分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

Small:
低音再生能力の低い小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。（Subwoofer：No に設定した場合はフロント L/R チャンネルへ振り分けて出力されます）

Subwoofer

Yes:
サブウーファーを使用する場合に選択します。

No:
サブウーファーを使用しない場合に選択します。フロントスピーカーで「Small」を選択した場合、この項目は「Yes」に設定されます。

Front

Large:
フロントスピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
フロントスピーカーが小型の場合に選択します。

ご注意

サブウーファーで「No」を選択した場合はこの項目は「Large」に設定されます。

Front Height

None:
ハイト L/R スピーカーを使用しない場合に選択します。

Large:
ハイト L/R スピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
ハイト L/R スピーカーが小型の場合に選択します。

ご注意

サラウンドバックスピーカーで「Zone SPKR」を選択した場合はこの項目は「None」に設定されます。

Center

None:
センタースピーカーを使用しない場合に選択します。

Large:
センタースピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
センタースピーカーが小型の場合に選択します。

Surround

None:
サラウンド L/R スピーカーを使用しない場合に選択します。

Large:
サラウンド L/R スピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
サラウンド L/R スピーカーが小型の場合に選択します。

Surround Back

None:
サラウンドバック L/R スピーカーを使用しない場合に選択します。

1ch:
サラウンドバックスピーカーが 1 本の場合に選択します。
音声信号はサラウンドバック L 端子から出力されます。接続を確認してください。

2ch:
サラウンドバック L/R スピーカーを使用する場合に選択します。

Zone SPKR:
サラウンドバックスピーカー端子をゾーンスピーカー A として使用する場合に設定します。

ご注意

「Surround」の設定で「None」を選択した場合、この項目は「None」に固定されます。

Surround Back Size

Large:
サラウンドバックスピーカーが大型の場合に選択します。

Small:
サラウンドバックスピーカーが小型の場合に選択します。

ご注意

「Surround」の設定で「None」を選択した場合は、ここでの設定はできません。

LPF/HPF

サブウーファーを用いる場合は、Small に設定したスピーカーのカットオフ周波数を選択することができます。
Small に設定したスピーカーのサイズに応じてクロスオーバー周波数レベルを選択します。
60Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 120Hz ↔ 140Hz ↔ 160Hz ↔ 180Hz ↔ 60Hz ↔ ...

アドバイス

フロントスピーカーに小型のものを使った場合は高めに、大型のものを使った場合は低めに設定します。

Bass Mix

- バス・ミックスの設定は、ステレオ再生で、フロントスピーカーを「**Large**」に、サブウーファーを「**Yes**」に設定した場合にのみ有効となります。この設定は PCM またはアナログ・ステレオソースの再生時にのみ有効です。
- 「**Both**」を選択した場合、低音域帯はメインの L/Rスピーカーとサブウーファーの両方で再生されます。
  この再生モードでは、低音域帯が室内全体に均一に広がります。ただし、部屋の大きさや形状によっては干渉が起こって実際の低音域帯の音量が小さくなる場合があります。
- 「**Mix**」を選択すると、低音域帯はメインのL/Rスピーカーでのみ再生されます。

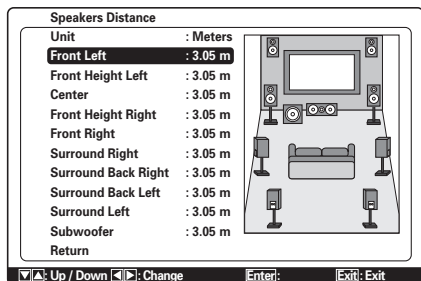
アドバイス

Dolby Digital または DTS の再生中の LFE 信号はサブウーファーで再生されます。

6. **カーソル**ボタン▲/▼で各チャンネルのスピーカーを選択します。
7. **カーソル**ボタン◀/▶でスピーカーのサイズを設定します。
8. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押すと、Manual Setup画面が表示されます。

システムセットアップ

＜ SPEAKERS DISTANCE ＞

9. **カーソル**ボタン▲/▼で Manual Setupメニューから Speaker Distanceを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

ここではリスニング位置から各スピーカーまでの距離を指定します。この距離に基づいて自動的にディレイタイムが計算されます。
まず、部屋の中で通常座る理想的な位置を決めます。
適切な音場を作る音響タイミングを設定するために、この作業は重要です。

ご注意

Speaker Size のメニュー設定で「None」に設定したスピーカーは Speaker Distance のメニューに表示されません。

10. **カーソル**ボタン◀/▶で「Unit」（表示単位）を「Meters」（メートル）または「Feet」（フィート）に設定します。

11. **カーソル**ボタン▲/▼で設定したチャンネルを選択します。

12. **カーソル**ボタン◀/▶で、スピーカーまでの距離を設定します。

Front Left:
通常のリスニング位置からフロントＬスピーカーまでの距離を設定します。

Front Height Left:
通常のリスニング位置からハイトＬスピーカーまでの距離を設定します。

Center:
通常のリスニング位置からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

Front Height Right:
通常のリスニング位置からハイトＲスピーカーまでの距離を設定します。

Front Right:
通常のリスニング位置からフロントＲスピーカーまでの距離を設定します。

Surround Right:
通常のリスニング位置からサラウンドＲスピーカーまでの距離を設定します。

Surround Back Right:
通常のリスニング位置からサラウンドバックＲスピーカーまでの距離を設定します。

Surround Back Left:
通常のリスニング位置からサラウンドバックＬスピーカーまでの距離を設定します。

Surround Left:
通常のリスニング位置からサラウンドＬスピーカーまでの距離を設定します。

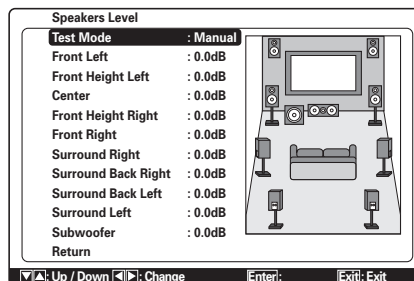
Subwoofer:
通常のリスニング位置からサブウーファーまでの距離を設定します。

ご注意

- 各スピーカーまでの距離は以下のようにメートル（m）またはフィート（ft）で設定します。
  m: 0.03 から 9.15 m の範囲で 0.03 m 単位で設定できます。
  ft: 0.1 から 30.0 ft の範囲で 0.1 ft 単位で設定できます。
  （モニターには近似値で表示されます。）
- 「None」に設定したスピーカーには Speaker Distance メニューは表示されません。
- Speaker Size メニューでサラウンドバックスピーカーを 2ch に設定した場合は、「Surround Back Left」と「Surround Back Right」の設定が表示されます。
- Speaker Size メニューでサラウンドバックスピーカーを 1ch に設定した場合は、「Surround Back」の設定が表示されます。

13. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼/◀/▶でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押して次のページに進みます。

＜ SPEAKERS LEVEL ＞

14. **カーソル**ボタン▲/▼で Manual Setupメニューから Speakers Levelを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

ここでは、リスナーがすべてのスピーカーを同じレベルで聴けるように各スピーカーの音量を設定します。
SPL（音圧レベル）メータをお持ちの場合は、リスニングポジションで計測される SPL を一定にすることを推奨します。SPL メータの読み値が 75dB（C weighting, Slow response にて）になるように各々のスピーカーレベルを調整します。

ご注意

このメニューで設定された値は、7.1ch 入力モード、ピュアダイレクトモード、ソースダイレクトモードのときは反映されません。

Test Mode

カーソルボタン◀/▶で テストトーンの出力を「Manual」または「Auto」に設定します。

「Auto」を選択すると、テストトーンは各チャンネルで２秒ずつ、以下の順で循環して出力されます。
Front Left → Front Height Left → Center → Front Height Right → Front Right → Surround Right → Surround Back Right → Surround Back Left → Surround Left → Subwoofer → Front Left
カーソルボタン◀/▶で、すべてのスピーカーのレベルが同じになるようにスピーカーから出るテストトーンの音量を調整します。

「**Manual**」を選択した場合は以下のように各スピーカーの出力レベルを調整します。

15. **カーソル**ボタン▼を押してカーソルを「Front Left」に移動します。本機のフロントＬスピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。
このノイズのレベルを調整します。
（レベルの調整は －12 から ＋12 dB の範囲で 0.5 dB 単位でおこなえます。）
カーソルボタン▼を押すと、フロントハイトＬスピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。

16. **カーソル**ボタン◀/▶で、フロントＬスピーカーと同じレベルになるようにフロントハイトＬスピーカーのノイズ音量を調整します。

17. **カーソル**ボタン▼を押すと、センタースピーカーからテストトーン（ピンクノイズ）が出力されます。

18. センタースピーカーおよびその他のスピーカーも同様にステップ**15.**と**16.**を繰り返し、すべてのスピーカーの音量が同じになるようにします。
各設定が終了したとき、**ENTER**ボタンでカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押して「Manual Setup」メニューにもどります。

ご注意

- Speaker Size メニューで「None」に設定したスピーカーは表示されません。
- Speaker Size メニューでのサラウンドバックスピーカーを 2ch に設定した場合は、「Surround Back Left」と「Surround Back Right」が表示されます。
- Speaker Size メニューでサラウンドバックスピーカーを 1ch に設定した場合は「Surround Back」と表示されます。
- 7.1ch 入力ソース（7.1 CH IN 端子）のスピーカー・レベルの調整は、7.1ch 入力サブメニューでおこないます。（24 ページ参照）
- Subwoofer は－ 18dB から＋ 12dB まで設定可能です。

3 SURROUND SETUP

各種サラウンド入力信号に対して、ご使用のスピーカーシステムまたはヘッドホンから高い臨場感の効果を引き出すために、サラウンド効果のパラメーターを設定します。

- **Channel level:**
  「3-1 CHANNEL LEVEL」(31ページ参照)
- **PL Ⅱx Music Parameter:**
  「3-2 PL Ⅱx MUSIC PARAMETER」(32ページ参照)
- **CS Ⅱ Parameter:**
  「3-3 CS Ⅱ PARAMETER」(32ページ参照)
- **NEO:6 Parameter:**
  「3-4 NEO:6 PARAMETER」(32ページ参照)

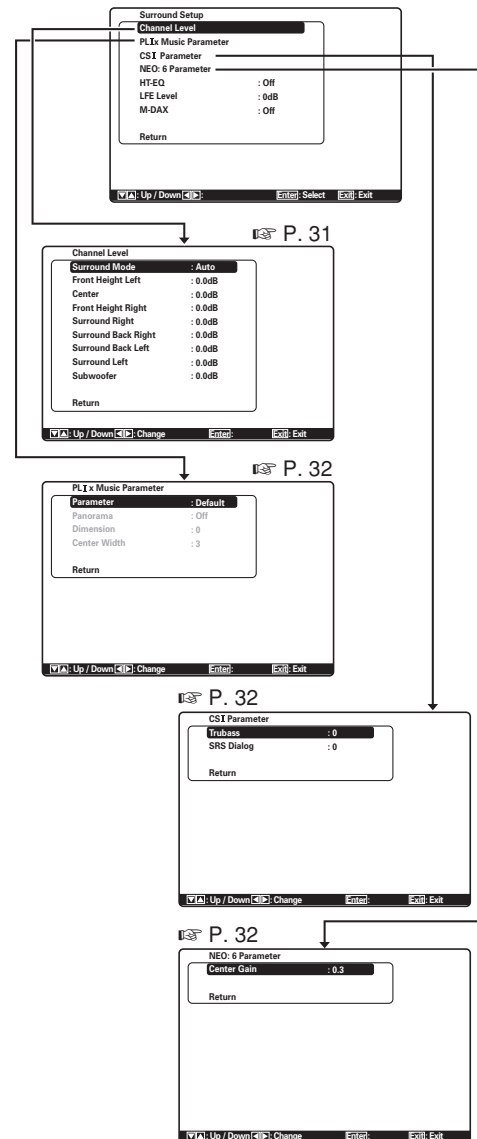
1. **カーソル**ボタン ▲/▼で Main Menuから「Surround Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。
2. **カーソル**ボタン ▲/▼で設定したいメニューを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

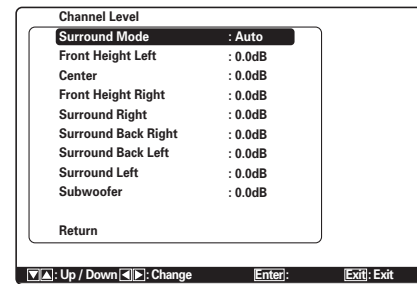
HT-EQ:
カーソルボタン ◀/▶ で HT-EQ を選択して On/Off を設定します。
家庭のオーディオ装置で再生すると、映画のサウンドトラックは高音域が強調され耳ざわりな場合があります。これは映画のサウンドトラックが、サウンドスクリーンを使用した映画館の環境で再生されるように設計されているためです。映画館用の映画をご視聴時に HT-EQ 機能を有効にすると、補正をおこなって適切な音調バランスにします。
次のモードでは HT-EQ 機能を使用することができません。

- 7.1ch入力モード
- ピュアダイレクトモード
- ソースダイレクトモード
- サラウンドモードに VIRTUAL(ドルビーバーチャル)スピーカーが設定されているとき

LFE Level:
Dolby Digital 信号または DTS 信号に含まれる LFE 信号の出力レベルを選択します。
カーソルボタン ◀/▶ で「**0 dB**」、「**− 10 dB**」または「**OFF**」を選択します。

M-DAX:
M-DAX のモードを設定します。**カーソル**ボタン ◀/▶ で「**High**」、「**Low**」または「**Off**」を選択します。詳細は 39 ページの M-DAX の項目を参照してください。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン ▲/▼ でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER** ボタンを押してサブメニュー(Surround Setup)に戻ります。

3-1 CHANNEL LEVEL

1. Main Menuから**カーソル**ボタン ▲/▼で「Surround Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。
2. **カーソル**ボタン▲/▼で「Channel Level」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。
3. 設定する Surround Modeに**カーソル**ボタン◀/▶で設定します。

4. **カーソル**ボタン ▲/▼で設定するメニュー項目を選択し、**カーソル**ボタン ◀/▶でレベルを設定します。**ENTER**ボタンを押して確定します。

Surround Mode:
チャンネルレベルは以下の 3 つのサラウンドモード毎に独立してメモリーされます。
1. Multi Ch. STEREO のモード
2. CS Ⅱのモード
3. その他のモード

CHANNEL LEVEL

Front Height Left or Right:
ハイトスピーカーの補正量は− 12dB から ＋ 12dB で 0.5dB ステップで設定します。
- Speakers Size メニューでフロントハイトスピーカーを「None」に設定した場合は、この設定は表示されません。

Center:
センタースピーカーの補正量は− 12dB から ＋ 12dB で 0.5dB ステップで設定します。
- Speakers Size メニューでセンタースピーカーを「None」に設定した場合はこの設定は表示されません。

Surround Left or Right:
サラウンドスピーカーの補正量は− 12dB から ＋ 12dB で 0.5dB ステップで設定します。
- Speakers Size メニューでサラウンドスピーカーを「None」に設定した場合は、この設定は表示されません。

Surround Back Left or Right:
サラウンドバックスピーカーの補正量は− 12dB から ＋ 12dB で 0.5dB ステップで設定します。
- Speakers Size メニューでサラウンドバックスピーカーを「None」に設定した場合は、この設定は表示されません。

Subwoofer:
サブウーファーの補正量は− 18dB から＋ 12dB で 0.5dB ステップで設定します。
- Speakers Size メニューでサブウーファーを「No」に設定した場合は、この設定は表示されません。

ご注意
- Multi Ch. STEREO、CSII 以外のモードでの設定値は Manual Setup の内の Speakers Level と連動します。

各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン ▲/▼ でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER** ボタンを押して、Surround Setup メニューに戻ります。

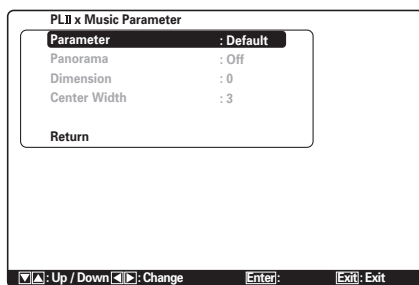
システムセットアップ

3-2 PL IIx(プロロジックIIx) MUSIC PARAMETER

Pro Logic IIx-Music モードは CD などのステレオソースで、豊かで包み込むようなサラウンド環境を実現します。

1. Main Menuから**カーソル**ボタン ▲/▼で「Surround Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン ▲/▼で「PL IIx Music Parameter」を選択します。

3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

Parameter:

カーソルボタン ◀/▶ で「Default」または「Custom」を選択します。
「Custom」を選択した場合、以下の３つのパラメーターを設定することができます。

Panorama:

カーソルボタン ◀/▶ で Panorama モードを 「On」または「Off」に設定します。
Panorama モードでは、フロント左右スピーカーから出る音がリスナーを包み込み、3 次元空間の表現力が得られます。

Dimension: -3 ⇒. . . ⇒ 3

フロントとリアのレベル差を調整する機能です。入力ソースによってはフロントが強くでるもの、リアが強くでるもの、と多様異なりますので、この機能で好みのバランスを得ることができます。-3 から 3 までの 7 段階の調整が可能です。

Center Width: 0 ⇒. . . ⇒ 7

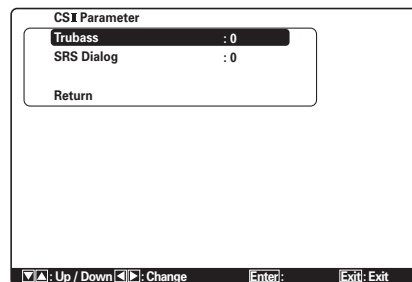
センターチャンネル成分を、徐々にフロント L/R のスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることが可能になります。
0 から 7 までの 8 段階の調整が可能です。
センタースピーカーの設定が「None」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

4. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押します。

3-3 CS II PARAMETER

1. Main Menuから**カーソル**ボタン ▲/▼で「Surround Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で「CS II Parameter」を選択します。

3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

Trubass: 0 ⇒. . . ⇒ 6

- Trubassは、パイプオルガンの低音再生技法を電気的に応用したもので、使用するスピーカーの f_0(最低再生可能周波数) 以下の低音を再生できます。
- 0から6まで 7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- サブウーファーを使用している場合、本機能はサブウーファー出力にはたらきます。
- サブウーファーを使用していない場合、本機能はフロントL/R出力にはたらきます。

SRS Dialog: 0 ⇒. . . ⇒ 6

- SRS Dialogはダイアログ(台詞)を明瞭にすると共に、床置きのセンタースピーカーから出る音の音像定位を画面の高さから聴こえるように、上方向に移動(仮想配置)します。
- 0から6まで 7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- Speaker Size(スピーカーのサイズ) セットアップでセンタースピーカーを「None」と選択している場合、この設定をおこなうことはできません。

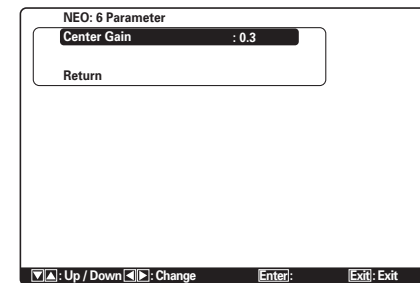
4. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押します。

3-4 NEO:6 PARAMETER

DTS NEO:6 は 2 チャンネル入力時、最大 6.1 チャンネル出力を可能にしたモードです。(5.1 チャンネル入力も対応。)
このモードでは、センタースピーカーの音声イメージが拡大されます。

1. Main Menuから**カーソル**ボタン ▲/▼で「Surround Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で「NEO:6 Parameter」を選択します。

3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

4. **カーソル**ボタン ◀/▶で Center Gainレベルを 0.0 から 1.0の範囲で 0.1単位で選択できます。

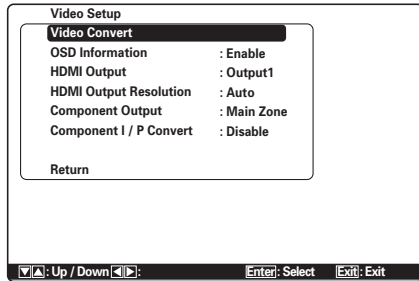
ご注意

- この設定はNEO:6 Music モードのときのみ有効です。
- センタースピーカーの設定が「None」に選択されている場合は、この設定は選択できません。

5. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押します。

4 VIDEO SETUP

ビデオに関する各種設定をします。

1. Main Menuから**カーソル**ボタン▲/▼で「Video Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で設定したいメニューを選択し、**ENTER**ボタンを押します。

- **Video Convert**

本機のモニター出力には映像信号のコンバート機能を装備しています。
Video Convert メニューでは、各映像入力ファンクションごとに、コンバートの設定がおこなえます。

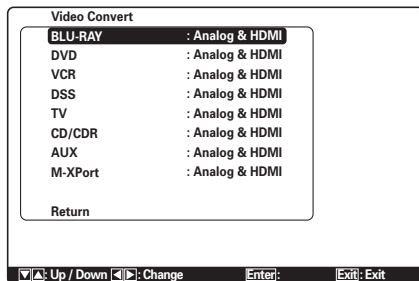
1. Main Menuから**カーソル**ボタン▲/▼で「Video Setup」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で「Video Convert」を選択し**ENTER**ボタンを押します。

Video Convert

BLU-RAY	: Analog & HDMI
DVD	: Analog & HDMI
VCR	: Analog & HDMI
DSS	: Analog & HDMI
TV	: Analog & HDMI
CD/CDR	: Analog & HDMI
AUX	: Analog & HDMI
M-XPort	: Analog & HDMI

Return

▼▲: Up / Down ◀▶: Change Enter: Exit: Exit

3. **カーソル**ボタン▲/▼でファンクションを選択して**カーソル**ボタン◀/▶でビデオコンバートの設定をおこないます。

Analog&HDMI:
アナログ映像信号（ビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオ）の相互のアップコンバート、ダウンコンバートをおこないます。
さらに、アナログ映像信号から、HDMI へのアップコンバートもおこないます。

ご注意

HDMI のデジタル映像信号からアナログ映像信号のダウンコンバートはできません。

Analog Only:
アナログ映像信号（ビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオ）の相互のアップコンバート、ダウンコンバートをおこないます
アナログ映像信号から、HDMI へのアップコンバートはおこないません。

Off:
すべてのコンバート機能を停止します。

ビデオコンバート機能の詳細については 46 ページを参照してください。

- **OSD Information（OSD インフォメーション）**

音量のアップ／ダウン操作や入力ファンクションの切り替え操作をしたときに、モニターに操作の状態を表示する機能です。
カーソルボタン◀/▶で「OSD Information」機能を有効にしたいときは「Enable」、無効にしたいときは「Disable」に設定します。
この機能が不要の場合は「Disable」を選択してください。

ご注意

HDMI およびコンポーネントビデオ入力端子から映像信号を入力しているときは、スーパーインポーズ表示をすることはできません。

- **HDMI Output**

HDMI の出力を設定します。**カーソル**ボタン◀/▶で Output1 と Output2 を切り替えます。
リモコンの **HDMI** ボタンを押しても切り替えることができます。

- **HDMI Output Resolution**

本機 HDMI 端子から出力される映像信号の解像度（画素数）を設定します。
カーソルボタン◀/▶を使って下記の中から選択します。
Auto ↔ Through ↔ 480/576p ↔ 720p ↔ 1080i ↔1080p ↔ Auto

Auto:
HDMI 接続されているテレビに適切な解像度を自動で設定します。

Through:
入力されたままの解像度で出力されます。

480p/576p:
480p で出力されます。

720p:
720p で出力されます。

1080i:
1080i で出力されます。

1080p:
1080p で出力されます。

- **Component Output**

コンポーネント端子にメインゾーン用の映像を出力するかゾーン A 用の映像を出力するか設定します。
カーソルボタン◀/▶を使って「Main Zone」と「Zone A」を切り替えます。

- **Component I/P Convert**

480i で入力されたアナログビデオ信号を 480p に変換してコンポーネント端子から出力する機能です。
カーソルボタン◀/▶でこの機能を有効にしたいときは「Enable」、無効にしたいときは「Disable」に設定します。
詳細は 33 ページのコンポーネント IP 機能の項を参照してください。

ご注意

- この設定は「Video Convert」機能が off 以外のときのみ有効です。
- モニターが本機と HDMI 接続されていて、かつ「HDMI Output Resolution」設定が 720p、1080i、1080p、Auto のいずれかに設定されているときは Component I/P Convert 機能ははたらきません。

システムセットアップ

5 PREFERENCE （便利機能の動作設定）

- **Zone A Setup :**
- **Zone B Setup :**
  「5-1 ZONE SETUP」（34ページ参照）
- **DC Trigger Setup :**
  「5-2 DC TRIGGER SETUP」（35ページ参照）

1. **カーソル**ボタン ▲/▼で Main Menuから「Preference」を選択して、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン ▲/▼で設定するメニューを選択して、**ENTER**ボタンを押します。

Optical Output:

光デジタル出力の機能を選択します。

Rec: CD レコーダーや MD デッキへ録音するときに設定します。（11 ページ参照）

Zone B Out: ゾーン B 出力として使用するときに設定します。（20、34、53ページ参照）

Standby:

「**Economy**」に設定すると、待機電力を低減できますが、スタンバイ中、RS-232C の機能を使用できません。これらの機能を使用する場合は「**Normal**」に設定してください。また、リモコンで電源を入れる場合、少し長めにボタンを押してください。

Audio:

AAC または、Dolby Digital、DTS の音声が二ヵ国語モードのとき、Main（主音声）Sub（副音声）のどちらの音声を出すかを決めます。▲/▼ で選択し ◀/▶ で Main ↔ Sub ↔ Main ＋ Sub を選択します。

HDMI Audio:

HDMI 端子から入力された音声信号を、本機に接続されたスピーカーで再生するか、もしくは本機の HDMI 出力端子に接続したテレビやプロジェクターで再生するかを設定します。

Enable: HDMI 端子からの音声入力信号を本機で再生します。この場合、TV やプロジェクターからは音声信号は出力されません。

Through: HDMI に入力された音声は本機のスピーカー端子からは出力されません。音声データは TV やプロジェクターにそのまま出力されます。マルチチャンネル対応 TV などで音声を聞きたいときに使用します。

HDMI Lip Sync （オートリップシンクコレクション）:

接続する映像機器によっては映像信号の処理時間が音声信号に対して長いものがあります。HDMI のオートリップシンクコレクション機能に対応した TV やプロジェクターを本機に接続した場合、この機能で自動的に映像と音声の同期を取ることができます。

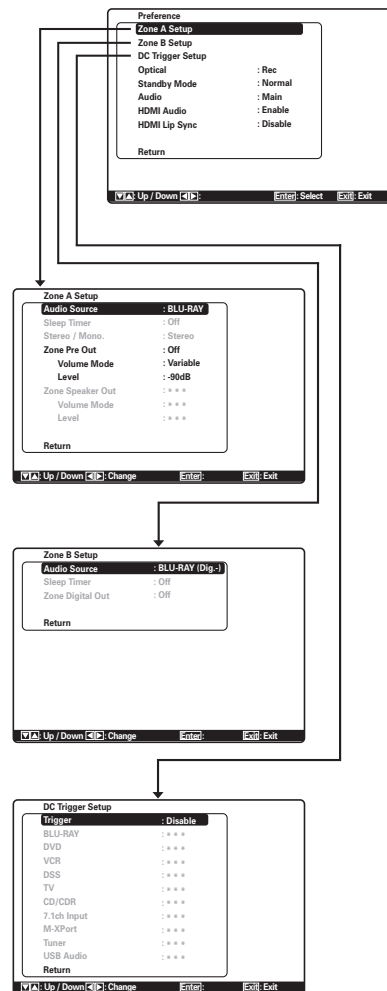
カーソルボタン ◀/▶ で Enable/Disable を切り替えます。

Enable: オートリップシンクコレクション機能を使用して映像と音声の同期を取ります。

Disable: オートリップシンクコレクション機能をオフにします。

ご注意

- HDMI のオートリップシンクコレクション機能に対応していない機器を本機に接続した場合、この機能は使用できません。詳しくは接続する機器の取扱説明書をご確認ください。
- この機能がご使用になれない場合は、Lipsync（リップシンク）機能で映像と音声の同期を手動で取ることができます。（41ページ参照）

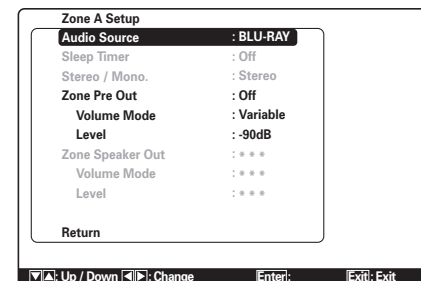
各設定が終了したときは、**カーソル**ボタン ▲/▼ で「Return」を選択し、**ENTER** ボタンを押してサブメニュー（Preference）に戻ります。

5-1 ZONE SETUP

ゾーンシステムを使用するときの各設定をこのメニューでおこないます。
ゾーンシステムについての詳細は 20、53 ページを参照してください。

1. **カーソル**ボタン ▲/▼で Main Menuから「Preference」を選択して、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で「Zone A Setup」または「Zone B Setup」を選択します。

3. **ENTER**ボタンを押します。

- **Zone A Setup**

4. **カーソル**ボタン ▲/▼で設定したい項目を選択します。

Audio Source:

ゾーン出力の音声ソースは**カーソル**ボタン ◀/▶ で選択します。

Sleep Timer:

スリープタイマーはゾーン出力が「On」のときに利用できます。時間は**カーソル**ボタン ◀/▶ で設定でき、10 分単位で最長 120 分まで設定できます。

Stereo / Mono（ステレオ／モノ）:

ゾーン音声出力をモノ出力にするときは「Mono」を、ステレオ出力にするときは「Stereo」を**カーソル**ボタン ◀/▶ で選択します。

Zone Pre Out（ゾーンプリアウト）:
カーソルボタン ◀/▶ でゾーン機能の「On」 「Off」を設定します。

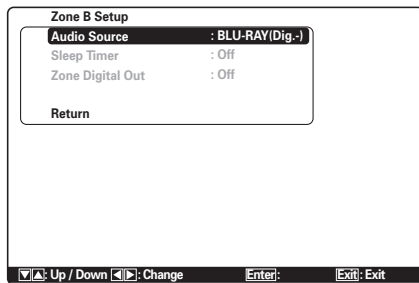
Volume Mode（音量設定）:
ゾーンの音量を可変するときは「Variable」に、固定するときは「Fixed」にします。

Level（音量レベル）:
ゾーン出力レベルを**カーソル**ボタン ◀/▶ で調整します。－ 90dB から 0dB まで 1dB 単位で設定できます。

Zone Speaker Out（ゾーンスピーカーアウト）:
カーソルボタン ◀/▶ でゾーンスピーカー機能の「On」「Off」を設定します。

Volume Mode:
ゾーンスピーカーの音量を可変するときは「Variable」に、固定するときは「Fixed」にします。

Level:
ゾーンスピーカーの出力レベルを**カーソル**ボタン ◀/▶ で調整します。－ 90dB から 0dB まで 1dB 単位で設定できます。

- **Zone B Setup**

Audio Source:
ゾーン出力の音声ソースは**カーソル**ボタン ◀/▶ で選択します。

Sleep Timer:
スリープタイマーはゾーン出力が「On」のときに利用できます。時間は**カーソル**ボタン ◀/▶ で設定でき、10 分単位で最長 120 分まで設定できます。

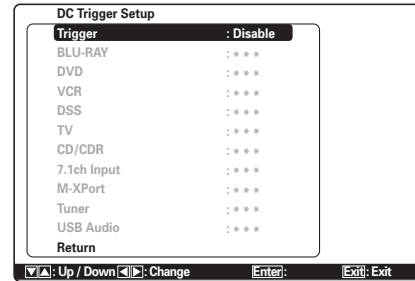
Zone Digital Out（ゾーンデジタルアウト）:
ゾーンデジタル出力を**カーソル**ボタン ◀/▶ で On または Off に設定します。:

ご注意

- ゾーンスピーカー機能の設定は、Speaker Sizeメニューで「Surround Back」が「None」または「Zone SPKR」に設定され、かつリアパネルで SPEAKER C が OFF 位置にあるときに変更できます。この設定が利用できないときは、「＊＊＊」と表示されます。
- 「Volume Mode」が「Fixed」に設定されている場合、ゾーンAからリモコンを使用してゾーンAの音量を調整することはできません。
- ゾーンBでは、デジタル入力1から5またはF（フロント）に設定されていない入力ソースを使用することはできません。（23ページ参照）
- ゾーン Bには、「Stereo / Mono」「Volume Mode」「Level」および「Zone Speaker Out」の機能はありません。
- 「Optical」が「Rec」に設定されている場合はゾーンB機能を使用できません。（34ページ参照）

5-2 DC TRIGGER SETUP

本機は、メインゾーンまたはゾーンの入力ファンクションと連動して DC トリガー出力をコントロールすることができます。

1. **カーソル**ボタン ▲/▼で Main Menuから「Preference」を選択して、**ENTER**ボタンを押します。
2. **カーソル**ボタン▲/▼で、 DC Trigger Setupを選択します。
3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

4. **カーソル**ボタン◀/▶で、「Main Zone」、「Zone A」、「Zone B」、「Remote」、「Disable」のいずれかを選択します。
   - **Main Zone**
     メインゾーンのファンクションに連動して DC トリガー出力をコントロールします。
   - **Zone A**
     ゾーン A のファンクションに連動して DC トリガー出力をコントロールします。
   - **Zone B**
     ゾーン B のファンクションに連動して DC トリガー出力をコントロールします。
   - **Remote**
     リモコンで DC トリガー出力をコントロールします。付属リモコン RC007SR ではこの機能は使用できません。
   - **Disable**
     DC トリガー機能を停止します。
5. 設定したい入力ファンクションを**カーソル**ボタン▲/▼で選択します。
6. **カーソル**ボタン◀/▶で「On」か「Off」に設定します。
7. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押します。

ご注意

設定したゾーンで On に設定したファンクションが選択されたときに DC OUT に電圧が出力されます。

6 ACOUSTIC EQ

ACOUSTIC EQ（アコースティック イコライザー）の設定で使用するイコライザーの選択とイコライザーカーブを設定することが出来ます。

1. **カーソル**ボタン▲/▼で Main Menuから「Acoustic EQ」を選択し、**ENTER**ボタンを押します。

2. **カーソル**ボタン▲/▼で「EQ Mode」を選択します。

3. **カーソル**ボタン◀/▶で「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」、「User」、「Off」のいずれかを選択します。

設定が終わったら、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動して **ENTER** ボタンを押して設定を終了します。

EQ Mode:

本機にはユーザーが好みによって手動でグラフィックイコライザーを設定する「User」および、AUTO SETUP の自動測定の演算処理で決められる「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の 3 種類の MultEQ（マルチイーキュー）が用意されています。

Audyssey Front:
フロントスピーカーは、特性の補正をおこないません。その他のスピーカーは最適な特性になるように補正します。

Audyssey Flat:
すべてのスピーカーの周波数特性をフラットになるように補正します。

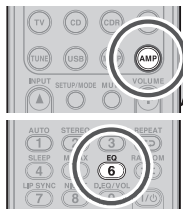
Audyssey:
リスニングルームの音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を補正します。

User:
ユーザーが Adjust User EQ 機能を使用してお好みに合わせて調整することができるモードです。（Adjust User EQ 機能については 37 ページを参照してください）

Off:
アコースティック イコライザーを使用しないときは Off を選択します。

ご注意

「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の MultEQ の設定値は自動測定の演算処理で決められるため、その値を変更（調整）することはできません。

リモコンを使って EQ Mode を切り替えるには、**AMP** ボタンを押したあとに **EQ** ボタンを押します。

このボタンを押すたびに EQ Mode は以下のように切り替わります。

Off → Audyssey Front → Audyssey Flat → Audyssey → User → Off

ご注意

- 「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の各モードは、一度 Auto Setup（オートセットアップ）を実行したあとに選択ができるようになります。
- Auto Setup（オートセットアップ）の測定をおこなったときに「No」に設定されたスピーカーを Manual Setupで使用できるように設定し直した場合は、「Audyssey Front」、「Audyssey Flat」、「Audyssey」の各モードの選択はできなくなります。
- オートセットアップをおこなったあとに、スピーカーの本数を増やさずに距離やレベル、クロスオーバー周波数の設定を変更するとモード名の横に「*」が表示されます。
  例：「Audyssey Flat*」
- EQ Modeで選択した各イコライザーは、ピュアダイレクト、ソースダイレクト、7.1ch INPUTおよびドルビーヘッドフォンおよびドルビーバーチャルスピーカーモードをご使用の際は無効になります。
- EQ Modeで選択した各イコライザーは、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD信号を再生中は無効になります。
  この場合でもスピーカーオートセットアップで設定された内容（スピーカーの有無／距離／サイズ／チャンネルレベル／クロスオーバー）は有効です。
- EQ Modeがはたらいているときはトーンコントロールは無効になります。

- **Adjust User EQ :**
  「6-1 ADJUST USER EQ」（37ページ参照）
- **Check Audyssey MultEQ® :**
  「6-2 CHECK AUDYSSEY MULTEQ」（37ページ参照）
- **Audyssey Dynamic EQ™ :**

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ 技術と連動することにより、すべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

カーソルボタン◀/▶で「On」と「Off」を選択します。

- **Audyssey Dynamic EQ Adj :**

Audyssey Dinamic EQ は一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。ボリュームレベルが 0 dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ はフィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5 dB/10 dB/15 dB）が可能です。以下が推奨の設定レベルになります。

0 dB：
初期の設定。映画などのコンテンツに最適。

5 dB：
クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。

10 dB：
ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。

15 dB：
ポップやロックなどの非常に高いボリュームレベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

ご注意

Dynamic EQ の設定が「off」のときは、設定の変更はできません。

- **Audyssey Dynamic Volume™ :**

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り入れることによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

カーソルボタン◀/▶で「Light」、「Medium」、「Heavy」、「off」のいずれかを選択します。

ご注意

Audyssey Dynamic EQ が Off のときは、Audyssey Dynamic Volume は使用できません。

リモコンを使って Audyssey Dynamic EQ と Audyssey Dynamic Volume モードを変更するには、**D.EQ/VOL** ボタンを押します。このボタンを押すごとにそのモードは以下のように変化します。

Off → Audyssey Dynamic EQ: On、Audyssey Dynamic Volume: Off
→ Audyssey Dynamic EQ: On、Audyssey Dynamic Volume: Light
→ Audyssey Dynamic EQ: On、Audyssey Dynamic Volume: Medium
→ Audyssey Dynamic EQ: On、Audyssey Dynamic Volume: Heavy
→ Off

6-1 ADJUST USER EQ

7 チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）毎に 9 バンド（63Hz 〜 16kHz の 9 ポイント）のグラフィックイコライザーを設定できます。

1. **カーソル**ボタン ▲/▼で Main Menuから「Acoustic EQ」を選択して、**ENTER**ボタンを押します。
2. 「Adjust User EQ」を**カーソル**ボタン▲/▼で選択します。
3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

Reset:

イコライザー設定をフラットに戻したいときに使用します。**カーソル**ボタンでリセットしたいチャンネルを選択し、次に **ENTER** ボタンを押して確定します。

「All-Channel」： すべてのチャンネル
「Channel」： 現在表示されているチャンネルのみ

Channel:

調整するサラウンドチャンネル（Front Left、Front Height Left、Center、Front Height Right、Front Right、Surround Right、Surround Back Right、Surround Back Left、Surround Left）を**カーソル**ボタン ◀/▶ で選択します。次に ▼ ボタンで補正モードに移行します。

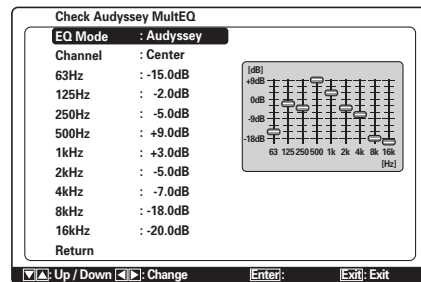
Frequency:

補正したい周波数（グラフの上の）を**カーソル**ボタン ◀/▶ で選択します。**ENTER** ボタンを押して確定します。**カーソル**ボタン ▲/▼ でレベルを調整します。（レベルは、− 20dB から＋ 9 dB の範囲で 0.5 dB 単位で調整できます。）**ENTER** ボタンを押して確定します。
◀/▶ で次の周波数へ進み、レベル調整を再びおこないます。

4. 各設定が終了したとき、**カーソル**ボタン▲/▼でカーソルを「Return」に移動し、**ENTER**ボタンを押します。

6-2 CHECK AUDYSSEY MULTEQ®

オートセットアップの測定結果で設定された MultEQ を確認できます。

1. **カーソル**ボタン ▲/▼で Main Menuから「Acoustic EQ」を選択して、**ENTER**ボタンを押します。
2. 「Check Audyssey MultEQ」を**カーソル**ボタン▲/▼で選択します。
3. **ENTER**ボタンを押して確定します。

EQ Mode:

EQ Mode にカーソルを移動して**カーソル**ボタン ◀/▶ で確認したい MultEQ カーブ（Audyssey、Audyssey Front、Audyssey Flat）を選択します。

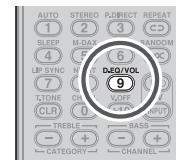
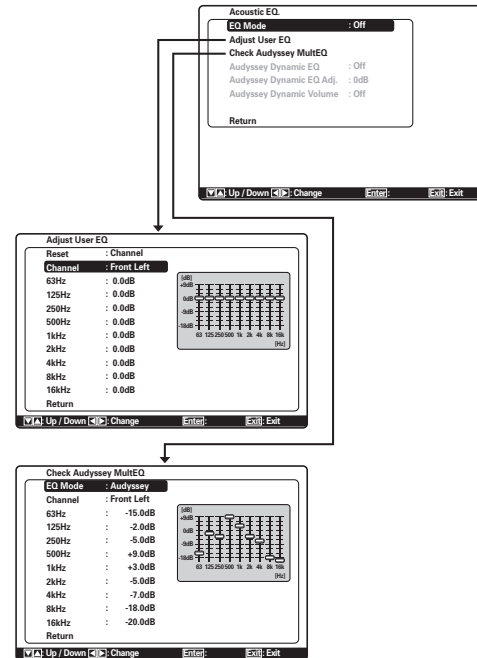
図は左から、グラフ、補正した周波数（Hz）、補正量（dB）です。

Channel:

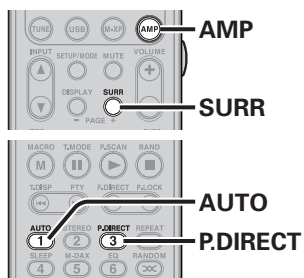
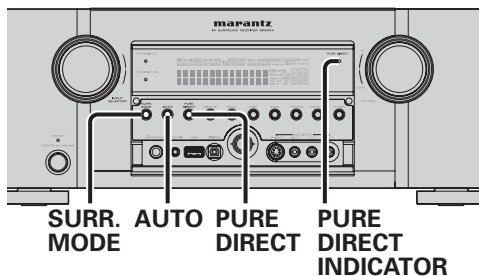
確認したいチャンネルを**カーソル**ボタン ◀/▶ で選択します。

4. **カーソル**ボタン ▲/▼で「Return」を選択し、**ENTER**ボタンを押して「Acoustic EQ」に戻ります。

ご注意

「Audyssey Front」モードではフロント L/R スピーカーは表示されません。

応用操作

アンプ操作

サラウンドモードの選択

サラウンドモード

サラウンドモードについては 67 ページを参照してください。

（本機で操作する場合）

お好みのサラウンドモードになるまで **SURR. MODE** ボタンを何回か押します。

（リモコンで操作する場合）

AMP ボタンを押したあとで、お好みのサラウンドモードになるまで **SURR** ボタンを何回か押します。

オートサラウンド

（本機で操作する場合）

オートサラウンドを選択するには、**AUTO** ボタンを押します。

（リモコンで操作する場合）

AMP ボタンを押したあとで、**AUTO** ボタンを押します。

- サラウンドモードについては、67ページを参照してください。

ピュアダイレクト

（本機で操作する場合）

PURE DIRECT ボタンを押します。

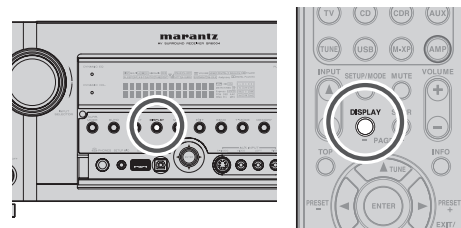
（リモコンで操作する場合）

AMP ボタンを押したあとで、**P.DIRECT** ボタンを押します。

このボタンを押すと、ソースダイレクトになり、表示部に「SOURCE DIRECT」と表示されます。
もう一度押すとピュアダイレクトになり、「PURE DIRECT」と表示されます。
PURE DIRECT インジケーターが点灯し、2 秒後、表示部が消えます。
ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードでは、トーンコントロール回路とバス・マネージメント機能がバイパスされます。
ボタンを押すたびに、次のように切り替わります。

ご注意

- ソースダイレクト／ピュアダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的に AUTO に切り替わります。
- 各スピーカーのサイズは自動的に以下のように設定されます。
  フロントスピーカー＝LARGE
  センタースピーカー＝LARGE
  サラウンドスピーカー＝LARGE
  サラウンドバックスピーカー＝LARGE
  サブウーファー＝YES
- この設定はソースダイレクト／ピュアダイレクトが機能しているときの一時的な処理なので、SPEAKER SETUP MENU には反映されません。

ディスプレイモード

本機表示部の 表示動作モードを選択できます。
本機またはリモコンの **DISPLAY** ボタンを押します。
これらのボタンを押すごとに、表示動作状態が順番に切り替わります。
ノーマル→ボリューム→オートディスプレイオフ→ディスプレイオフ→ノーマル

ノーマルモード：

以下の 3 つのモードを表示します。

- 入力ソース :選択されているソースを上段左側に表示します。ファンクションリネーム機能が使用されているときは、設定されたソース名を表示します。（24ページ参照）
- 入力モード :オート HDMI（AH）、オートデジタル（AD）、HDMI（HD）、デジタル（DG）、アナログ（ANA）を上段右側に表示します。（40ページ参照）
- サラウンドモード :サラウンドモードを下段に表示します。

ボリュームモード：

下段に音量が常に表示されるようになります。サラウンドモードが変更されたときは一時的にサラウンドモードがここに表示されます。

オートディスプレイオフ：

基本的にディスプレイが消灯した状態となりますが、本機の操作をしたときに、一時的に表示状態になります。

ディスプレイオフモード：

常に消灯した状態になります。

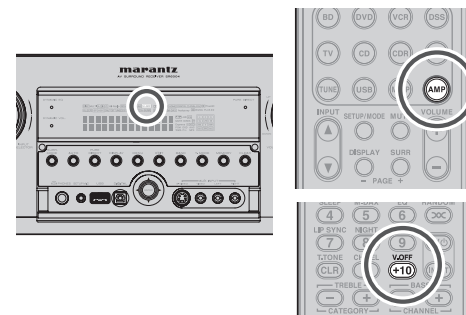
ご注意

ディスプレイ・オフ状態では、本機表示部の DISP 表示だけはこの機能が動作状態であることを表すために点灯します。

ダイアログ・ノーマライゼーション・メッセージについて

ダイアログ・ノーマライゼーション（Dial Norm）はドルビーデジタルの機能です。ドルビーデジタルでエンコードされたソフトウェアを再生するとき、フロントパネルに「D-NORM X dB」（X は数値）という短いメッセージが表示されることがあります。ダイアログ・ノーマライゼーション機能は、再生中のソフトウェアが特定の出力基準レベルより高いレベルで録音されているか、低いレベルで録音されているかを表示し、基準レベルに自動的に合わせてどのソフトウェアでも同一に感じる音量レベルで再生する機能です。

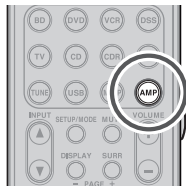
ビデオオフ機能

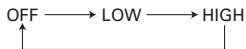
各映像出力端子（ビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI）の出力を停止します。

1. リモコンの **AMP**ボタンを押してから **V.OFF** ボタンを押します。V-OFFインジケーターが点灯します。
2. 再び **V.OFF**ボタンを押すと、V-OFFインジケーターが消灯しビデオオフ機能は解除されます。

ご注意

ビデオオフモードでもセットアップメニューは表示されます。

M-DAX （Marantz Dynamic Audio eXpander）

再生中のMP3やAACファイルなどの非可逆圧縮によって失われた音域成分を補う機能です。
お好みに合わせて効果のレベルを下記のように切り替えることができます。
"HIGH"： 強めの効果
"LOW"： 弱めの効果
"OFF"： 機能しない

リモコンの **AMP** ボタンを押します。**M-DAX** ボタンを押すたびにM-DAXの効果が変わります。

OFF → LOW → HIGH

M-DAXモードがLOWまたはHIGHのときは、M-DAXインジケーターが点灯します。

ご注意

- M-DAXは48kHz以下のPCM/MP3/WMA/AACおよび2チャンネルアナログソースに対応しています。
- M-DAXを使用中はトーンコントロールの設定は無効になります。
- M-DAXは以下のモードでは使用できません。
  - ドルビーバーチャルスピーカー
  - ソースダイレクト
  - ピュアダイレクト
  - 7.1チャンネルインプット

ナイトモード

夜間などに再生音のダイナミックレンジを抑えて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。
ナイトモードはドルビーデジタル音声に対してのみ効果があります。

1. リモコンの**AMP**ボタンを押します。
2. **NIGHT**ボタンを押すたびにナイトモードが変わります。

AUTO：

`NIGHT AUTO`

Dolby TrueHDソフトに含まれている信号を検出して、自動的にナイトモードをONにするかOFFにするか選択します。Dolby TrueHD以外のドルビーデジタル音声ではナイトモードはオフになります。

ON：

`NIGHT ON`

ナイトモード機能をオンにします。

OFF：

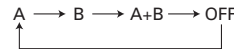
`NIGHT OFF`

ナイトモード機能をオフにします。

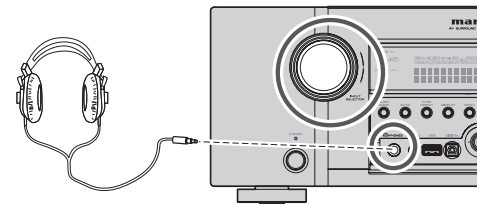
- ナイトモード機能がはたらいているときは本機表示部内のNIGHTが点灯します。
- ピュアダイレクト、ソースダイレクト、7.1CH INPUT機能を選択しているときはナイトモードはオフになります。

スピーカー A/B

フロントL/Rスピーカーに対してスピーカーシステムAとスピーカーシステムBを切り替えて使うことができます。
リモコンの **SPKR A/B** ボタンを押すたびにスピーカーシステムが変わります。

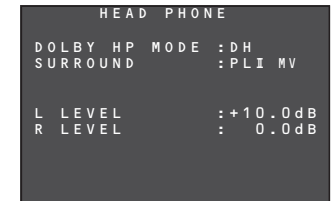
A → B → A+B → OFF

ヘッドホンで聞く

ヘッドホン（PHONES）端子は、本機の出力音声をヘッドホンで聴く場合に使用します。標準ステレオプラグヘッドホンをご使用ください。
ヘッドホン端子を使用しているときは、スピーカー出力が自動的にオフになります。

ご注意

ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。

⚠警告
ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を痛める傷めることがあります。音量が大きくなりすぎないように注意してください。

ドルビーヘッドフォン・モード

ドルビーヘッドフォンモードは、スピーカーで再生したときの波形を再現することにより、通常のヘッドホンでマルチチャンネルサラウンド音声を楽しむことができます。2chステレオ音声を再生時には前方のスピーカーから聴こえるような効果があります。ヘッドホンを使用すると、**MENU** ボタンを押したときに表示されるOSDメニューは自動的にドルビーヘッドフォン・モードに切り替わります。

DOLBY HP（ヘッドフォン）モードは左右の**カーソル**ボタンで選択できます。
BYPASS → DH → BYPASS

BYPASS: ドルビーヘッドフォン・モードにはならず、通常の2chステレオ音声を出力します。
DH: ドルビーヘッドフォン・モード。

ピュアダイレクトおよびソースダイレクトモードを選択したときはドルビーサラウンド処理が省略され、モード・表示には「***」が表示されます。

ドルビーヘッドフォン・モードがオンのときは、サラウンドモードを選択できます。
「L/R LEVEL」は± 12 dBの範囲で設定できます。

ご注意

- ヘッドホンを端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。
- ドルビーヘッドフォン・モードがオンのときは、トーンコントロールおよびACOUSTIC EQは設定することはできません。

応用操作

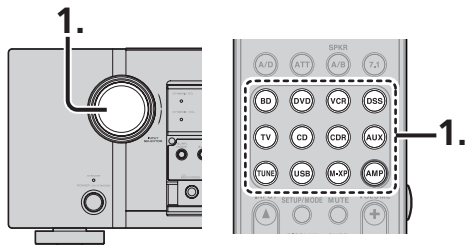
入力モード切り替え

アナログ以外の入力を設定したソースを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。
リモコンの **A/D** ボタンを押します。
ボタンを押すごとに、入力モードが順番に切り替わります。
オート → HDMI → デジタル → アナログ → オート

オートモード： 選択した入力機器に対してHDMI またはデジタル入力端子に入力されているデジタル信号の有無を自動的に検出します。（HDMI 入力とデジタル入力が検出したとき、HDMI 入力が優先されます）
デジタル信号が入力されていない場合はアナログ入力が自動的に選択されます。
HDMI モード： HDMI 入力に固定されます。
デジタルモード： デジタル入力に固定されます。
アナログモード： アナログ入力に固定されます。

入力ソースを切り替えたり、スタンバイにしたあとは、セットアップメニューで設定した入力設定に戻ります。ここで選択した入力モードは一時的な設定です。
入力モード切り替えの設定を保存するには、メインメニューのFUNCTION INPUT SETUP（24 ページ）を参照してください。

録音・録画をする

本機を操作して、記録用機器へ録音／録画することができます。このため本機は VCR OUT、CD/CDR OUT 端子を装備しています。

1. 本機の **INPUT SELECTOR**つまみを回すかリモコンのソースボタンを 2回続けて押して視聴したい入力ソースを選びます。

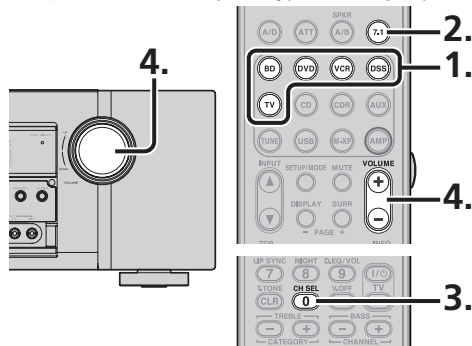
2. VCR OUT、およびCD/CDR OUT端子から選択した入力信号が録音／録画用として出力されます。

3. 接続した記録用機器を録音／録画モードにし、録音／録画を開始します。

ご注意

- デジタル信号入力だけの接続の場合、VCR OUT およびCD/CDR OUT 端子への出力は得られません。録音機能を利用する場合は、アナログ信号入力の接続もおこなってください。
- HDMI 入力端子に入力される信号は録画／録音することはできません。
- AUX のS- ビデオまたはビデオ信号はVCR のREC に出力されます。ただし、コピー制御信号が含まれているときは、録画することはできません。

7.1 CH INPUT

マルチチャンネルスーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD-Audio プレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための 7.1ch の外部入力端子が搭載されています。これらの入力信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過したあと、プリアウト端子へ出力および内部アンプに入力されます。（SubW 入力はプリアウトのみ）
この機能がはたらいているときは、入力ソースを切り替えることができません。この機能に合わせて楽しみたいビデオ系の入力ファンクションを選択してからリモコンの 7.1 ボタンを押してください。

1. 本機またはリモコンでご希望のビデオソースを選択します。

2. リモコンの **7.1**を押して 7.1チャンネルインプット入力に切り替えます。

3. 各チャンネルの出力レベルを調整する必要がある場合は、リモコンの**CH.SEL**ボタンを押します。
視聴位置でそれぞれのスピーカーから聞こえる音量が同じになるように◀または▶ボタンでスピーカー出力レベルを調整します。
- フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックのスピーカー出力レベルは、－12から＋12 dBの範囲で調整することができます。
- サブウーファーについては、－18から＋12 dBの範囲で調整できます。
- 調整結果は7.1 CH. INPUTメモリに保存されます。

4. 本機の **VOLUME**つまみか、リモコンの**VOLUME＋/－**ボタンで音量を調整します。

7.1 チャンネルインプット設定を解除するには、リモコンの **7.1** を押します。

ご注意

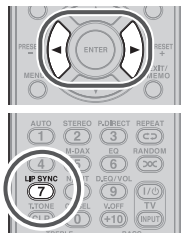
- 7.1 チャンネルインプットモードの動作中は内部サラウンド処理をバイパスするので、サラウンドモードは選択できません。
- 7.1 チャンネルインプットモード使用中は、信号は録音用出力には送られません。
- 7.1 チャンネルインプット使用中は以下の機能は使用できません。
  - テストトーン
  - ナイトモード
  - ソースダイレクト
  - ピュアダイレクト
  - HT-EQ
  - M-DAX
  - トーンコントロール
  - Acoustic EQ

アッテネート機能

アナログ信号入力を本機にて再生しているとき、前面表示部のPEAK表示が点灯する場合があります。これは、本機の内部処理に対して入力信号レベルが大きすぎることを意味します。
この場合はリモコンの**ATT**ボタンを押してください。

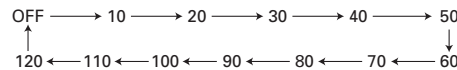
- この機能の動作中は、「ATT」表示が点灯します。
- 入力信号レベルはおよそ半分になります。
- CD/CDR OUT、VCR OUTからの出力信号にはアッテネート機能は動作しません。
- この機能は個々の入力ソースごとに記憶されます。
- このボタンは、HDMIまたはデジタル（光または同軸）入力が選択されているときは機能しません。

LIP.SYNC（リップ・シンク）機能

接続する映像機器によっては、映像信号の処理がオーディオ信号に対して時間差があるものがあります。
この差は、ほんのわずかですが映画や音楽を楽しむ上ではとても重要です。
LIP.SYNC機能は、オーディオ信号を遅らせて映像との時間差を調整します。初期値はOFF（0ms）で、最大200msまで10msステップで調整できます。
ディスプレイやプロジェクター等の映像機器で映像を確認しながら調整してください。

ご注意

- この機能はソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードまたは7.1チャンネルインプットではOFF（0ms）になります。ソースダイレクトまたはピュアダイレクトモードまたは7.1チャンネルインプットが解除されると設定した値に戻ります。
- HDMIのオートリップシンク機能に対応したTVやプロジェクターを本機に接続した場合、自動的に映像と音声を同期させることができます。この機能の操作については34ページを参照してください。

スリープタイマーを使う

設定した時間になると自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。リモコンのAMPボタンを押してから**SLEEP**ボタンを押します。
ボタンを押すたびに、スタンバイ状態になるまでの時間が次のように変化します。

フロントパネルの表示部にスリープ時間が数秒間表示され、カウントが表示されます。この表示はスリープ時間が終わるまで表示されます。
設定したスリープ時間が経過すると本機は自動的にスタンバイ状態になります。
スリープタイマーが設定されると、表示部に「SLEEP」表示が点灯します。
スリープモードをキャンセルするにはリモコンの**SLEEP**ボタンを「SLEEP OFF」が表示され、表示部の「SLEEP」表示が消えるまで数回押します。

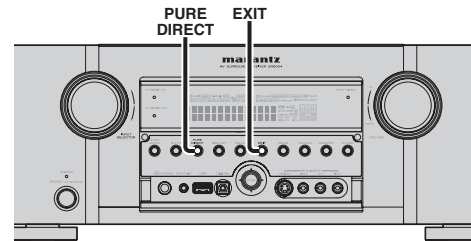
フロントキーロック機能（チャイルドロック機能）

リモコン操作以外の本機の各種操作（POWER ON/STANDBYを除く）を受け付けないようにロックすることが可能です。

フロントキーロックの方法

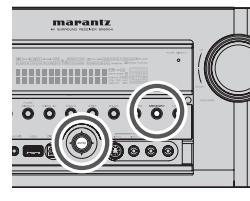
1. フロントパネルの**PURE DIRECT**ボタンと**EXIT**ボタンを同時に3秒以上押し続けます。
2. 表示部に"F-KEY LOCK!"と表示され、POWER ON/STANDBY以外のフロントパネルの操作を受け付けなくなります。

フロントキーロックの解除方法

1. 再度フロントパネルの**PURE DIRECT**ボタンと**EXIT**ボタンを同時に3秒以上押し続けます。
2. 表示部に"F-KEY UNLOCK"と表示され、ロックが解除されます。

デュアルバックアップメモリー機能

本機は電源を切った状態でも設定した各種内容を内部の不揮発メモリーに記憶しています。
デュアルバックアップメモリー機能は記憶した内容をさらに別のメモリーエリアに書き込み、ユーザーが残したい設定をバックアップし、いつでもその設定を呼び出すことができます。

バックアップ

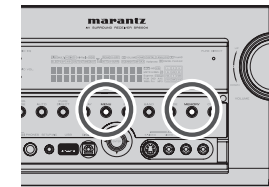
1. 本機を記憶させたい状態にし設定し、**MEMORY**と**ENTER**ボタンを同時に3秒以上押し続けます。

```
MEMORY SAVING
```

と表示され、本機の設定が記憶されます。
この記憶された内容は、再度デュアルバックアップメモリー機能を使って設定の上書きがされるまで残すことができます。

- 以下の設定値はバックアップされません。
  - メインゾーンのボリューム
  - ゾーンのボリューム
  - ゾーンスピーカーのボリューム

メモリー呼出機能

バックアップした設定は次の操作で呼び出せます。

1. **MEMORY**と**MENU**ボタンを同時に3秒以上押し続けます。

```
MEMORY LOAD
```

と表示されて記憶した設定状態に本機を再設定します。
このとき本機は一度スタンバイ状態になります。
また、バックアップデータが存在しない場合は、

```
NO BACKUP
```

と表示されてバックアップのリカバリーはおこなわれません。

- 以下の設定値はバックアップされないため、各ボリュームの値は初期値の状態になります。
  - メインゾーンのボリューム
  - ゾーンのボリューム
  - ゾーンスピーカーのボリューム

ビデオコンバート機能

アナログビデオコンバートについて

本機のモニター出力には映像信号のコンバート機能を装備しています。
このため再生機器と本機の映像入力端子（VIDEO、S-VIDEO、COMPONENT）との接続方法に関わらず、本機モニター出力端子とモニター間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを 1 本つなぐだけで視聴できます。
（設定のしかたについては 33 ページを参照）

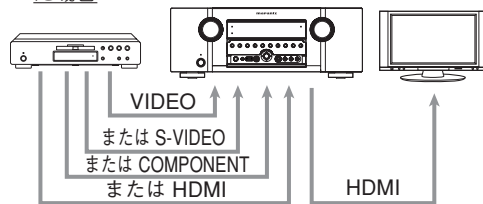
アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバート

本機のアップコンバート機能は入力されたアナログビデオ信号（コンポーネントビデオ信号の解像度が 480i、480p、720p、1080i のとき、または S ビデオおよびビデオのビデオ信号のとき）を HDMI 出力端子に出力することができます。
（設定のしかたについては 33 ページを参照）

ご注意

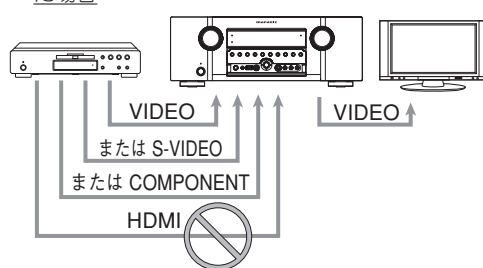
- HDMI入力端子に入力された映像は、HDMI モニター端子からのみ出力されます。本機の HDMI 入力端子に Blu-ray Disc プレーヤーなどの機器を接続した場合は、モニターとも HDMI による接続をおこなってください。
- この機能は、録画用ビデオ出力端子にははたらきません。
- この機能は、スチル、早送り、逆再生等では、正常に再生されないことがあります。
- ビデオコンバート機能は、ご使用になるテレビ、プロジェクター等によっては同期ずれ等の不具合が発生する場合があります。
  このような場合はビデオコンバートの機能を OFF にしてご使用ください。
- この機能は常にビデオ入力信号を監視しており、入力されている信号に合わせてコンバートをするかしないかを決めています。しかし、入力されるビデオ信号によっては正確な検知ができないこともあります。

接続例

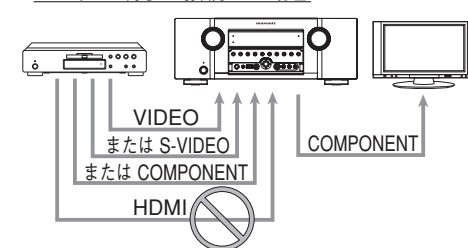
- モニターを本機の HDMIモニター端子に接続した場合

ご注意

- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号の解像度が480i、480p、720p、1080i 以外のときは本機の HDMI モニター端子から映像出力されません。
- 再生機器から入力されるビデオ信号または S ビデオ信号の解像度が480i 以外のときは本機の HDMI モニター端子から映像出力されません。

- モニターを本機のVIDEOモニター端子に接続した場合

ご注意

- 再生機器から入力される HDMI ビデオ信号は本機の VIDEO モニター端子から出力されません。
- 再生機器から入力されるコンポーネントビデオ信号が 480i 以外のときは本機の VIDEO モニター端子から出力されません。

- モニターを本機の COMPONENT VIDEO モニター端子に接続した場合

ご注意

- 再生機器から入力される HDMI ビデオ信号は本機の COMPONENT VIDEO モニター端子から出力されません。

GUI メニューシステムについて

- GUI メニューシステムはすべての映像端子（ビデオ、コンポーネント、HDMI）に出力されます。
- OSD インフォメーションは VIDEO モニター端子にのみ出力されます。
  本機のビデオまたは S-VIDEO の入力端子に入力された映像信号をビデオコンバートし、COMPONENT VIDEO または HDMI の出力端子から出力した場合は、OSD インフォメーションが出力されます。

ご注意

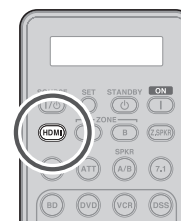
- HDMI OUT端子にモニターが接続されている場合、モニターの機種によっては VIDEO モニター端子から出力されないことがあります。

コンポーネント I/P 機能

本機の VIDEO 回路には I/P コンバート機能が装備されています。
この機能をオンすることで、再生機器から入力されるアナログビデオ信号（ビデオ、S- ビデオ、コンポーネントビデオ）の 480i を 480p にコンバートして本機の COMPONENT VIDEO 出力端子にプログレッシブ出力することができます。
（設定のしかたについては 33 ページを参照してください）

ご注意

HDMI OUT 端子にモニターが接続されている場合、HDMI 解像度が 720p、1080i、1080p または AUTO に設定されているとこの機能は無効になります。

HDMI OUT 切り替え

本機では、HDMI OUTPUT 1 または 2 を選択して使用することができます。
リモコンの **HDMI** ボタンを押すたびに、OUTPUT1 と 2 が交互に変わります。
HDMI OUT 1 と HDMI OUT 2 は同時に出力することはできません。

```
H D M I - 0   =   O U T 1
```

HDMI 解像度

ビデオコンバート機能によってアナログビデオ信号を HDMI 端子へ出力するときの解像度を設定します。

- 480i信号は 480p,720p,1080iまたは 1080p信号に変換できます。
- 720p信号は 1080iまたは 1080p信号に変換できます。
- 1080i信号は 1080p信号に変換できます。

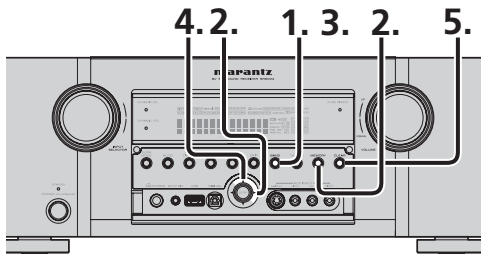
ご注意

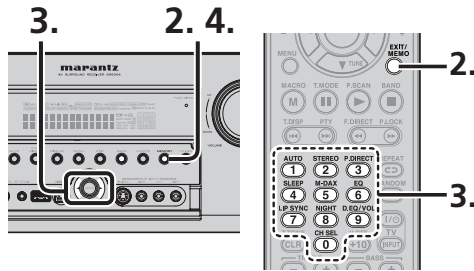
- 1080i、720p または 1080p 信号に対応していないモニターと接続する場合は、1080i、720p または 1080p に設定しないでください。SETUPMENU が表示されません。SETUP MENU が表示されない場合は、本体表示部を見ながら設定を変更してください。
- コンポーネントビデオ出力の解像度は変更できません。

チューナー操作(プリセットメモリ)

本機ではFM/AMの放送局をお好きな順序で60局までプリセットできます。
それぞれの放送局について、必要に応じて周波数と受信モードを記憶させることができます。

オートプリセットメモリ

この機能によって、FMバンドとAMバンドを自動的にスキャンして、適切な電波強度のあるすべての放送局をメモリに記録します。

1. FMを選択する場合は、本機の**BAND**ボタンを押します。
2. **MEMORY**ボタンを押しながら**カーソル**ボタン▶を押します。
   表示部に「AUTO PRESET」と表示され、最も低い周波数からスキャンが開始されます。
3. チューナーが放送局を受信するたびに、スキャンが停止しその放送局を5秒間受信します。
   この間に以下の操作ができます。
   BANDボタンを押すと、バンドを変更できます。
4. この間にボタンが押されない場合は、現在の放送局がPreset 01に記憶されます。
   現在の放送局をスキップしたい場合は、この間に**カーソル**ボタン▲を押します。この放送局はスキップされ、オートプリセットが継続されます。
5. 60個すべてのプリセットメモリが設定されたとき、またはオートスキャンがバンドの上限に達したときは、スキャンは自動的に停止されます。オートプリセットメモリを停止したい場合は、**CLEAR**ボタンを押してください。

マニュアルプリセットメモリ

(本機で操作する場合)

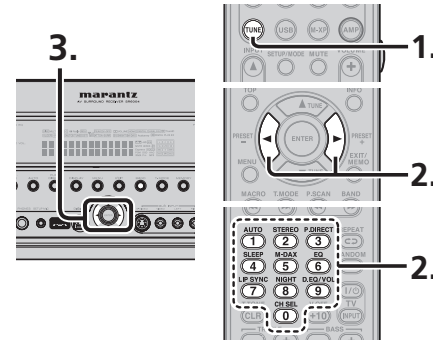
1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。(「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」の項参照)。
2. 本機の**MEMORY**ボタンを押します。インジケーター部で「– –」(プリセット番号)が点滅を始めます。
3. 点滅している間(約5秒間)に**カーソル**ボタン◀/▶を押して、プリセット番号を選択します。
4. もう1度**MEMORY**ボタンを押して確定します。インジケーター部の点滅が止まり、放送局がご指定のプリセットメモリに保存されます。

(リモコンで操作する場合)

1. 設定したい放送局に周波数を合わせます。(「マニュアルチューニング」または「オートチューニング」の項参照)。
2. リモコンの**MEMO**ボタンを押します。インジケーター部で「– –」(プリセット番号)が点滅を始めます。
3. 数字ボタンを押して、設定したいプリセット番号を入力します。

ご注意

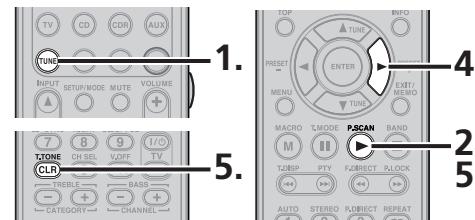
一桁の数値(例えば、2)を入力するときは「02」と入力するか「2」と入力して数秒間待ちます。

プリセット局の呼出

(本機で操作する場合)

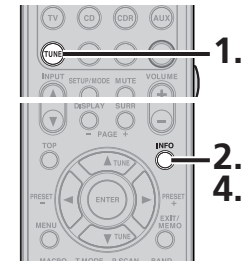
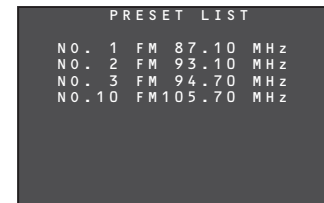
1. 本機の**カーソル**ボタン◀/▶を押して、呼び出したいプリセット局を選択します。

(リモコンで操作する場合)

1. リモコンの**TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. ◀/▶ボタンを何回か押して聴きたいプリセット局を選びます。または数字ボタンを押してプリセット局を呼び出します。

プリセット局のスキャン

1. リモコンの**TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. リモコンの**P.SCAN**ボタンを押します。
   表示部に「PRESET SCAN」と表示され、小さい番号のプリセット局が最初に呼び出されます。
3. プリセット局は順番に呼び出され(No. 1 → No. 2 → No. 3......)、1局ごとに5秒間表示されます。
   保存したプリセット番号がスキップされることはありません。
4. ▶ボタンを押し続けると、プリセット局を早送りできます。
5. 聴きたいプリセット局が受信できたら、リモコンの**CLR**ボタンまたは**P.SCAN**ボタンを押してプリセット・スキャン操作をキャンセルします。

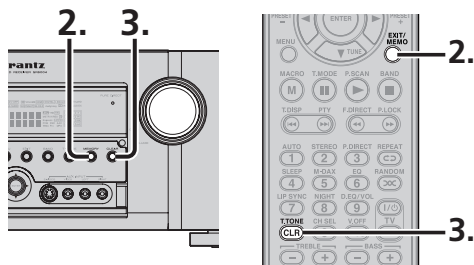
プリセット局のリスト表示

本機にプリセットメモリーした放送局の一覧をモニターテレビに表示させることができます。

1. リモコンの**TUNE**ボタンを2回続けて押します。
2. リモコンの**INFO**ボタンを押すとプリセットされた放送局の一覧がモニターに表示されます。

3. プリセットされた放送局が10局を超える場合はもう一度**INFO**ボタンを押すと次のページが表示されます。

• 表示は操作の数秒後に自動的に消えます。

応用操作

プリセット局の削除

プリセット局をメモリから削除します。

1. 削除したいプリセット番号を呼び出します。（「プリセット局の呼出」参照）

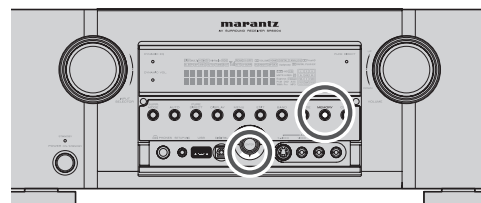
2. 本機の **MEMORY**ボタンまたはリモコンの**MEMO**ボタンを押します。

3. 保存されているプリセット番号が表示部に 5 秒間点滅します。点滅している間に、本機の**CLEAR**ボタンまたはリモコンの**CLR**ボタンを押します。

4. 表示部に「xx CLEAR」と表示され、指定したプリセット番号が削除されたことが示されます。

アドバイス

保存されているプリセット局すべてを削除するには、**T-MODE** ボタンと **ENTER** ボタンを同時に 2 秒間押します。

プリセット局の番号の並びかえ

記憶させた放送局番号が連続していない（例えば以下のように放送局が保存されている）場合

1） 78.0 MHz
2） 80.0 MHz
3） 82.5 MHz
10） 84.7 MHz

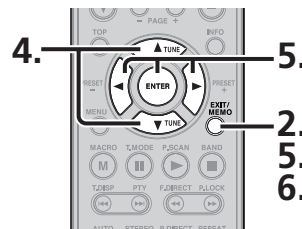
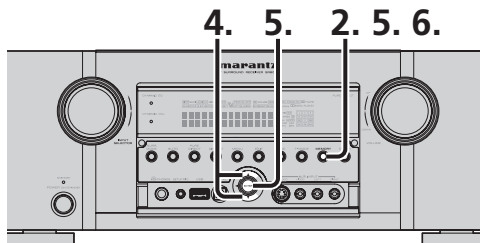
（4 から 9 にはプリセットされた放送局がないので、プリセット 10 を 4 としてプリセットすることができます。）

番号をソートするには、**MEMORY** ボタンと ▼ ボタンを同時に押します。

表示部に「**PRESET SORT**」と表示され、ソートが完了します。

プリセット局名の入力

各プリセット局の名前を、英数字を使用して入力できます。

名前を入力する前に、プリセットメモリ操作によってプリセット局を保存してください。

1. 名前を付けたいプリセット番号を呼び出します。（「プリセット局の呼出」参照）

2. 本機の **MEMORY**ボタンまたは、リモコンの**MEMO**ボタンを3秒以上押します。

3. 放送局名インジケーターの左端が点滅して、文字入力が可能なことを示します。

4. 本機またはリモコンの**カーソル**ボタン ▲/▼ を押すと、アルファベットと数字が以下の順序で表示されます。

A ↔ B ↔ C ... Z ↔ 1 ↔ 2 ↔ 3 ..... 0 ↔ – ↔ ＋ ↔ / ↔（空白）↔ A

UP →

← DOWN

文字を消去するには、本機の**CLEAR**ボタンを押すか、リモコンの**CLR**ボタンを押します。

アドバイス

リモコンの数字ボタンを使用して文字入力をおこなうこともできます。
この場合は次の表を参照してください。

数字キー	画面表示
1	A → B → C → 1 → A
2	D → E → F → 2 → D
3	G → H → I → 3 → G
4	J → K → L → 4 → J
5	M → N → O → 5 → M
6	P → Q → R → 6 → P
7	S → T → U → 7 → S
8	V → W → X → 8 → V
9	Y → Z → space → 9 → Y
0	– → ＋ → / → 0 → –

5. 入力する最初の文字を選択したら、本機の**MEMORY**、**ENTER**ボタン、またはリモコンの**MEMO**ボタンを押します。
入力が確定したら、次のカラムが点滅を開始します。次のカラムも同じ方法で入力します。
設定する文字を変更するには、本機またはリモコンの◀または▶を押してください。

アドバイス

空白部分にはスペースを入力してください。

6. 名前を保存するときは、本機の**MEMORY**ボタン、またはリモコンの **MEMO**ボタンを 2秒以上押します。

USB 操作

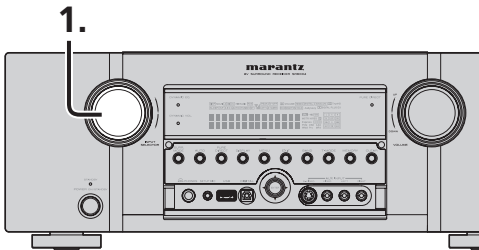
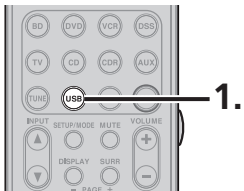
本機は USB 接続端子を搭載しており、USB Mass Storage Class 規格に対応している USB メディアを使用することができます。

本機に対応する USB メディアのファイルシステム、音楽ファイルについては 51、52 ページを参照してください。

USB 操作の準備をする

ご注意

操作をおこなう前に、本機とモニターが正しく接続されていることを確認してください。

（本機で操作する場合）

1. **INPUT SELECTOR**つまみを回してUSBを選択します。

（リモコンで操作する場合）

1. **USB**ボタンを2回続けて押します。

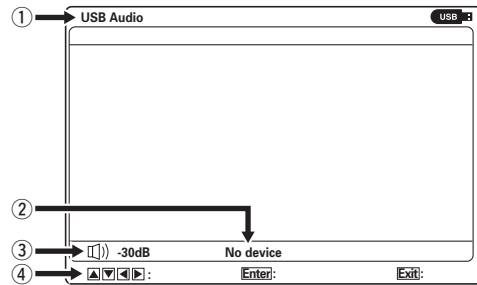
2. トップメニュー画面が表示されます。

メインインフォメーション表示

①→ U S B :
②→ N O D E V I C E

①**ファンクション表示：**
ファンクション名を表示します。

②**ステータス表示：**
USB機能の状態を表示します。また、エラーメッセージも表示します。（51ページ参照）

モニター画面表示（トップメニュー）

①**ファンクション表示：**
ファンクション名を表示します。

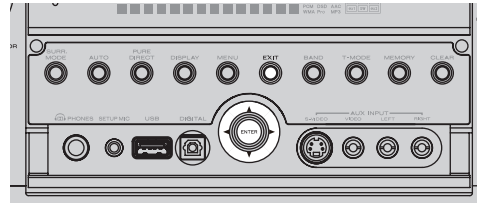
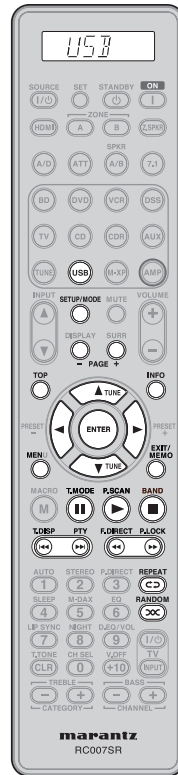
②**ステータス表示：**
USB機能の状態を表示します。（51ページ参照）

③**ボリューム表示：**
ボリュームレベルを表示します。

④**ガイダンス表示：**
操作キーの説明を表示します。

ご注意

- 本機のモニター画面、本機表示部に表示する文字はASCII文字のみです。それ以外の文字は"＊"に変換して表示します。
- 10分間操作がない場合、モニター画面はスクリーンセーバー表示に変わります。
- トップメニューを表示しているとき、本機のENTERボタンを3秒以上押し続けると、スクリーンセーバーを有効または無効に切り替えることができます。

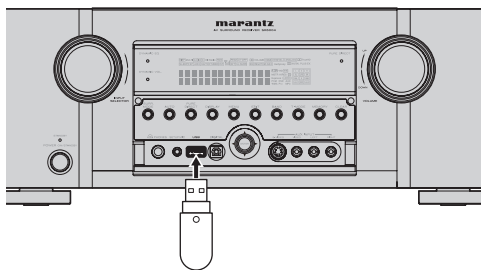
本機

リモコン

	USB 操作
▲/▼（リモコン、本機）	カーソルの移動
▶（リモコン、本機）	下位フォルダに移動
◀（リモコン、本機）	上位フォルダに移動
ENTER（リモコン、本機）	カーソル位置がフォルダの場合、選択したフォルダに移動 カーソル位置がファイルの場合、選択したファイルを再生
EXIT（本機）	停止
■（STOP）（リモコン）	停止
TOP（リモコン）	最上位フォルダ、階層に移動
PAGE +/–（リモコン）	(+)次ページ (–)前ページ
▶（PLAY）（リモコン）	再生
II（PAUSE）（リモコン）	一時停止／解除
⏮/⏭（SKIP）（リモコン）	(⏭)次のファイルを再生 (⏮)前のファイルを再生 （ファイルの先頭から1秒以上経過の場合は頭出し）
◀◀/▶▶（SEARCH）（リモコン）	(▶▶)早送り (◀◀)早戻し （押すたびに速度可変）
INFO（リモコン）	リスト画面/ステータス画面切り替え
REPEAT（リモコン）	リピート（繰り返し）
RANDOM（リモコン）	ランダム
MENU（リモコン）	–
SETUP/MODE（リモコン）	–

- リモコンで操作をおこなうときは、**USB**ボタンを 1回押して、リモコンを USBモードに切り替えてください。

応用操作

USB メディアを接続する

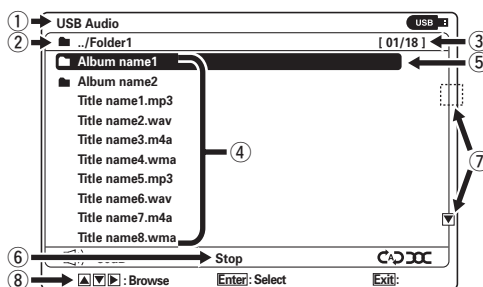
1. 本機のフロントパネルのUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBメディアを接続します。

2. USBメディア内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されます。

メインインフォメーション表示

①→	U S B : F o l d e r 1
②→	■ A l b u m n a m e

①**ファンクション表示／親フォルダ名：**
ファンクション名と親フォルダ名を表示します。

②**カーソル情報：**
現在選択されているファイルやフォルダ名を表示します。

モニター画面表示（リスト）

①**ファンクション表示：**
ファンクション名を表示します。

②**親フォルダ名：**
現在リスト表示している親フォルダ名を表示します。

③**リスト番号／総数：**
［カーソル位置のリスト番号／ファイルと子フォルダを合わせた総数］を表示します。

④**子フォルダ、ファイルリスト：**
子フォルダと、ファイルをUSB ストレージに保存した順序で表示します。ファイルとフォルダが混在する場合は、フォルダを先頭に表示します。

⑤**選択カーソル：**
ファイルやフォルダを選択します。

⑥**再生ステータス：**
再生中ファイルの再生ステータスを表示します。

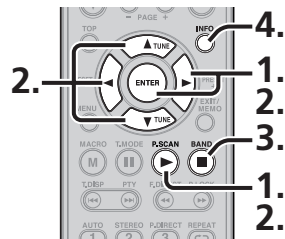
⑦**ページインジケーター：**
リストのページアップ／ダウンが可能なときに表示します。

⑧**ガイダンス表示：**
操作ボタンの説明を表示します。

アイコン表示

■：フォルダ（親フォルダ、子フォルダ）

♫：再生しているファイル

USB メディアのファイルを再生する

1. 再生したい曲を選び、**ENTER**または▶ボタンを押します。
ステータス表示画面が表示され、ファイルリストの順に曲の再生を開始します。

2. 再生中に別のファイルを再生したい場合は、◀ボタンを押し、ファイルリストを表示します。▲/▼ボタンで任意の曲まで移動し、**ENTER**または▶(PLAY)ボタンを押します。

3. 再生を停止したい場合は、■ボタンを押します。

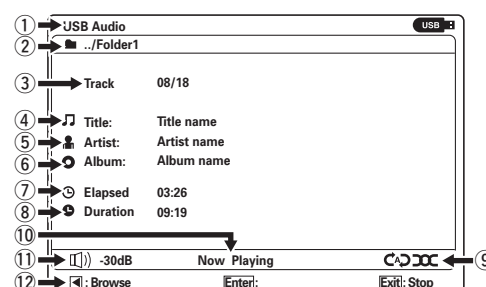
4. リスト画面表示中にステータス画面に戻りたい場合は、**INFO**ボタンを押します。

メインインフォメーション表示

①→	U S B : A r t i s t n a m
②→	▶ T i t l e n a m e

①**ファンクション表示／アーティスト名：**
ファンクション名とアーティスト名を表示します。アーティスト名がない場合は、「Unknown Artist」と表示します。

②**再生ステータス／タイトル名：**
再生ステータスと、タイトル名を表示します。タイトル名がない場合はファイル名を表示します。

モニター画面表示（ステータス）

①**ファンクション表示：**
ファンクション名を表示します。

②**親フォルダ名：**
現在再生している親フォルダ名を表示します。

③**現在のファイル番号／総数：**
［現在再生しているファイルのファイル番号／親フォルダに含まれるファイル総数］を表示します。

④**タイトル名表示：**
再生ファイルのタイトル名を表示します。タグ情報がない場合は、ファイル名を表示します。

⑤**アーティスト名表示：**
再生ファイルのアーティスト名を表示します。アーティスト名がない場合は、「Unknown Artist」と表示します。

⑥**アルバム名表示：**
再生ファイルのアルバム名を表示します。アルバム名がない場合は、「Unknown Album」と表示します。

⑦**経過時間：**
再生ファイルの経過時間表示。

⑧**コンテンツ時間：**
再生ファイルの総時間表示。

⑨**リピート／ランダムステータス：**
リピート、ランダムの状態表示。OFFのときは表示しません。

⑩**再生ステータス：**
現在選択されているファイルの再生ステータスを表示します。

⑪**ボリューム表示：**
ボリュームレベルを表示します。

⑫**ガイダンス表示:**
操作ボタンの説明を表示します。

アイコン表示

画面に表示されるアイコンは次のとおりです。
：フォルダ(親フォルダ)
：ファイル
：アーティスト
：アルバム
：経過時間
：コンテンツ時間
：全ファイルリピート再生中
：フォルダ内の全ファイルリピート
：1ファイルのみリピート再生中
：ランダム再生中

繰り返し聴く(リピート再生)

USBメディアに入っている曲を1曲リピート、フォルダ内リピート、または全曲リピートで再生することができます。

リモコンの **REPEAT** ボタンを押すごとに、下記の順で切り替わります。

OFF ⟶ ALL ⟶ Folder ⟶ 1

：全ファイルリピート
：フォルダ内リピート
：1ファイルリピート

ご注意

フォルダ内リピートで再生するときは、選択された親フォルダ内のファイルをリピート再生します。(子フォルダ内のファイルを除きます。)

順不同で曲を再生する(ランダム再生)

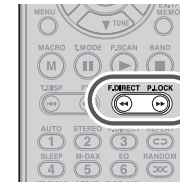
USBメディアに入っている曲をランダムに再生することができます。

リモコンの **RANDOM** ボタンを押すごとにON→OFFの順に切り替えます。
ランダム再生は、リピート再生の設定によってランダム再生範囲が変わります。

リピートなし： USBデバイス内のすべてのオーディオファイルをランダム再生します。

リピートあり： リピート設定の再生範囲で、ランダムリピート再生します。

ONを選択したときに▶ボタンを押すと、ランダム再生を開始します。

聴きたい部分を再生する(サーチ)

再生中にリモコンの ◀◀,▶▶ ボタンを押すと、サーチを開始します。
その後、リモコンの ◀◀,▶▶ ボタンを押すとサーチスピードを変更することができます。

- Search +／Search -

▶▶(Search +)／◀◀(Search -)ボタンを押すごとに、下記の順に切り替わります。

SEARCH 1 + → SEARCH 2 + → SEARCH 3 + → PLAY → SEARCH 1 +

→ SEARCH 1 – → SEARCH 2 – → SEARCH 3 – → PLAY → SEARCH 1 – →

サーチモード	モニター画面表示	FL DISPLAY表示	動作
SEARCH 1 +/–	(+)1 Search +	(+)1 ▶▶	2倍速で早送り
	(–)1 Search –	(–)1 ◀◀	2倍速で早戻し
SEARCH 2 +/–	(+)2 Search +	(+)2 ▶▶	4倍速で早送り
	(–)2 Search –	(–)2 ◀◀	4倍速で早戻し
SEARCH 3 +/–	(+)3 Search +	(+)3 ▶▶	10倍速で早送り
	(–)3 Search –	(–)3 ◀◀	10倍速で早戻し

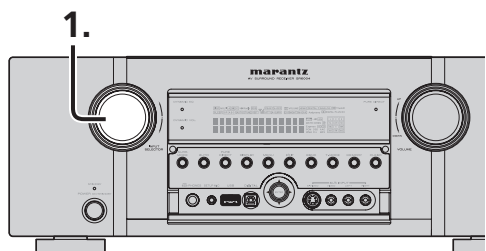
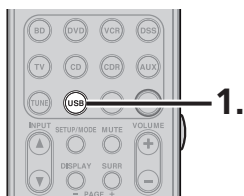
応用操作

iPod 操作

本機は第 5 世代以降の iPod および iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhone と接続すると、iPod から音声がデジタル(LPCM) 伝送され、より高音質で再生することができます。

対応する音楽ファイル、対応する iPod/iPhone については 52 ページをご覧ください。

iPod 操作の準備をする

(本機で操作する場合)

1. INPUT SELECTORつまみを回してUSBを選択します。

(リモコンで操作する場合)

1. USBボタンを2回続けて押します。

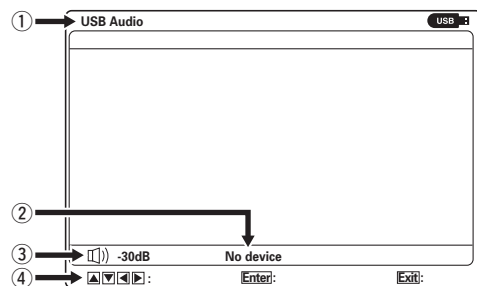
2. トップメニュー画面が表示されます。

メインインフォメーション表示

①→ U S B :
②→ N O D E V I C E

①**ファンクション表示:**
ファンクション名を表示します。

②**ステータス表示:**
USB機能の状態を表示します。また、エラーメッセージも表示します。(51ページ参照)

モニター画面表示(トップメニュー)

①**ファンクション表示:**
ファンクション名を表示します。

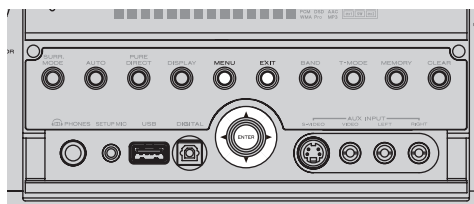
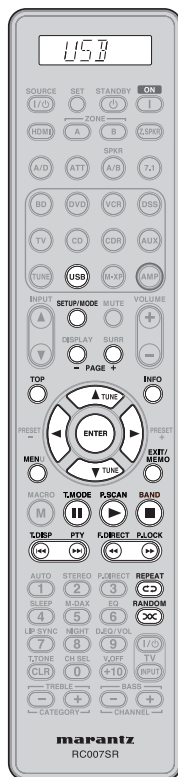
②**ステータス表示:**
USB機能の状態を表示します。(51ページ参照)

③**ボリューム表示:**
ボリュームレベルを表示します。

④**ガイダンス表示:**
操作キーの説明を表示します。

ご注意

- 本機のモニター画面、FL DISPLAY に表示する文字はASCII 文字のみです。それ以外の文字は"＊"に変換して表示します。
- 10分間操作がない場合、モニター画面はスクリーンセーバー表示に変わります。
- トップメニューを表示しているとき、本機のENTER ボタンを3秒以上押し続けると、スクリーンセーバーを有効または無効に切り替えることができます。

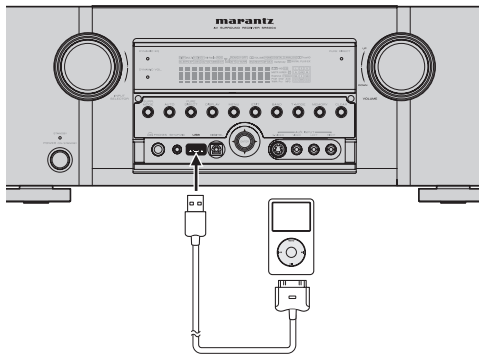
本機

リモコン

	iPod 操作
▲/▼ **(リモコン、本機)**	カーソルの移動
▶ **(リモコン、本機)**	下位アイテムに移動
◀ **(リモコン、本機)**	上位アイテムに移動
ENTER **(リモコン、本機)**	カーソル位置がアイテムの場合、選択したアイテム内に移動 カーソル位置が曲の場合、選択した曲を再生
EXIT **(リモコン、本機)**	停止
■(STOP) **(リモコン)**	停止
TOP **(リモコン)**	最上位
PAGE + / – **(リモコン)**	(+)次ページ (–)前ページ
▶(PLAY) **(リモコン)**	再生
II (PAUSE) **(リモコン)**	一時停止
⏮ / ⏭(SKIP) **(リモコン)**	(⏭)次の曲を再生 (⏮)前の曲を再生
⏮ / ⏭(SKIP) **(リモコン)**	(▶▶)早送り (◀◀)早戻し (押し続け)
INFO **(リモコン)**	リモートモードの場合リスト画面/ステータス画面を切り替え ダイレクトモードの場合AUX VIDEO 入力画面/ステータス画面を切り替え
⊂⊃ REPEAT **(リモコン)**	リピート(繰り返し)
⤮ RANDOM **(リモコン)**	シャッフル
MENU **(リモコン)**	上位アイテムに移動
SETUP/MODE **(リモコン)**	ダイレクト/ リモートモードの切り替え

- リモコンで操作をおこなうときは、USBボタンを 1回押して、リモコンを USBモードに切り替えてください。

iPod を接続する

本機は iPod を操作するためにダイレクトモード、リモートモードの２つの操作モードがあります。本機の電源投入後はダイレクトモードになります。

1. 本機のフロントパネルの USB端子に iPodを接続します。
iPodを検出すると、ファンクション表示がUSBからiPodに変わります。

2. 本機のメインインフォメーションに現在再生中、および一時停止中の曲情報を表示します。

なお、モニターには、フロントパネル内の AUX のビデオ入力端子に接続されたビデオ機器の映像を出力することが可能です。（ダイレクトモードのみ）

ご注意

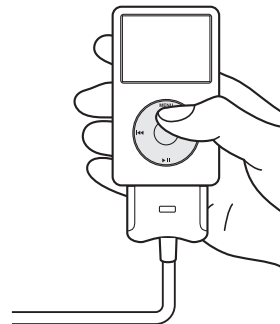
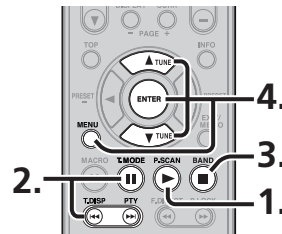
- 対応する iPod については、52ページを参照してください。
- ダイレクトモードはiPod第5世代およびiPod nano第１世代には対応しておりません。これらのiPodを接続したときは"Press MODE key"が表示されます。MODEボタンを押してリモートモードに変更してご使用ください。（モード切り替えは50ページ参照）
- HDMIでTVを接続している場合にはINFOボタンを押してから表示が切り替わるまで時間を要する場合があります。
- AUX INPUTに接続されたVIDEO再生機器によっては再生開始時に頭切れを起こす場合があります。

メインインフォメーション表示

①ファンクション表示/アーティスト名：
ファンクション名とアーティスト名を表示します。

②ステータス表示/タイトル：
再生の状態とタイトルを表示します。

iPod 内の曲を再生する（ダイレクトモード）

このモードは iPod 本体で操作するモードです。

iPod の基本操作は本機のリモコンでも可能です。

1. 再生したい場合は▶ボタンを押します。

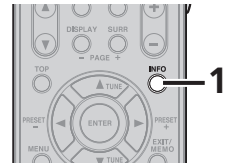
2. 一時停止したい場合は⏸ボタンを押します。

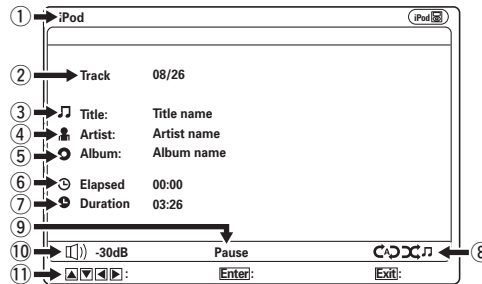
再生中に次の曲に移りたい場合は ⏭ ボタン
再生中に頭出し、または前の曲に移りたい場合は ⏮ ボタンを押します。

3. 停止したい場合は■ボタンを押します。

4. ▲/▼、ENTER、MENUボタンで操作することができます。

ステータス画面を見る

ダイレクトモード中は、通常 AUX 入力端子からの映像をモニターへ出力しますが、このときに現在再生している曲の情報（ステータス画面）を見ることができます。

1. INFOボタンを押すたびに、ステータス画面とAUX入力端子からの映像が切り替わります。

モニター画面表示（ステータス画面）

①ファンクション表示：
ファンクション名を表示します。

②現在の曲番号/総数：
現在再生している曲番号、現在のアイテム内の総局数を表示します。

③タイトル名表示：
再生ファイルのタイトル名を表示します。タグ情報がない場合は、ファイル名を表示します。

④アーティスト名表示：
再生ファイルのアーティスト名を表示します。アーティスト名がない場合は、「Unknown Artist」と表示します。

⑤アルバム名表示：
再生ファイルのアルバム名を表示します。アルバム名がない場合は、「Unknown Album」と表示します。

⑥経過時間：
再生ファイルの経過時間表示。

⑦総時間：
再生ファイルの総時間表示。

⑧リピート／シャッフルステータス：
リピート、シャッフルの状態表示。OFFのときは表示しません。

⑨再生ステータス：
現在選択されているファイルの再生ステータスを表示します。

⑩ボリューム表示：
ボリュームレベルを表示します。

⑪ガイダンス表示：
操作ボタンの説明を表示します。

アイコン表示

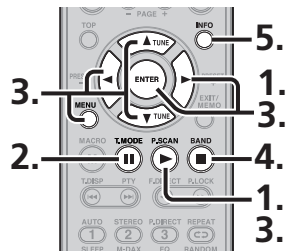
♫：曲
：アーティスト
：アルバム
：経過時間
：総時間
：全曲リピート
：１曲リピート
：曲をシャッフル
：アルバムをシャッフル

ご注意

リピート／シャッフルアイコンは正しく表示されない場合があります。

応用操作

iPod 内の曲を再生する（リモートモード）

モニター画面を見ながら曲を選択したい場合はリモートモードに変更してください。（50 ページ参照）尚、この時 iPod 本体での操作ができなくなります。

1. 再生したい曲を選び、**ENTER**または▶ボタンを押します。
ステータス表示画面が表示され、タイトル、リストの順に曲の再生を開始します。

2. 一時停止したい場合は❚❚ボタンを押します。

3. 再生中に別のファイルを再生したい場合は、**MENU**ボタンまたは◀ボタンを押し、アイテム表示します。
▲/▼ボタンで任意の曲まで移動し、**ENTER**または▶ボタンを押します。

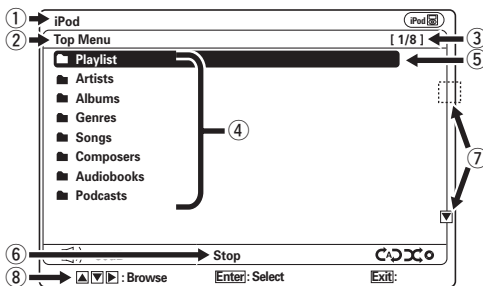
4. 再生を停止したい場合は、■ボタンを押します。

5. リスト画面表示中にステータス画面に戻りたい場合は、**INFO**ボタンを押します。

メインインフォメーション表示

①**ファンクション表示／上位アイテム名：**
ファンクション名と上位のアイテム名を表示します。

②**カーソル情報：**
現在選択されている曲やアイテム名を表示します。

モニター画面表示（アイテムリスト）

①**ファンクション表示：**
ファンクション名を表示します。

②**上位アイテム名：**
上位のアイテム名を表示します。

③**リスト番号／総数：**
［カーソル位置のリスト番号／アイテムまたは曲の総数］を表示します。

④**アイテム、曲リスト：**
アイテムまたは曲のリストを表示します。

⑤**選択カーソル：**
アイテムまたは曲を選択します。

⑥**再生ステータス：**
再生中ファイルの再生ステータスを表示します。

⑦**ページインジケーター：**
リストのページアップ／ダウンが可能な時に表示ができます。

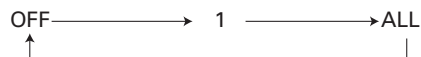
⑧**ガイダンス表示：**
操作ボタンの説明を表示します。

アイコン表示

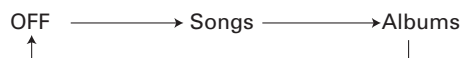
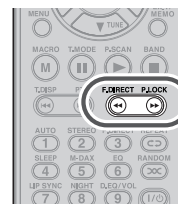
📁：アイテムアイコン

繰り返し聴く（リピート再生）

iPod 本体のリピート設定を変更します。

リモコンの **REPEAT** ボタンを押すごとに、下記の順で切り替わります。

曲をシャッフルして聴く（シャッフル再生）

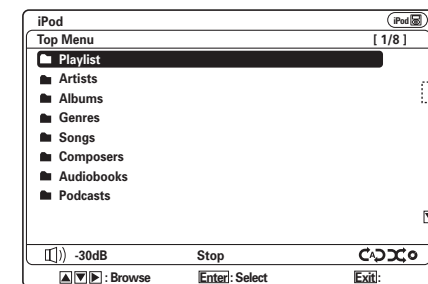
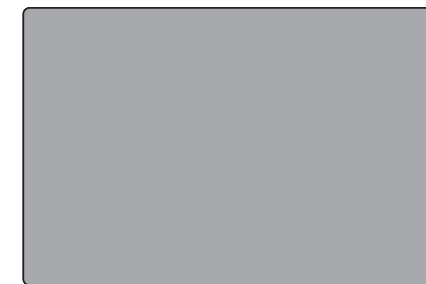
iPod 本体のシャッフル設定を変更します。

リモコンの **RANDOM** ボタンを押すごとに、下記の順で切り替わります。

聴きたい部分を再生する（サーチ）

再生中にリモコンの ◀◀、▶▶ ボタンを押し続けると、サーチを開始します。

iPod の操作モードを変更する

1. **SETUP/MODE**ボタンを押します。
iPod操作モードが変わります。
（ダイレクトモード⇔リモートモード）

リモートモード中に iPod を本機から取り外したり、本機の電源を切った場合はダイレクトモードに戻ります。

モニター画面表示（リモートモード切り替え時）

モニター画面表示（ダイレクトモード切り替え時）

(AUX input - video)

ダイレクトモード中は、本機前面の AUX 端子に入力されている映像を出力します。

その他 (USB / iPod)

ステータス表示

FL ディスプレイに下表のような表示をした場合は本機は以下の様な状況になっています。

FL ディスプレイ表示	モニター画面表示	状況
NO DEVICE	**No device**	USB メディアまたは iPod が正しく接続されていません。
CHECK DEVICE	**Check device**	認識できないデバイスが接続されています。
CHECK FS	**Check FS**	対応していないファイルシステムの USB メディアが接続されました。
!OVER CURRENT!	**!Over current!**	本機の USB 端子の過電流保護がはたらきました。
NO AUDIO FILE	**No audio file**	再生できるファイルが記録されていない USB メディアが接続されました。
CHECK FILE	**Check file**	本機が、再生できないファイルを再生しようとしました。
PRESS TOP KEY	**Press top key**	ファイルの読み込みを失敗しました。
PRESS MODE KEY	**Press mode key**	ダイレクトモードで正しく動作しない iPod が接続されました。
CHECK iPod	**Check iPod**	iPod を正しく検出できません。

対応メディア (USB)

- 本機の USB端子とパソコンを接続しないでください。本機の USB端子にパソコンから音楽を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、ご使用できない場合があります。
- ご使用になる USBメディアによっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- ご使用になる USBメディアによっては、正しく内容を読み込めない場合や、電源が正しく供給されない場合があります。
- USBメディアの使用に際して、データの損失や変更、メディアの故障などが発生した場合、弊社は一切責任を負うことが出来ませんので、あらかじめご了承ください。USBメディアに保存されているデータは、本機でご使用になる前にバックアップを取っておくことをお勧めします。

規格	USB 2.0 Full - Speed 準拠
接続対象	USB マス・ストレージ・クラス対応機器 ― USB Flash メモリ（256MB 以上に対応） ― USB 接続 HDD ― 携帯 Audio Player を USB メモリとして使用した場合
サブクラス	SCSI

対応ファイルシステム

- USBメディアが複数のパーティションで区切られている場合、本機では最初のパーティションだけを読み込むことができます。また、パーティションの構成によっては、正しく読み込めない場合があります。

フォーマット	FAT16 / FAT32
階層	再生できるフォルダ階層は、ルートを除く 8 階層まで
パーティション	先頭のパーティションで 255GByte 以内の基本領域
最大フォルダ数	700
最大ファイル数	65535
最大フォルダ文字数	64 Byte（VFAT ロング・ネーム対応）
最大ファイル文字数	640Byte（VFAT ロング・ネーム対応）拡張子（.xxx）含む

応用操作

再生可能なファイルフォーマット

- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- プレイリストには対応していません。
- 選択した音楽ファイルが、本機に対応しているフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズを出力する場合があります。

対応規格	拡張子	文字情報対応	規格	対応範囲	
MP3	mp3	ID3V1/ID3V2	MPEG-1 Layer-Ⅲ	サンプリング周波数	32kHz – 48kHz
				ビットレート	32kbps – 320kbps (CBR/VBR)
	mp3	ID3V1/ID3V2	MPEG-2 LSF Layer-Ⅲ	サンプリング周波数	16kHz – 24kHz
				ビットレート	8kbps – 160kbps (CBR/VBR)
WMA	wma	WMA Tag	Microsoft Windows Media Audio 9.2準拠	サンプリング周波数	32kHz – 48kHz
				ビットレート	8kbps – 160kbps (CBR) Peak 384kbps (VBR)
AAC	m4a	AAC ヘッダ (iTunes コンテンツ情報)	MPEG-2/4 AAC LC	サンプリング周波数	8kHz – 48kHz
				ビットレート	8kbps – 320kbps (CBR/VBR)
WAV	wav	None	RIFF Waveform Audio Format	サンプリング周波数	32kHz – 48kHz
				ビット数	16bit

iPod の再生について

- 対応iPod

Made for

- iPod touch (2nd generation)
- iPod touch (1st generation)
- iPod classic
- iPod with video
- iPod nano (4th generation)
- iPod nano (3rd generation)
- iPod nano (2nd generation)
- iPod nano (1st generation)

Works with

- iPhone
- iPhone 3G

iPod touch
1st generation
8GB 16GB 32GB

iPod touch
2nd generation
8GB 16GB 32GB

iPod classic
80GB 160GB

iPod classic
120GB

iPod
5th generation
(video)
30GB

iPod
5th generation
(video)
60GB 80GB

iPod nano
4th generation (video)
8GB 16GB

iPod nano
3rd generation
(video)
4GB 8GB

iPod nano
2nd generation
(aluminum)
2GB 4GB 8GB

iPod nano
1st generation
1GB 2GB 4GB

iPhone
4GB 8GB 16GB

iPhone 3G
8GB 16GB

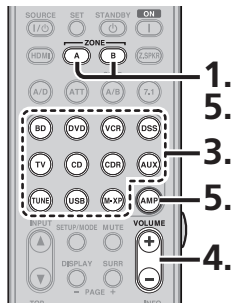
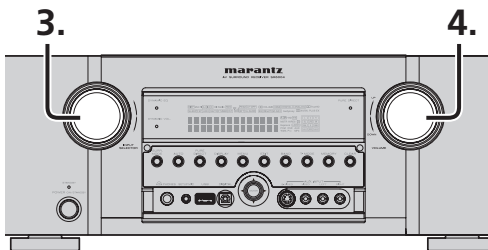
- 接続する iPodの機種によっては、一部動作が異なる場合があります。
- iPodのソフトウェアが古いと正常に動作しないことがあります。必ず最新のiPodソフトウェアでお使いください。
- iPodは、著作権のないマテリアル、または法的に複製･再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製･再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- 本機からiPodのイコライザーを操作することはできません。本機にiPodを接続する前に、iPodのイコライザーを「オフ」に設定することをお勧めします。
- iPodのクリック音の設定は「Off」または「スピーカー」をお勧めします。
- 本機とiPodを組み合わせてご使用の際、iPodのデータに不具合が生じても、データの補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- iPodで再生可能なファイル(AAC、MP3、Appleロスレス、WAV、AIFF)であれば本機で再生可能です。

ゾーンシステム

ゾーンシステム機能は、本機の設置場所（メインゾーン）以外の部屋でメインゾーンと同じ、もしくは異なるソースを聴くことができます。
ゾーンシステム機能をお使いになるには、本機のゾーンA出力端子またはゾーンB出力端子をゾーン用アンプと接続してください。

メインゾーンでサラウンドバックスピーカーまたは、スピーカーC（詳細は 18 ページを参照）をご使用になられない場合は、サラウンドバック用のアンプを使用した、ゾーンスピーカーシステムを使用することができます。

本機はソース・セレクター、スリープ・タイマー、リモートコントロールなどのゾーンシステム機能に対応しています。

ゾーン出力端子を使用したゾーン再生

1. リモコンの**ZONE A**ボタンを押します。
2. 本機は ZONE設定モードに入り、以下のような表示が10秒間表示されます。

```
→ZA  DVD  -18dB
 ZB  DVD(D2)
```

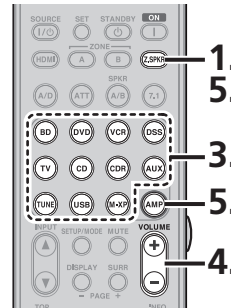
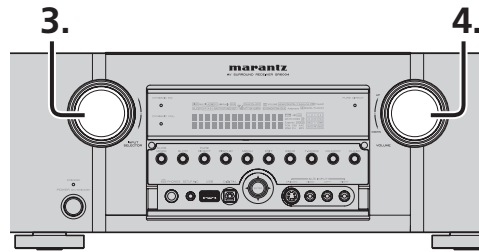
3. 本機またはリモコン（アンプモードに設定）の**カーソル**ボタン▲/▼を押してZA（ゾーンA）またはZB（ゾーンB）を選択します。
4. 本機の **INPUT SELECTOR**つまみまたはリモコンの**ソース**ボタンで入力ソースを選択します。
5. ゾーン Aの場合はさらに本機の **VOLUME**つまみまたはリモコンの **VOLUME +/–**ボタンで音量を調節します。

ご注意

- ゾーンAではHDMIまたはデジタル入力（光または同軸接続されたソースは使用できません。）ゾーンBではデジタル入力（光または同軸接続されたソースのみ使用できます。）
- スリープタイマーやモノラル出力などの機能はメインメニューで設定してください。（34ページ参照）
- ゾーンBの音量は本機で調整することはできません。ゾーンBに接続したアンプで調整してください。
- コンポーネントビデオ出力をメインゾーンで使用しない場合には、ゾーンA用として使用することができます。33ページを参照してください。

6. ゾーン機能を解除するには、手順 **4.**で入力ソースにOFFを設定します。

ゾーンスピーカー A 端子を使用したゾーン再生

サラウンドバックスピーカーおよびスピーカーC を使用しない場合、ゾーンスピーカーA 端子に別室のスピーカーを接続して音楽を聴くことができます。

1. リモコンの **Z.SPKR**（ゾーンスピーカー）ボタンを押します。
2. ゾーンスピーカー A設定モードに入り下記のような表示が10秒間あらわれます。
   ゾーンスピーカーAを選択したときの表示

```
ZSA  DVD  -18dB
```

3. 本機の**INPUT SELECTOR**つまみまたはリモコンのソースボタンで聴きたいソースを選択します。
4. 本機の **VOLUME**つまみまたはリモコンの **VOLUME+ /–**ボタンを押して音量を調整します。
5. ゾーンスピーカー A機能を解除するにはもう一度**Z.SPKR**ボタンを押します。
   MULTIインジケーターが消灯します。

ご注意

- ゾーンスピーカーAは、HDMIまたはデジタル入力（光または同軸）接続されたソースは使用できません。
- スリープタイマーやモノラル出力などの機能はメインメニューで設定してください。（34ページ参照）

ゾーンスピーカーAについて

- ゾーンスピーカー Aとゾーン Aを別々のソースで同時に使用することはできません。
- ゾーンスピーカーAを使用するには、スピーカーセットアップメニューで「Surround Back」（サラウンドバックスピーカー）を「Zone SPKR」に設定してください。（29ページ参照）
- ゾーンスピーカーAは、スピーカーCと同時には使用できません。リアパネルのSPEAKER Cスイッチを OFFにしてください。（18ページ参照）
- ゾーンスピーカー Aが使用できない場合にZ.SPKRボタンを押すと「Check! Height or Surr. Back Speakers」（ハイトスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーをチェックしてください）と表示されます。

応用操作

リモコンでマランツ製 AV 機器を操作する

付属リモコンを使って、マランツ製品の基本操作をおこなうことができます。

1. **ソース**ボタンを押してリモコンを操作したいソース機器のモードに切り替えます。
2. 以下の表を参照し、各操作ボタンを押してソース機器を操作します。
   - 各ソース機器の詳細な操作については各ソース機器の取扱説明書を参照してください。
   - 一部のソース機器は本リモコンから操作できないことがあります。

BD モード

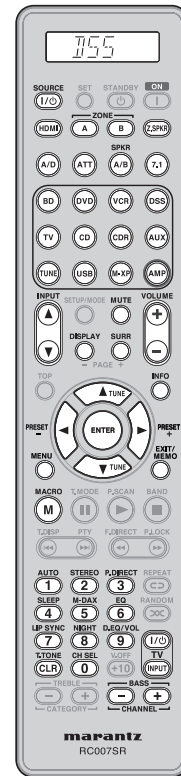
SOURCE ON/OFF	プレーヤーの電源オン／スタンバイ
STANDBY	プレーヤーの電源スタンバイ (*)
POWER ON	プレーヤーの電源オン (*)
HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
SETUP	プレーヤーの設定メニューを呼び出し (*)
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
TOP	トップメニューを呼び出し (*)
INFO	ディスク情報を表示 (*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	プレーヤーのディスクメニューを呼び出し
EXIT	プレーヤーの設定メニューを終了 (*)
MACRO	マクロモードを選択
II	一時停止
▶	再生
■	停止
I◀◀/▶▶I	チャプターまたはトラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
0-9,+10	数字を入力 (*)
T.TONE (CLR)	入力を取り消し (*)
REPEAT	リピート再生 (*)
RANDOM	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

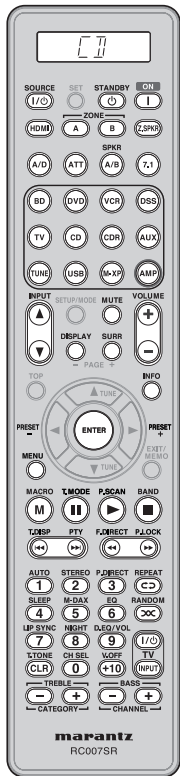
DVD モード

SOURCE ON/OFF	プレーヤーの電源オン／スタンバイ
STANDBY	プレーヤーの電源スタンバイ (*)
POWER ON	プレーヤーの電源オン (*)
HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
SETUP	プレーヤーの設定メニューを呼び出し (*)
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
TOP	トップメニューを呼び出し (*)
INFO	ディスク情報を表示 (*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	プレーヤーのディスクメニューを呼び出し
EXIT	プレーヤーの設定メニューを終了 (*)
MACRO	マクロモードを選択
II	一時停止
▶	再生
■	停止
I◀◀/▶▶I	チャプターまたはトラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
0-9,+10	数字を入力 (*)
T.TONE (CLR)	入力を取り消し (*)
REPEAT	リピート再生 (*)
RANDOM	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

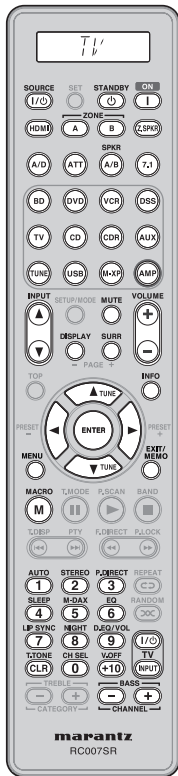
(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

DSS(衛星放送チューナー) モード

SOURCE ON/OFF	衛星チューナーの電源オン／スタンバイ
HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
INFO	衛星放送チューナーの情報を表示 (*)
カーソル	カーソルを移動
ENTER	選択した項目を決定
MENU	メニューを呼び出し
EXIT	メニューを終了 (*)
MACRO	マクロモードを選択
0-9	数字を入力
T.TONE (CLR)	入力を取り消し (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
BASS/CH	衛星放送チューナーチャンネルアップ／ダウン

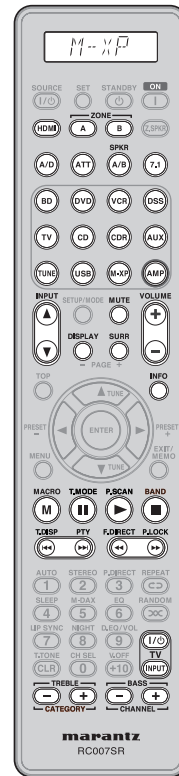
(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

CD モード

SOURCE ON/OFF	CDの電源オン／スタンバイ
STANDBY	CDの電源スタンバイ (*)
POWER ON	CDの電源オン (*)
HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	アンプモードの機能が有効
INFO	アンプモードの機能が有効
ENTER	選択した項目を決定 (*)
MENU	メニューを呼び出し (*)
MACRO	マクロモードを選択
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮/⏭	トラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
0-9,+10	数字を入力 (*)
T.TONE(CLR)	入力を取り消し (*)
REPEAT	リピート再生 (*)
RANDOM	ランダム再生 (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

TV(テレビ) モード

SOURCE ON/OFF	テレビの電源オン／スタンバイ切り替え
STANDBY	テレビの電源をスタンバイ (*)
POWER ON	テレビの電源オン (*)
HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/–	アンプモードの機能が有効
INFO	テレビの情報表示 (*)
カーソル	カーソルを移動 (*)
ENTER	選択した項目を決定 (*)
MENU	テレビの設定メニューを呼び出し (*)
EXIT	テレビの設定メニューを終了 (*)
MACRO	マクロモードを選択
0-9,+10	数字を入力 (*)
T.TONE（CLR）	入力を取り消し (*)
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
BASS/CH	テレビのチャンネルアップ／ダウン

(*) これらのボタンには、他社製品のプリセットコードライブラリーはありません。

M-XP モード

HDMI	アンプモードの機能が有効
ZONE A/B	アンプモードの機能が有効
Z.SPKR	アンプモードの機能が有効
A/D	アンプモードの機能が有効
ATT	アンプモードの機能が有効
SPKR A/B	アンプモードの機能が有効
7.1	アンプモードの機能が有効
SOURCE	アンプモードの機能が有効
AMP	アンプモードの機能が有効
INPUT ▲/▼	アンプモードの機能が有効
DISPLAY	アンプモードの機能が有効
MUTE	アンプモードの機能が有効
SURR	アンプモードの機能が有効
VOLUME+/-	アンプモードの機能が有効
INFO	アンプモードの機能が有効
MACRO	マクロモードを選択
❚❚	一時停止
▶	再生
■	停止
⏮/⏭	トラックの移動
◀◀/▶▶	早戻し／早送り
TV POWER	テレビの電源オン／オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TREBLE-/+	アンプモードの機能が有効
BASS-/+	アンプモードの機能が有効

応用操作

リモコンの基本操作

通常モード

（マランツ製のAV機器を操作するとき）

このリモコンには、マランツ製のBD、DVD、VCR（ビデオデッキ）、DSS（衛星放送チューナー）、CD、CD-R、AUX、TUNER、USB、M-XP、AMP（アンプ）の計11種類のリモートコードがプリセットされています。

マランツ製品をご使用の場合、学習は不要です。そのままご使用いただけます。

1. **ソース**ボタンを押します。

ここでは例として**DVD**を押します。

ソースボタンを1回押すことでリモコンが押されたソース用の設定（DVDモード）に変わります。

アンプの入力ソースを変えるときは、**ソース**ボタンを2回押し（ダブルクリック）します。コードが送信されてアンプのソースがDVDに変わります。

バックライト設定

リモコンの側面にあるライトボタンを押すと、リモコンのバックライトが点灯します。点灯中に再度ボタンを押すと、バックライトがさらに2秒間点灯します。

バックライトを点灯させないようにするには、**SET**ボタンと**STANDBY**ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。

バックライトを点灯させるようにするには、**SET**ボタンと**ON**ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。初期設定ではバックライトは点灯します。

プリセットモード

（マランツ製以外のAV機器を操作するとき）

このリモコンにはマランツ製以外のAV機器のリモコンコードがプリセットされています。

プリセットされているコードは、TV、CD、DVD、DSS、BDです。設定は2つの方法でおこなうことができます。

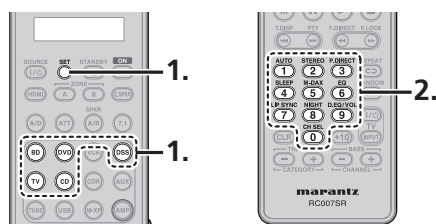
プリセットコードは、リモコンの各ソースボタンに次のように設定されます。

プリセットされているメーカー、機器、セットアップコードなどの設定については、巻末のセットアップコードリストをご覧ください。

リモコンのソース名	プリセットコード	機器名
TV	TV	テレビ
DVD	DVD	DVDプレーヤー
CD	CD	CDプレーヤー
DSS	衛星放送チューナー	衛星放送チューナー機器
BD	BD	Blu-ray Discプレーヤー

重要

- 一部の機器では付属リモコンのセットアップコードでは対応できない場合があります。その場合は学習モードを使用してリモートコードを学習させてください。
- プリセットコードはすべての機能を網羅しているわけではありません。機能の追加が必要な場合は、学習モードを使用して追加機能を記憶させてください。
- 電池の残量が少ない状態ではプリセットコードの設定ができない場合があります。

4桁のコードの入力による設定

1. プリセットコードを設定したい**ソース**ボタンと**SET**ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。バックライトが点滅し続けます。

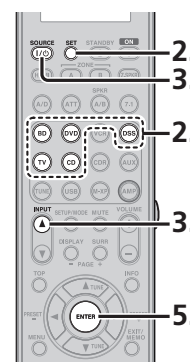
2. 巻末に記載されているコード表を参照し、ご使用の機器に対応した4桁のコードを数字ボタンで入力します。

表示部に4桁のコードが表示されます。

設定が完了すると、表示部に"OK"と表示されます。

ご注意

表示部に"NG"と表示された場合は、手順1と2を繰り返し、同じコードをもう1度入力してください。

コード表をスキャンして設定する

1. プリセットコードを設定したい機器の電源をオンにします。

2. 設定したい機器と対応した**ソース**ボタンと**SET**ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。

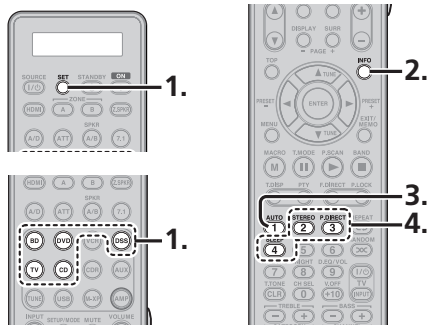
バックライトが点滅し続けます。

3. リモコンを設定したい機器のリモコン受光部へ向け、**INPUT ▲**ボタンと**SOURCE ON/OFF**ボタンを交互にゆっくりと押します。

表示部にプリセットコードが表示されます。

4. 操作したい機器の電源がオフになったらボタンを押すのをやめます。

5. **ENTER**ボタンを押すとコードの設定が完了します。

設定したプリセットコードを確認する

1. 操作したい機器の**ソース**ボタンと**SET**ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。バックライトが点滅し続けます。
2. **INFO**ボタンを押します。
   表示が2回点滅します。
3. 設定したコードの全桁が表示部に 3秒間表示されます。

設定したコードをリセットする

1. 操作したい機器の**ソース**ボタンと**SET**ボタンを表示が2回点滅するまで同時に長押しします。
   バックライトが点滅し続けます。
2. 以下の 4桁のコードを押してリセットします。
   TV　: 1000
   DVD : 2000
   CD　: 3000
   DSS : 4000
   BD　: 5000

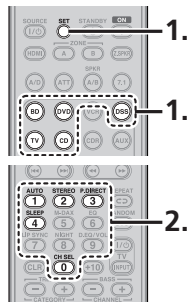
ご注意

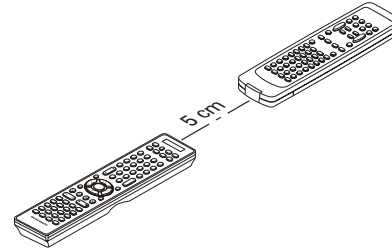
リセットが完了すると、選択したソースボタンは初期設定に戻ります。

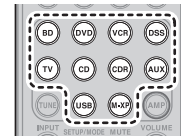
学習モード

このリモコンには他のリモコンのリモートコードを学習・記憶させることができます。
リモートコードを学習・記憶していない場合、リモコンは初期設定のマランツ・プリセットコード、またはお客様が設定された別メーカーの AV 機器のリモートコードのいずれかを送信します。
リモコン信号の受光部はリモコンの上部にあります。

ご注意

- このリモコンは約160のリモートコードを学習することができます。
- 電池の残量が少ない状態では学習手順を正しく操作できないことがあります。

学習手順

1. 約 5cm離して他のリモコンの赤外線送信部が付属リモコンの受光部に向くようにリモコンを置きます。

2. LEARN表示が点滅するまで **SET**ボタンと**SETUP**ボタンを同時に長押しします。

3. ソースボタンを押して入力ソースを選択します。ソース名が表示部に表示されます。

4. 付属リモコンに学習させたいボタンを押します。
   - LEARN表示が点滅しなくなります。

ご注意

- ソースボタン、マクロボタン、HDMIボタンにはリモートコードを学習させることはできません。
- チューナーモード、アンプモード、USBモード、M-XPモード時にはリモートコードを学習させることはできません。

5. 表示部に“OK” と表示されるまで送信側リモコンのボタンを押し続けて学習させます。

   - 表示部に“NG”と表示された場合はこの手順をもう一度実行してください。

   - リモコンのメモリーがいっぱいの場合は、表示部に “FULL” と表示されます。さらにコードを学習させたい場合は既に学習済みの他のボタンを削除してください。

6. 手順**4**と **5**を繰り返して同じ入力ソースの他のボタンを学習させます。
7. 手順**3**から **6**を繰り返して他の入力ソースを学習させます。
8. リモコンのプログラムが終わったら**SET**ボタンを押します。LEARN表示が消え、学習モードが終了します。

ご注意

- 表示部に再度“NG”と表示された場合は、付属リモコンでは利用できない転送コードであるか、転送信号がノイズで妨げられています。
- 学習モードで約1分間どのボタンも押さないと、自動的に学習モードが終了します。

応用操作

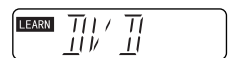
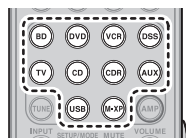
プログラムされたコードの削除（初期設定に戻す）

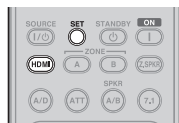
リモートコードは、「ボタンごと」、「ソースごと」、「すべての記憶内容」の３つの方法で削除することができます。

ボタンごとのコードを削除する

1. LEARN表示が点滅するまで **SET**ボタンと **SETUP**ボタンを同時に長押しします。

2. **ソース**ボタンを押し、削除するソースを選択します。

- ソース名が表示部に表示されます。

3. **HDMI**ボタンを押したままの状態で、削除する学習済みのボタンを 2回押します。

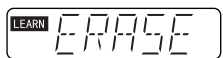
- 表示部に“ERASE”と表示され、学習モードに戻ります。

4. 通常モードに戻るには **SET**ボタンを押します。

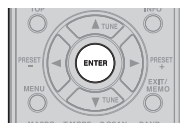
ソースごとのコードを削除する

1. LEARN表示が点滅するまで **SET**ボタンと **SETUP**ボタンを同時に長押しします。

2. **HDMI**ボタンを押したままの状態で、削除する学習済みの**ソース**ボタンを 2回押します。

- 表示部に“ERASE”と表示されます。

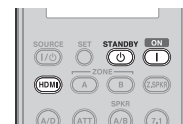
LEARN ERASE

3. 削除を続けるには **ENTER**ボタンを押します。

- 表示が2回点滅して学習モードに戻ります。
- 削除操作をキャンセルする場合は、**ENTER**ボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. 通常モードに戻るには **SET**ボタンを押します。

すべてのソースを削除する

1. LEARN表示が点滅するまで **SET**ボタンと **SETUP**ボタンを同時に長押しします。

2. **HDMI**ボタンを押したままの状態で、**POWER ON**ボタンと **STANDBY**ボタンを押します。

- 学習表示が点灯します。

3. 削除を続けるには **ENTER**ボタンを押します。

- 表示部に“ERASE”と表示され、学習モードに戻ります。

- 削除操作をキャンセルする場合は、**ENTER**ボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. 通常モードに戻るには **SET**ボタンを押します。

ご注意

リモートコードを削除すると、初期設定に戻ります。

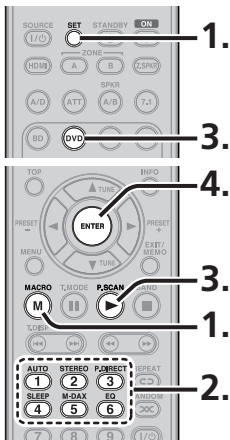
マクロモード

マクロのプログラム

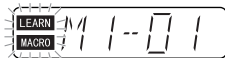
マクロを使用すると、通常は複数回のボタン操作を必要とする複雑な一連の操作を１つのファンクションボタンでおこなうことができます。
１つのマクロには最大 10 ステップの操作をプログラムできます。
例えば次のように連続動作させることができます。

- 本機の電源をオンにする
  ↓
- 入力ソースをDVDに切り替える
  ↓
- TVの電源をオンにする
  ↓
- DVDプレーヤーを再生する

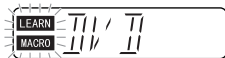
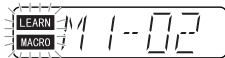
- マクロのプログラム中は信号は送信されません。
- マクロを構成する各ステップは、初期設定では、1秒間隔に順次送信されるよう設定されています。この間隔は、セットアップモードを使用して0.5秒から5秒に設定できます。
- マクロモードでは、マクロのリスト番号とステップ番号が表示されます。
- マクロは6リスト分プログラムできます。
MACROボタン ＋ 数字ボタン
（例：マクロリスト番号1の場合
→ MACROボタン ＋ 1）

マクロのプログラム方法

1. LEARN・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、**SET**ボタンと**MACRO**ボタンを同時に長押しします。

2. 一連の操作をプログラムしたい番号の数字ボタンを押します。
1ボタンを押します。

- 表示部に"M1-01"と表示されます。

- 選択したマクロ番号が既にプログラムされている場合は、表示部が点滅します。

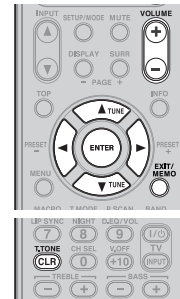
3. マクロとして連続してプログラムしたい操作のファンクションボタンとコマンドボタンを押します。
例えば、**DVD**ボタンと **PLAY**ボタンを押します。
DVDボタンを押します（DVDファンクション）。

↓

PLAYボタンを押します（最初のステップを調整）。

- 表示部にマクロのステップ番号が表示されます。この番号はボタンを押すたびに 1つずつ大きくなります。
- 1つのマクロあたり、順番に最大 10ステップまでプログラムできます。

ご注意

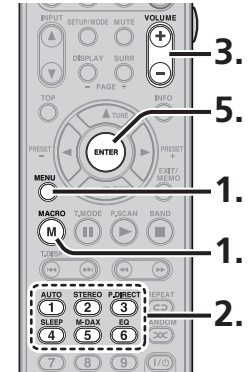
マクロプログラムでアンプの入力ソースをプログラムする場合は、最初に AMP ボタンを押してからソースボタンを押してください。
（DVD 入力の場合：AMP → DVD）

4. マクロのプログラムが終了したら、表示が通常モードに戻るまで（LEARN表示と MACRO表示が消えるまで）、**ENTER**ボタンを長押しします。

- マクロモードでは、メモリーをプログラムして最大10ステップまでのマクロを実行することができます。
- **MEMO** ボタン、**カーソル**、**ENTER** ボタン、**VOLUME+/–** ボタン、**CLR** ボタンにはマクロをプログラムできません。

ご注意

プログラム中約 1 分間どのボタンも押さないと、リモコンは自動的に通常モードに戻ります。この場合、メモリーにマクロはプログラムされません。

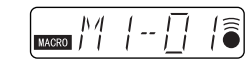
マクロを確認する

次の手順でマクロを確認します。

1. LEARN表示・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、**MACRO**ボタンと**MENU**ボタンを同時に長押しします。

2. 確認する番号の**数字**ボタンを押します。
例として、**1**ボタンを押してマクロ番号1を確認します。

- LEARN表示・MACRO表示と"M1-01"が点滅表示されます。

3. **VOLUME**ボタンを押します。

- "M1-01"が表示され、LEARN表示が消えます。

- プログラムされた操作が送信されます。

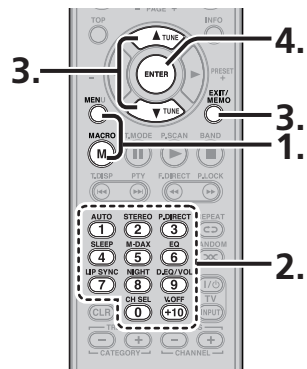
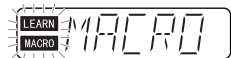
応用操作

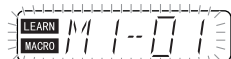
4. マクロの最後の番号が表示されるまで手順**3**を繰り返します。

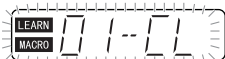
- 手順**1**の表示に戻ります。
- マクロの番号を表示すると、対応するプログラム済みの操作が送信されます。

5. 通常モードに戻るには、表示部のMACRO表示が消えるまで**ENTER**ボタンを長押しします。

マクロを編集する

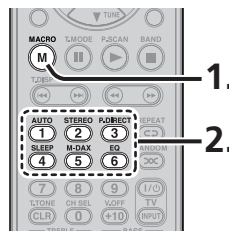
次の手順でマクロを編集します。

1. LEARN表示・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、**MACRO**ボタンと**MENU**ボタンを同時に長押しします。

2. 変更する番号の**数字**ボタンを押します。
例として、**1**ボタンを押してマクロ番号1を変更します。

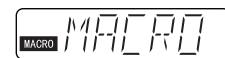
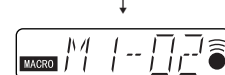
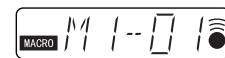
- LEARN表示・MACRO表示と"M1-01"が点滅表示されます。

3. **カーソル**ボタン(▲または▼)を押して編集するマクロの番号を選択します。

- マクロの番号が表示されてから、プログラム済みの操作が表示されます。
- マクロの番号は**カーソル**ボタンで変更できます。
- マクロの設定済みのステップを更新するには、**ソース**ボタンを押してから新しいステップのボタンを押します。元のステップは削除され、新しいステップで更新されます。
- マクロ内の設定済みのステップの間に新しいステップを挿入するには、手順**3**のあとに、**MEMO**ボタンを押してから、新しいステップのボタンを押します。新しいステップを挿入するために、その他のステップの番号は適宜調整されます。1つのマクロには10ステップまでしか記憶できないため、ステップの合計数が既に10である場合は、新しいステップを挿入すると10番目のステップが削除されます。
- マクロ内のステップを削除するには、手順**3**のあとに、削除するステップの番号を呼び出して**CLR**ボタンを押します。

4. 手順**1**に戻るには**ENTER**ボタンを押します。

5. 通常モードに戻るには、表示部のMACRO表示が消えるまで**ENTER**ボタンを長押しします。

マクロを使用する

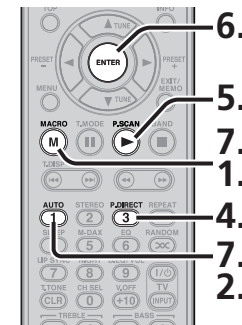
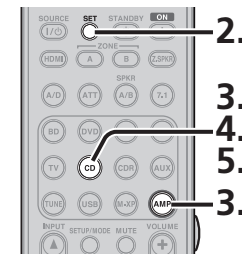
プログラムしたマクロを使うときは、次の手順でおこないます。

1. **MACRO**ボタンを押します。

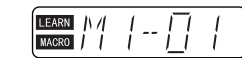
- MACRO表示と"MACRO"が表示部に表示されます。

2. プログラム済みの番号の**数字**ボタンを押します。プログラムしたコードが1つずつ送信されます。

- マクロがプログラムされていない場合は、コードは送信されません。
マクロステップが順次実行されます。
表示部に表示されるステップ番号は、そのステップが実行されるときに消えます。

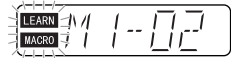
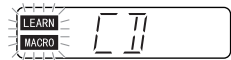
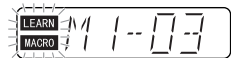
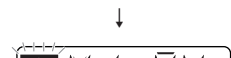
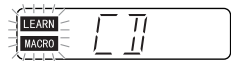
3. すべてのマクロコマンドが送信されると、リモコンは通常のアンプモードに戻ります。

マクロプログラムの例

例1

本機の入力ソースをCDに変更し、CDプレイヤー内のCDの3番目のトラックを再生します。

1. LEARN表示・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、**MACRO**ボタンと**SET**ボタンを同時に長押しします。

2. "**1**"ボタンを押します。表示部に"M1-01"と表示されます。

3. **AMP**ボタンと **CD**ボタンを押します。表示部に“M1-02”と表示されます。
AMPボタンを押します。

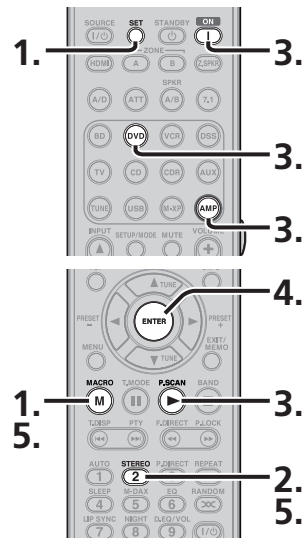
↓
CDボタンを押します。

4. **CD**ボタンと **3**ボタンを押します。表示部に“M1-03”と表示されます。
CDボタンを押します。

↓
3ボタンを押します。

5. **CD**ボタンと▶ボタンを押します。

6. マクロのプログラムが終了したら、MACRO表示が消えて通常モードに戻るまで **ENTER**ボタンを長押しします。
ここで、プログラムしたマクロを実行してみます。

7. **MACRO**ボタンと **1**ボタンを押します。
- マクロコマンドが順次機器に送信されます。また、操作の各ステップが表示部に順次表示されます。

ご注意

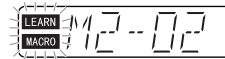
マクロプログラムでアンプの入力ソースをプログラムする場合は、最初に AMP ボタンを押してからソースボタンを押してください。
（DVD 入力の場合：AMP → DVD）

例2

本機の電源をオンにする
↓
DVD プレーヤーの電源をオンにする
↓
本機の入力ソースを DVD に変更する
↓
DVD プレーヤーを再生する

1. LEARN表示・MACRO表示と“MACRO”が表示部に点滅表示されるまで、**MACRO**ボタンと **SET**ボタンを同時に長押しします。

2. **2**ボタンを押します。表示部に“M2-01”と表示されます。

3. 次のボタンを順番に押して、マクロの各ステップを設定します。

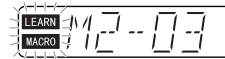
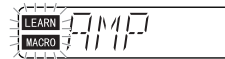
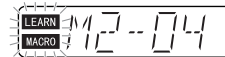
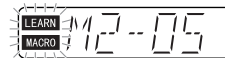
(1) AMP → POWER ON.

(2) DVD → POWER ON.

(3) AMP → DVD.

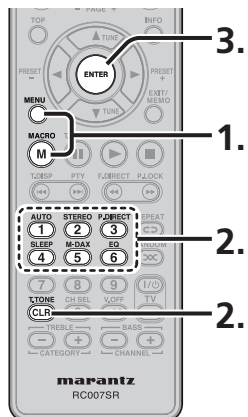
(4) DVD → PLAY.

4. マクロのプログラムが終了したら、表示部のMACRO表示が消えて通常モードに戻るまで **ENTER**ボタンを押します。
ここで、プログラムしたマクロを実行してみます。

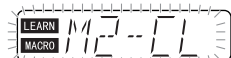
5. **MACRO**ボタンと **2**ボタンを押します。
- マクロコマンドが順次機器に送信されます。また、操作の各ステップが表示部に順次表示されます。

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

応用操作

マクロプログラムを消去する

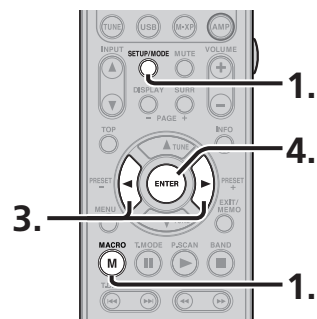
リモコンのメモリーにプログラムしたマクロを削除するときは、次の手順でおこないます。

1. LEARN表示・MACRO表示と"MACRO"が表示部に点滅表示されるまで、**MACRO**ボタンと**MENU**ボタンを同時に長押しします。

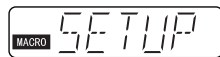
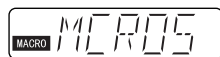
2. **CLR**ボタンを長押しし、消去する番号の数字ボタン（この例では2）を3秒間押します。

- 表示部に"M2-CL"が点滅表示されます。

3. **ENTER**ボタンを押して消去し、手順 **1**に戻ります。

- メモリー消去操作をキャンセルする場合は、**ENTER**ボタンを押さず他のボタンを押してください。

4. 通常モードに戻るには、表示部の MACRO表示が消えるまで **ENTER**ボタンを長押しします。

マクロ操作の送信間隔を調節する

1. 表示部に"SETUP"と表示されるまで、**MACRO**ボタンと **SETUP**ボタンを同時に長押しします。

- "SETUP"は3秒間表示されます。

2. 表示が"SETUP"から"MCRxx"に変わることを確認します（"xx"はマクロ操作の送信間隔を表します）。

3. **カーソル**ボタン（◀または▶）を押して送信間隔を変更します。

- 送信間隔は、0.5秒から5秒まで、0.5秒間隔にて設定できます。

4. 通常モードに戻るには、表示部の MACRO表示が消えるまで **ENTER**ボタンを長押しします。

困ったときは

本機が正しく動作しない場合は、下記の表に示す項目をご確認ください。
下記の項目を確認しても直らない場合は、直ちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げいただいた販売店、当社のお客様ご相談センター、またはサービスセンターにご相談ください。

全般

現象	原因	処置	参照ページ
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードの接続をご確認ください。	14
		電源コードを本体にしっかり差し込んでください。	
		電源プラグをコンセントへしっかり差し込んでください。	
音が出ない。	入力ケーブルの接続が不完全である。	本機とソース機器（CD プレーヤー等）を接続する入力ケーブルの接続を接続図を参照して点検してください。	11
	インプットセレクターの位置が不適当である。	ご使用のソース機器（CD プレーヤー等）を接続した入力端子にインプットセレクターを合わせてください。	15
	ボリュームが絞ってある。	ボリュームを調節してください。	
	ミュート機能が動作している。	ミュート機能を解除してください。	
	ヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを取り外してください。	39
特定のスピーカーから音がでない。	スピーカーが正しく接続されていない。	接続図を参照して、スピーカーを正しく接続してください。	10
音像が正しく定位しないで不自然。	• 一部のスピーカーケーブルの極性（+/-）が違っている。 • スピーカーの配置とスピーカーケーブルの接続が間違っている。	電源コードを抜き、スピーカーケーブルの接続を確認してください。	10
スタンバイインジケーターがゆっくり点滅している。（1 秒間に 2 回）	• スピーカーケーブルがショートしている。	• 電源コードを抜き、スピーカーケーブルの接続を確認してください。	10
	• 本機の性能を上回る大音量で再生した。	• 音量を少し小さくしてください。	15
	• 規定より小さいインピーダンスのスピーカーを使用している。	• 必ず規定のインピーダンスのスピーカーを使用してください。	–
	• 本機を狭いラックなどに入れて使用したため異常に内部温度が上昇した。	• 安全のために本機の周囲に適切な隙間を空けてください。	3
		• 電源を入れるにはリモコンを使用してください。	6
		• 再度同じ症状になる場合には、電源コードを抜き最寄りのサービスステーションに修理を依頼してください。	–
スタンバイインジケーターが速く点滅している。（1 秒間に 8 回）	本機が故障している可能性があります。	直ちに電源コードを抜き、最寄りのサービスステーションに修理を依頼してください。	–

現象	原因	処置	参照ページ
表示部が異常な表示をしている。	本機はコンピューターを使用しているため、静電気や落雷などによりまれに誤動作することがあります。	電源コードを抜き、再度差し込んでください。	14
リモコンで本機の操作ができない。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。	3
	リモコンの動作範囲から外れている。	動作範囲でご使用ください。	
	本機とリモコンの間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。	
	本機の受光部に強い光が当たっている。	受光部に強い光が当たらないようにしてください。	
	リモコンのモードが正しく設定されていない。	リモコンの AMP ボタンを押してから操作してください。	15
	IR=DISABLE に設定されている。	IR=ENABLE に設定してください。	21
本機のボリュームやボタン操作ができない。	フロントキーロックが設定されている。	フロントキーロックを解除してください。	41
入力信号がないときに、シャーというノイズ（残留ノイズ）が出る。	サラウンド用の DSP を搭載しておりますので、多少目立つことがあります。	2ch ソースをお聞きのときノイズが気になる場合は、ソースダイレクトモードでお聞きください。	38

サラウンド

現象	原因	処置	参照ページ
特定のスピーカーから音が出ない。	そのチャンネルに録音が存在しない。	プログラムチャンネルインジケーターをご確認ください。	5
フロントスピーカーから音が出ない。	AM 放送やテレビ音声などモノラルソースを STEREO 以外のサラウンドモードで再生している。	センタースピーカーから音が出ます。故障ではありません。	–
	スピーカーセレクターが正しく設定されていない。（OFF または B になっている）	スピーカーセレクターを正しく設定してください。	6
センタースピーカーから音が出ない。	サラウンドモードが STEREO になっている。	サラウンドモードで STEREO が選択されていると、センタースピーカーから音声は出力されません。他のサラウンドモードを設定してください。	38
	SPEAKERS SIZE メニューで、CENTER = NONE が選択されている。	CENTER を SMALL か LARGE に設定してください。	29
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドモードが STEREO になっている。	サラウンドモードに STEREO が選択されていると、サラウンドスピーカーから音声は出力されません。別のサラウンドモードを設定してください。	38
	SPEAKERS SIZE メニューで、SURROUND = NONE が選択されている。	SURROUND を SMALL か LARGE に設定してください。	29

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

困ったときは

現象	原因	処置	参照ページ
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドモードが EX/ES、PLⅡx モードなど 6.1 または 7.1 チャンネルのサラウンドに設定されていない。	サラウンドモード表をご覧ください。	67
	SPEAKERS SIZE メニューで SURROUND BACK = NONE またはゾーンスピーカーが選択されている。	SURROUND BACK を 1CH または 2CH に設定してください。	29
	サラウンドバックスピーカーを 1CH で使用しているのに SURROUND BACK R に接続されている	SURROUND BACK を 1CH に設定したときは SURROUND BACK L にスピーカーを接続してください。	10
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーの電源が入っていない。 • サブウーファーのレベルが小さくなっている。 • SPEAKER SIZE メニューで SUBWOOFER = NO が選択されている。	• サブウーファーの電源を入れてください。 • サブウーファーのレベルを上げてください。 • SUBWOOFER = YES を選択してください。	— — 29
	• SPEAKERS SIZE メニューで FRONT=LARGE、BASS MIX=MIX に設定し、アナログまたは PCM ソースを再生している。	• BASS MIX=BOTH に設定するとフロントおよびサブウーファーから低域成分が再生されますが、干渉により不自然な音になることがあります。	29
	再生しているソースに LFE または低域成分が入っていない。		—
EX/ES モードが選択できない。	SPEAKER SIZE メニューで SURROUND BACK = 1CH または 2CH が選択されていない。	SURROUND BACK を 1CH か 2CH に設定してください。	29
	入力信号に互換性がない。	5.1ch ソースを使用してください。	—
Neo:6 モードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch DTS 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。	—
CS Ⅱモードが選択できない。	入力信号に互換性がない。	2ch Dolby Digital 入力信号、PCM 入力信号、アナログ入力信号のいずれかを使用してください。	—
ナイトモードが機能しない。	Dolby Digital 以外のソースを再生している。	Dolby Digital のソースを使用してください。	—
希望するサラウンドモード選択できない。	入力信号およびスピーカーの設定により、選択できるサラウンドモードに限りがあります。	サラウンドモード表をご覧ください。	67
DTS エンコードされた CD などの再生中にノイズが発生する。	• アナログ接続をしている。 • サーチ再生をしている。 • プレーヤーで不適切なデジタル処理（レベル調整、サンプリング周波数変換など）をしている。	• デジタル（光または同軸）または HDMI 接続をしてください。 • 機器によりサーチ再生中にノイズがでることがありますが、故障ではありません。 • プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	— — —

現象	原因	処置	参照ページ
AAC 信号が再生できない。（インジケーターが点灯しない）	• チューナーなどのデジタル信号出力が PCM に設定されている。 • アナログ接続をしている。	• チューナーなどの取扱説明書をご覧ください。 • デジタルまたは HDMI 接続をしてください。	— 11、13
Dolby Digital、DTS などの音声が再生できない。（インジケーターが点灯しない）	• プレーヤーなどのデジタル信号出力が PCM に設定されている。 • アナログ接続をしている。	• プレーヤーなどの取扱説明書をご覧ください。 • デジタルまたは HDMI 接続をしてください。	— 11、13
Dolby TrueHD、dts-HD などの音声が再生できない。（インジケーターが点灯しない）	• プレーヤーなどのソース機器がこれらの音声モード出力に対応していない。 • プレーヤーの音声出力が正しく設定されていない。 • HDMI 接続をしていない。	• Dolby TrueHD、dts-HD 出力に対応した機器を接続してください。 • ソース機器がこれらの音声モードを出力できるように出力設定をしてください。	— —
DVD プレーヤーで CD 再生時に、トラックスキップなどをおこなうと、曲の頭が少し欠けて再生される。	プレーヤーによってはトラックスキップ時にデジタル信号が途切れることがあります。サラウンドシステムを判別するために、少しだけ曲の頭が途切れることがあります。	このような DVD プレーヤーを使用する場合、アナログ接続すると問題なく再生することができます。	—

ビデオ

現象	原因	処置	参照ページ
モニターに映像がでない。	• モニターの接続や入力切り替えが正しくない。 • ソース機器とは HDMI 接続しているが、モニターとは HDMI 接続をしていない。	• モニターの取扱説明書をご覧ください。 • モニターと HDMI 接続をしてください。	—
音声もしくは映像が選択したソースと一致しない。	入力ケーブルが正しく接続されていない。	接続図を参照して、ケーブルを正しく接続してください。	12
VCR などに録画できない。	• 録画機器とソース機器の接続端子があっていない。 • コピープロテクト信号が入っている。	• 録画機器の接続端子とソース機器の接続端子を合わせる。（ビデオまたは S ビデオ） • コピープロテクト信号が入っているビデオ信号は録画することはできません。	— —
コンバートしたビデオ信号が乱れる。	ビデオデッキで特殊再生をおこなうとコンバートが正常におこなわれず、ビデオ信号が乱れたり映らなくなることがあります。	ソース機器と同じフォーマット（ビデオ、S ビデオ、コンポーネント）でモニターテレビを接続してください。	12

HDMI

現象	原因	処置	参照ページ
HDMI 接続で画面が映らない。	HDMI ケーブルが正しく接続されていない。	HDMI ケーブルの接続をご確認ください。	13
	規格外の HDMI ケーブルで接続している。	安定した動作や、画質劣化などの防止のため、5 m以下のケーブルの使用を推奨いたします。	–
	HDMI で接続している機器間の接続認証がされない。	HDMI で接続しているすべての機器の電源を入れ直してください。	–
	HDMI の設定が正しく設定されていない。	本機の HDMI 設定を正しくおこなってください。	33
		映像機器 (TV、プロジェクター等) の取扱説明書を参照の上、HDMI 入力を設定してください。	–
		ソース機器 (Blu-ray Disc プレーヤー、STB 等) の取扱説明書を参照の上、HDMI 出力を有効になるよう設定してください。	–
		HDMI で接続している機器の取扱説明書を参照の上、両機器に合致する解像度に設定してください。	33
	映像機器 (TV、プロジェクター等) に DVI コネクターで接続している。	HDCP に対応した映像機器を接続してください。	13
	本機の電源が切られている。(本機がスタンバイ状態では HDMI 接続は有効になりません。)	本機の電源を入れてください。	15
HDMI 接続で映像が映るまで時間がかかる。	HDMI で接続している機器間で接続認証をおこなっています。	接続される機器には接続認証に時間がかかる場合があります、故障ではありません。	–
HDMI 接続で音声が再生されない。	HDMI の設定が正しく設定されていない。	ソース機器 (Blu-ray Disc プレーヤー、STB 等) の取扱説明書を参照の上、HDMI 音声出力を有効になるよう設定してください。	–
		ソース機器 (Blu-ray Disc プレーヤー、STB 等) の取扱説明書を参照の上、HDMI 音声出力設定を本機の対応信号に合致するよう設定してください。	–
	HDMI AUDIO THROUGH モードになっている。	THROUGH モードの時は本機からは音が出ません。ENABLE に設定してください。	34
HDMI 接続したモニター TV より音がでない。	HDMI AUDIO ENABLE モードになっている。	ENABLE モードのときはモニターテレビからは音が出ません。THROUGH に設定してください。	34
HDMI 接続で画面、音声が安定しない。(ノイズが出る、途切れる等)	長いケーブルで接続している。	短いケーブルをご使用ください。5 m以下のケーブルのご使用を推奨いたします。	–
		カテゴリー2(ハイスピード対応) のケーブルをご使用ください。	–

チューナー

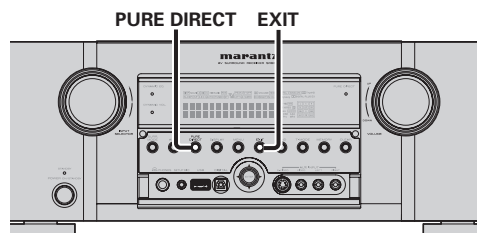
現象	原因	処置	参照ページ
AM や FM が受信できない。	アンテナの接続が不完全。	AM アンテナと FM アンテナを、AM アンテナ端子と FM アンテナ端子に正しく接続してください。	14
AM 受信中にノイズが聞こえる。	他の機器の影響を受けている。	AM アンテナの設置場所を変えてください。	–
FM 受信中にノイズが聞こえる。	放送局からの電波が微弱。	FM 屋外アンテナを設置してください。	14

USB 操作

現象	原因	処置	参照ページ
USB ストレージを接続してもステータス表示が、"NO DEVICE"表示のままで認識しない。	• 接続不良などで、本機が USB ストレージを認識できない。	• USB ストレージや USB ケーブルが本機の USB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。 • USB ストレージを一旦本機から外し、再度接続してみてください。 • 本機の電源を入れなおし、再度接続してみてください。	18 18 15
USB ストレージを接続するとステータス表示に"CHECK DEVICE"が表示される。	• 本機が認識できないデバイスを接続している。 • USB ハブ経由で接続している。	• USB マスストレージクラスに対応した USB デバイスであっても、本機で再生できないものがあります。(故障ではありません) • USB ハブを経由した接続はできません。	– –
USB ストレージを接続するとステータス表示に"CHECK FS"が表示される。	• USB ストレージのフォーマットが、FAT16 または FAT32 以外のフォーマットになっている。 • 本機で非対応のファイルシステムでフォーマットされた USB ストレージを使用している。	• フォーマットを FAT16 または FAT32 に設定し、ファイルを記録してください。 • 本機で対応しているファイルシステムでフォーマットされた USB ストレージを使用してください。	51
USB ストレージを接続するとステータス表示に"IOVER CURRENT!"が表示される。	• 本機の USB 端子の過電流保護がはたらいた。	• 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。 接続した USB ストレージを取り外し、本機の電源を入れなおしてください。	15
USB ストレージを接続するとステータス表示に"NO AUDIO FILE"が表示される。	• USB ストレージに再生できるファイルが記録されていない。	• 対応しているファイルを USB ストレージに記録してください。	52

困ったときは

現象	原因	処置	参照ページ
USB ストレージのファイルを再生するとステータス表示に“CHECK FILE”が表示される。	• 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしている。 • ファイルが破損している。または、拡張子とファイルの構造が異なっている。	• 本機は著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。 • ファイルを確認してください。	ー ー
USB ストレージに記録したファイルが表示されない。	• USB ストレージが複数のパーティションに分かれている。 • フォルダ数が 700、ファイル数が 65535 を超えている。	• 複数のパーティションに分かれている場合は、第 1 パーティション以外は表示されません。 • フォルダ数が 700、ファイル数が 65535 以下でご使用ください。	51
ステータス表示に“PRESS TOP KEY”が表示される。	ファイルが正常に読み込めない。	TOP ボタンを押して、再度読み込みを試行してください。	7
ステータス表示に“PRESS MODE KEY”が表示される。	本機のダイレクトモードでサポートされない iPod が接続されました。	MODE ボタンを押して、リモートモードで使用してください。	7
ステータス表示に“CHECK iPod”が表示される。	iPod を正常に検出できませんでした。	本機の電源を入れなおしてください。	15

フロントキーロックについて

リモコン操作以外の本機の各種操作(POWER ON/STANDBY を除く)を受け付けないようにロックすることが可能です。

フロントキーロックの方法

1. フロントパネルの **PURE DIRECT**ボタンと**EXIT**ボタンを同時に3秒以上押し続けます。
2. 表示部に“F-KEY LOCK!”と表示され、POWER ON/STANDBY以外のフロントパネルの操作を受け付けなくなります。

フロントキーロックの解除方法

1. 再度フロントパネルの**PURE DIRECT**ボタンと**EXIT**ボタンを同時に3秒以上押し続けます。
2. 表示部に“F-KEY UNLOCK”と表示され、ロックが解除されます。

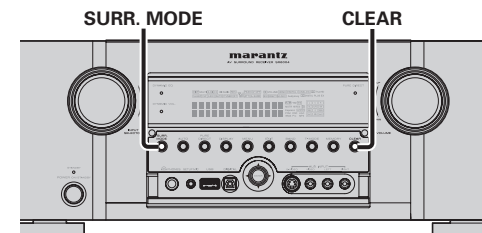
異常動作のときは

本機表示部に異常な表示や誤動作表示などをしている場合、すぐに主電源を切ってください。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには(リセット)

「困ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試してみてください。
ただしリセットおこなうと、セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定の情報が消去されますことをご了承ください。

1. 電源が入っていることを確認します。
2. 本機の **SURR. MODE**ボタンを押しながら、**CLEAR**ボタンを3秒以上押します。
   本機は一度スタンバイ状態になったあと、再度 POWER ー ON 状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷時の状態に戻ります。

その他

サラウンドモード

本機には多くのサラウンドモードが搭載されています。これは再生するソースの内容に応じて、多様な音声効果を再現するためです。
利用可能なサラウンドモードは、入力信号とスピーカーの設定に応じて制限される場合があります。

使用するサラウンドモードと入力信号について

サラウンドモードは本機のサラウンドモード切り替えボタンか、リモコンを使って選択します。また、再生される音声は、選択したサラウンドモードと入力信号との関係に応じて変化します。
関係は次の表のとおりです。

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル						表示部	
			L/R	C	SL SR	HL HR	SBL SBR	SubW	信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
AUTO	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	○	–	–	–	–	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD 192kHz (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	–	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	–	–	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	–	–	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	○	–	–	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS Express	DTS EXPRESS	○	○	○	–	–	○	dts express	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	–	–	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	–	–	–	–	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM (5.1ch)	Multi Ch-PCM	○	○	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz (5.1ch)	Multi Ch-PCM 96kHz	○	○	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 192kHz (5.1ch)	Multi Ch-PCM 192kHz	○	○	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	○	○	–	–	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (Stereo)	○	–	–	–	–	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	–	–	–	–	○	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	○	–	–	–	–	○	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	○	–	–	–	–	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	–	–	–	–	○	ANALOG	-
SOURCE DIRECT PURE DIRECT	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx movie	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	DolbyDigital +	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	DolbyTrueHD	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD 192kHz (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	–	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	–	–	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	–	–	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS Express	DTS EXPRESS	○	○	○	–	–	○	dts express	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	–	–	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	○	–	–	–	–	–	AAC	L, R
SOURCE DIRECT PURE DIRECT	Multi Ch-PCM (5.1ch)	Multi Ch-PCM	○	○	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz (5.1ch)	Multi Ch-PCM 96kHz	○	○	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 192kHz (5.1ch)	Multi Ch-PCM 192kHz	○	○	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	○	○	–	–	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	SA-CD (Stereo)	○	–	–	–	–	–	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	○	–	–	–	–	–	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (Stereo 96kHz)	○	–	–	–	–	–	PCM	L, R
	HDCD	HDCD	○	–	–	–	–	–	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	–	–	–	–	–	ANALOG	-
	7.1ch input	Multi Ch	○	○	○	–	○	○	ANALOG	-
EX/ES	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital EX	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital + +EX	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD +EX	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-ES	DTS-ES	○	○	○	–	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS-ES	○	○	○	–	○	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD + NEO6	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	AAC (5.1ch)	AAC + Dolby EX	○	○	○	–	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi-PCM (5.1ch)	Multi Ch-PCM + Dolby Digital EX	○	○	○	–	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, SW
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + Dolby Digital EX	○	○	○	–	○	○	DSD	L, C, R, SL, SR, SW
DOLBY PLIIz	Dolby Surr.EX	Dolby Digital 5.1 + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1+ + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital Plus + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	DolbyDigital Plus + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S,LFE
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	DolbyDigital Plus + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	DolbyTrueHD + PLIIz	○	○	○	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (7.1ch)	DolbyTrueHD + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (2ch)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC + PLIIz	○	○	○	○	–	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Pro Logic IIz	○	○	○	○	–	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM (5.1ch)	Multi Ch-PCM + PLIIz	○	○	○	○	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + PLIIz	○	○	○	○	–	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PLIIz	○	○	○	○	–	○	PCM	L, R
	HDCD	PLIIz	○	○	○	○	–	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	PLIIz	○	○	○	○	–	○	ANALOG	–
DOLBY (PLIIx movie) (PLIIx music) (PLIIx game)	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1 + PLIIx	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	DolbyDigital +	○	○	○	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Dolby Digital Plus + PLIIx	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD + PLIIx	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (5.1ch)	DolbyTrueHD	○	○	○	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (2ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC + PLIIx	○	○	○	–	○	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM (5.1ch)	Multi Ch-PCM + PLIIx	○	○	○	–	○	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch) + PLIIx	○	○	○	–	○	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Pro Logic IIx	○	○	○	–	○	○	ANALOG	-

その他

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル L/R	C	SL SR	HL HR	SBL SBR	SubW	表示部 信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
DTS	DTS-ES	DTS 5.1	○	○	○	–	–	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(Neo:6	DTS 96/24	DTS-96/24	○	○	○	–	–	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
Cinema)	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	○	○	–	–	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
(Neo:6 Music)	DTS-HD (2ch)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	DTS-HD	○	○	○	–	○	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby D (2ch)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby TrueHD (2ch)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	DD TrueHD	L, R
	AAC (2ch)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Neo:6	○	○	○	–	○	○	PCM	L, R
	HDCD	Neo:6	○	○	○	–	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Neo:6	○	○	○	–	○	○	ANALOG	-
CSII	Dolby D (2ch)	CSII	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R
(Cinema	Dolby D (2ch Surr)	CSII	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
/Music	AAC (2ch)	CSII	○	○	○	–	○	○	AAC	L, R
/ Mono)	SA-CD (2ch)	CSII	○	○	○	–	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	CSII	○	○	○	–	○	○	PCM	L, R
	HDCD	CSII	○	○	○	–	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	CSII	○	○	○	–	○	○	ANALOG	-
NEURAL	Dolby D (2ch)	NEURAL	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	NEURAL	○	○	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	AAC (2ch)	NEURAL	○	○	○	–	○	○	AAC	L, R
	SA-CD (2ch)	NEURAL	○	○	○	–	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	NEURAL	○	○	○	–	○	○	PCM	L, R
	HDCD	NEURAL	○	○	○	–	○	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	NEURAL	○	○	○	–	○	○	ANALOG	-
STEREO	Dolby Surr.EX	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	Dolby TrueHD (6.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD (7.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby TrueHD 192kHz(5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS Express	Stereo	○	–	–	–	–	○	dts express	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Stereo	○	–	–	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 192kHz (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Stereo	○	–	–	–	–	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Stereo	○	–	–	–	–	○	PCM	L, R
	PCM 96kHz	Stereo	○	–	–	–	–	○	PCM	L, R
	HDCD	Stereo	○	–	–	–	–	○	PCM, HDCD	L, R
	Analog	Stereo	○	–	–	–	–	○	ANALOG	-
Dolby Virtual	Dolby Surr.EX	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
Speaker	Dolby D (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (2ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, R
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (2ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE

サラウンドモード	入力信号	デコーディング	出力チャンネル L/R	C	SL SR	HL HR	SBL SBR	SubW	表示部 信号形式インジケーター	チャンネルステータス・インジケーター
Dolby Virtual	Dolby TrueHD (6.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
Speaker	Dolby TrueHD (7.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (2ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, R
	DTS-HD (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	AAC (5.1ch)	Virtual	○	–	–	–	–	–	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Virtual	○	–	–	–	–	–	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	DSD	L, R
	PCM (Audio)	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	PCM	L, R
	HDCD	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	PCM, HDCD	L, R
	Analog	PLII+ Dolby Virtual Speaker	○	–	–	–	–	–	ANALOG	-
Multi Ch.	Dolby Surr.EX	Dolby Digital EX	○	(○)	○	–	○	○	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
Movie	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	○	(○)	○	–	–	○	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
Music	Dolby D (2ch)	Multi Channel	○	(○)	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Multi Channel	○	(○)	○	–	○	○	DD DIGITAL	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	○	(○)	○	–	○	○	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS-96/24	○	(○)	○	–	–	○	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	○	(○)	○	–	–	○	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	○	○	○	–	–	○	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Multi Channel Stereo	○	○	○	○	○	○	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM	Multi Ch-PCM	○	(○)	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	Multi Ch-PCM 96kHz	Multi Ch-PCM 96kHz	○	(○)	○	–	–	○	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (5.1ch)	SA-CD (5.1ch)	○	(○)	○	–	–	○	DSD	L, C, R, SL, SR, LFE
	SA-CD (2ch)	Multi Channel	○	(○)	○	–	○	○	DSD	L, R
	PCM (Audio)	Multi Channel	○	(○)	○	–	○	○	PCM	L, R
(○): Movie mode	HDCD	Multi Channel	○	(○)	○	–	○	○	PCM, HDCD	L, R
only.	Analog	Multi Channel	○	(○)	○	–	○	○	ANALOG	-
Headphone	Dolby Surr.EX	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL EX	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(DolbyHP	Dolby D (5.1ch)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
or Normal	Dolby D (2ch)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, R
Headphone)	Dolby D (2ch Surr)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL	L, R, S
	Dolby Digital Plus (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby Digital Plus (6.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1)
	Dolby Digital Plus (7.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD DIGITAL PLUS	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE
	Dolby TrueHD (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (6.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD (7.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, R
	Dolby TrueHD 192kHz(5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	DD TrueHD	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	dts, ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-HD (5.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (6.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, S, LFE (,ex1,ex2)
	DTS-HD (7.1ch)	Stereo	○	–	–	–	–	–	dts-HD MSTR/HIRES	L, C, R, SL, SR, SBL, SBR, LFE (,ex1,ex2)
	DTS Express	Stereo	○	–	–	–	–	–	dts express	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	AAC	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (2ch)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	AAC	L, R
	Multi Ch-PCM (5.1ch)	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	PCM	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	PCM	L, R
	HDCD	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	PCM, HDCD	L, R
	ANALOG	Dolby H.P	○	–	–	–	–	–	ANALOG	L, R

ご注意

Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD 信号を再生中は対応した再生モードと STEREO 以外の SURROUND MODE を選択することはできません。
また、STEREO 以外の SURROUND MODE が選択されていても、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD 信号を再生した場合はその SURROUND MODE は無効となり、対応した再生モードの処理になります。

略語

L/R: フロント左 / 右スピーカー
C: センタースピーカー
SL/SR: サラウンド左 / 右スピーカー
HL/HR: ハイト左 / 右スピーカー
SBL/SBR: サラウンドバック左 / 右スピーカー
SubW: サブウーファー
EX: エクステンション

AUTO

このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby Surround、DTS、DTS-HD、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCM などの入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
入力信号が PCM 信号の場合はステレオ再生をおこないます。ドルビーデジタルや DTS、AAC の場合はそれぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

SOURCE DIRECT(ソースダイレクト)

このモードでは、スピーカー設定等による周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスし、入力信号を最短処理にて出力します。また、アナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。

ご注意

- スピーカーサイズは Front L/R = LARGE、Center = LARGE、Surround L/R = LARGE、Subwoofer = YES に自動的に設定されます。
- トーンコントロール、イコライザーその他の追加の処理は停止します。

PURE DIRECT(ピュア ダイレクト)

このモードはソースダイレクトモードの動作に加え、ビデオ端子(ビデオ、コンポーネントビデオ、HDMI)への出力を停止し、表示部も消灯してさらにノイズ源を低減させます。

EX/ES

このモードでは、Dolby Digital EX および DTS-ES エンコードされた入力ソースに対して、6.1ch サラウンドが提供されます。
アナログ入力を選択したときは、このモードは利用できません。

Dolby Digital EX

このモードでは、映画館で再生される Dolby Digital Surround EX テクノロジーでエンコードされた映画のサウンドトラックは、プログラムのミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。
サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルにより、現在利用可能なフロント左、フロントセンター、フロント右、サラウンド右、サラウンド左、サブウーファーチャンネルに加えて、リスナーの背後に音声が配置されます。
この追加のチャンネルによって、より繊細な後方音声イメージをリスナーに与えることができ、それによってこれまでにない奥行きや広がりのある音像がもたらされます。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、Dolby Digital EX は利用できません。

DTS-ES(Discrete 6.1, Matrix 6.1)

このモードでは、DTS 5.1ch 形式にサラウンドセンターチャンネル音声を追加して音像定位を改善し、6.1ch 再生時の音像移動をより自然なものにします。
本機には DTS-ES デコーダーが組み込まれており、DVD などの DTS-ES Discrete エンコードと DTS-ES Matrix エンコードのソースを処理することができます。
DTS-ES Discrete 6.1 の特徴は、サラウンドバックチャンネルを含むすべてのチャンネルの独立したデジタル録音と、より質の高いオーディオ再生です。
システムにサラウンドバックスピーカーがない場合は、DTS-ES は利用できません。

Dolby MODE

(Dolby Digital、Pro Logic Ⅱx MOVIE、Pro Logic Ⅱx MUSIC、Pro Logic Ⅱx GAME、Pro Logic Ⅱz)

このモードは、Dolby Digital と Dolby Surround でエンコードされた入力ソースに使用します。

DOLBY DIGITAL

このモードは、Dolby Digital でエンコードされた入力ソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた 5.1ch Dolby Digital ソースを再生すると、5 つのメイン音声チャンネル(左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右)と、LFE チャンネルからの音声が得られます。このモードでは Dolby Digital EX のオーディオはデコードできません。
Dolby Pro Logic Ⅱ x には次の 5 つのモードがあります。

Pro Logic Ⅱx MOVIE

このモードでは、Dolby Surround エンコードされたステレオ映画のサウンドトラックから、6.1ch もしくは 7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx MUSIC

このモードでは CD、テープ、FM、テレビ、ステレオビデオなど従来型の(アナログもしくはデジタルの)ステレオソースから、6.1ch もしくは 7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱx GAME

このモードでは、サラウンド低域をシステムのサブウーファーに割り振ることによって、強い低域サラウンド効果を再現します。

5.1ch + Pro Logic Ⅱx Movie

このモードでは、映画サウンドトラックの 5.1ch ソースから、7.1ch のサラウンド音声が得られます。

5.1ch + Pro Logic Ⅱx Music

このモードでは、5.1ch のサウンドトラック・ソースから、6.1ch もしくは 7.1ch のサラウンド音声が得られます。

Pro Logic Ⅱz

Dolby Pro Logic Ⅱz は、ソースに収録されている高い所で鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境を作ることができます。

ご注意

SPEAKER SETUP メニューで SURR. B を "NONE" に設定したときは、Pro Logic Ⅱ x モードは Pro Logic Ⅱ モードとしてデコードします。(29 ページ参照)

dts

dts, Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードは DVD、CD のような DTS エンコードされたソースの視聴用です。Neo:6 は 2ch ソースの視聴用です。

dts

このモードは dts マルチチャンネルエンコードされたソースを再生するときに使用できます。
マルチチャンネルエンコードされた 5.1ch dts ソースを再生すると、5 つのメイン音声チャンネル(左、センター、右、サラウンド左、サラウンド右)と、LFE チャンネルからの音声が得られます。
このモードでは DTS-ES でのデコードは利用できません。
またアナログ入力を選択したときは、DTS モードは利用できません。

Neo:6 Cinema, Neo:6 Music

このモードでは高精度デジタルマトリックステクノロジーを使用して、2ch 信号を 6ch 信号にデコードします。
DTS Neo:6 デコーダーには、チャンネルの周波数特性ばかりでなくチャンネルセパレーションにおいてもほぼディスクリートであるという特性があります。
再生する信号に応じて、DTS Neo:6 は映画再生用に最適化された Neo:6 Cinema モードか、音楽再生用に最適化された Neo:6 Music モードのいずれかを使用します。

CIRCLE SURROUND Ⅱ (CS Ⅱ -CINEMA、CS Ⅱ -MUSIC、CS Ⅱ -MONO)

Circle Surround は、エンコードなしの素材とマルチチャンネルエンコードされた素材を、マルチチャンネルサラウンド再生できるように設計されています。
放送、ビデオテープ、ステレオレコード音楽を含む、すべての音楽と映画の再生において、下位互換性による 6.1 チャンネルまでのサラウンド性能がリスナーに提供されます。
ソースに応じて CS Ⅱ -Cinema モード、CS Ⅱ -Music モード、CS Ⅱ -Mono モードのいずれかを選択できます。

その他

STEREO

このモードでは、すべてのサラウンド処理が省略されます。
ステレオソースで、PCM オーディオやアナログステレオが入力されたときは、左チャンネルと右チャンネルが通常の再生をおこないます。
Dolby Digital と DTS ソースの場合は、5.1ch が 2ch ステレオに変換されます。

Dolby Virtual Speaker

ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズにより承認された技術であり、マルチチャンネルドルビーデジタルソースを 2 本のスピーカーから出力し、バーチャル化されたサラウンド音声体験を作り出します。さらにドルビーバーチャルスピーカーはドルビープロロジックやドルビープロロジックⅡにより作り出されたサラウンド音響効果をシミュレートします。ドルビーバーチャルスピーカーは元のマルチチャンネルオーディオ情報をすべて保持してリスナーにスピーカーに囲まれているかのような感覚を提供します。

MULTI CH(MOVIE, MUSIC)

このモードは、2ch ソースからより広く、より奥行きがあり、より自然な音場を作成する場合に使用します。
そのような音場は、左チャンネル信号を左フロントスピーカーと左サラウンドスピーカーの両方に、右チャンネル信号を右フロントスピーカーと右サラウンドスピーカーの両方に振り分けることによって実現されます。さらにセンターチャンネルでは、右チャンネルと左チャンネルを融合した音声が再生されます。

Neural Surround

Neural Surround は音楽再生のために開発された最新のサラウンド技術です。音響心理学に基づいた周波数領域処理をおこなうことにより、優れたチャンネルセパレーションと定位を実現し、より精細なサウンドステージを再現します。

MPEG-2 AAC

BS デジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2 規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2ch ステレオ音声に加え、5.1ch サラウンド音声や多言語放送を可能にしています。

ご注意

DTS について

- DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。
  DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されていることがあります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用ください。
  上記ノイズ出力の理由により、本機で DTS-CD やDTS-LDを再生中は、デジタル、アナログ入力の切り替え動作などを禁止している場合があります。一度プレーヤー側を STOP状態にしてからおこなってください。
- お手持ちのプレーヤーによっては、DTS再生をすると短いノイズが発生する場合があります。これは動作不良ではありません。
- DTSレーザーディスクや DTS CDの信号がほかのサラウンドモードで再生されている間は、Main MenuのInput SetupやA/Dボタンを使って、デジタル入力からアナログ入力へ切り替えることはできません。
- DTSエンコードされたソフトウェアをゾーンで聴くことはできません。
- VCR OUT、CD/CDR OUT端子からは、アナログ音声信号だけが出力されます。これらの端子を使用して DTS 対応の CD や LD から録音しないでください。DTS エンコードされた信号は、ノイズとして録音されてしまいます。

Dolby Digital Surround EX について

- Dolby Digital Surround EX エンコードされたソフトウェアを 6.1チャンネルで再生するときは、EX/ES モードに設定してください。
- Dolby Digital Surround EX エンコードされたソースの中には、識別信号が含まれないものがあります。この場合は手動で EX/ES モードを設定してください。

96 kHz/192 kHz PCM オーディオについて

- お手持ちのDVDプレーヤーによっては、デジタル出力が制限されることがあります。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- DVDディスクの中にはコピープロテクト機能を持つものがあります。このようなディスクを使用したときは、96 kHzの PCM 信号は DVDプレーヤーから出力されません。詳細については、お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

HDCD について

- HDCD はデジタル入力の場合にのみ有効です。
- お手持ちの CDプレーヤーによっては、プレーヤーを本機にデジタル接続しても特定の HDCD ソース信号を再生できない場合があります。

サウンドについて

DTS Neural Surround は楽器やボーカル、残響などマスキングされてしまいがちな音のディティールを再現し、今までの CD やデジタルメディアプレーヤーなどの通常のステレオ信号やサラウンド処理された信号では得ることのできなかった素晴らしい体験をリスナーに届けます。DTS Neural Surround はサラウンドをさらなる高いレベルに引き上げる技術です。

• DTS-HD マスターオーディオ

DTS-HD マスターオーディオは、プロフェッショナルスタジオで作られるマスター音源を、その品質のまま、データの損失なしにリスナーまで届けることのできる技術です。DTS-HD マスターオーディオは、96 KHz/24 bit では 7.1 チャンネル、192kHz/24bit では 6 チャンネル音声をオリジナル音源のデータを欠損させせることなく伝送することを可能にしています。DTS-HD マスターオーディオは、音楽や映画の音声の作り手であるアーティストの意図したとおりの音声を受け手に届けるための貴重な技術であるといえましょう。

• DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

DTS-HD ハイレゾリューション・オーディオは、最大 7.1 チャンネルまでの音声をほぼオリジナルと区別できないハイクオリティで伝送することが可能なフォーマットです。DTS-HD ハイレゾリューション・オーディオは 96 KHz/24 bit の 7.1 チャンネルの音声を伝送可能にしています。

• Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、次世代光ディスクメディアに採用されているロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。Dolby TrueHD はスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現します。HD 映像と組み合わせることにより、Dolby TrueHD はこれまで想像できなかったほどハイクオリティなホームシアター体験を提供します。96 kHz/24 bit では最大 8 チャンネル、192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声の記録が可能です。

• Dolby Digital Plus

Dolby Digital を高音質・高機能に進化させた Dolby Digital Plus は、HD クオリティのデジタル TV 放送や光ディスクメディア、オンラインコンテンツなどの A/V エンタテインメントにさらにリッチなサラウンドサウンドを提供するための柔軟性と効率性を備えています。Dolby Digital Plus の優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大 7.1 チャンネルの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

AAC（Advanced Audio Coding）

BS デジタル放送および地上波デジタル放送が採用している音声方式で、MPEG2 規格のひとつです。高圧縮率と高音質が特長で、2CH ステレオ音声に加え、5.1CH サラウンド音声や多言語放送を可能にしています。以下はパテントナンバーです。

5848391	5,291,557	5,451,954
5,357,594	5 752 225	5,394,473
5,633,981	5 297 236	4,914,701
5,579,430	08/678,666	98/03037
98/03036	5,227,788	5,285,498
5,781,888	08/039,478	08/211,547
08/894,844	5,299,238	5,299,239
5,490,170	5,264,846	5,268,685
5,548,574	5,717,821	08/937,950
08/576,495	08/392,756	

5 400 433	5,222,189
5,583,962	5,274,740
5,235,671	07/640,550
97/02875	97/02874
5,481,614	5,592,584
5,703,999	08/557,046
5,299,240	5,197,087
5,375,189	5,581,654
05-183,988	08/506,729

各部の名称
基本接続
基本操作
応用接続
システムセットアップ
応用操作
困ったときは
その他

Circle Surround II、SRS と◉記号は SRS Labs, Inc. の商標です。
Circle Surround II 技術は、SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

HDCD®, HDCD®, High Definition Compatible Digital® および Microsoft® は、米国内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCD システムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の 1 つ以上の特許によって保護されています。
米　国　内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。
オーストラリア国内：669114。
その他の特許は出願中。

HDMI

"HDMI" "HDMI" および "High-Definition Multimedia Interface" は HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

著作権保護について

本機は HDCP（High-band width Digital Content Protection）に対応しています。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション（著作権保護）技術です。デジタル映像コンテンツの保護を目的にしており、本機と接続する機器も HDCP に対応している必要があります。HDCP に対応しているテレビ／モニターなどと接続してください。また接続する機器の取扱説明書をご確認の上ご使用ください。

AUDYSSEY
MULTEQ
DYNAMIC VOLUME

MultEQ®

性能の優れたスピーカーを導入しても、一般的なリスニングルームには、その音質を劣化させるような幾つかの要因があります。音質を劣化させる要因のひとつは、スピーカーからのオーディオ出力と、部屋の壁、床、天井といった大きな平面との相互作用です。入念なスピーカー配置および音響処理をおこなった場合でも、部屋の音響特性によって発生する重大な問題があります。例えば、スピーカーの近くの壁等の表面からの反射や、室内の大きな平行面の間に発生する定在波などです。ホームシアター環境では、複数リスナーのリスニングポイントが存在するため、状況はさらに複雑です。各リスナーのリスニングポイントにおいて生じる音質への、部屋の音響特性による影響は大きく異なります。その結果、室内において、それぞれのリスナーごとに異なる度合いでシアター体験の劣化が生じます。
特に 250 H z 以下の周波数域では、隣り合った 2 つの座席で 10 dB もの音量の違いを呈する場合もあります。この問題に対する解決策は、各スピーカーが部屋の音響特性とどのように相互作用するのかを精密に測定した後で、音響特性の補正をおこなうことです。部屋の音響特性によって生じる、スピーカーの周波数特性の変動の程度は座席ごとに大きく異なりますので、リスニングルームの複数箇所で音質を測定することが重要です。この複数箇所での測定は、リスナーが 1 人だけであっても必要です。これは、1 ポイントだけの測定結果では、リスニングルームの音響特性上の問題を正確に捉えることができず、多くの場合、結果として全体のパフォーマンスを損ねる場合があるためです。
Audyssey MultEQ は、大きなリスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集された各スピーカーからのテストデータを総合的に分析し、部屋の音響特性を最小化するための補正をおこなって、音響心理学で知られる人間の聴覚の周波数分解能と一致させます。
さらに、MultEQ による補正は、周波数領域と時間領域に関して適用され、部屋の音響特性の従来のイコライゼーション方式では発生する場合があった、不鮮明さや過剰な共鳴といったアーチファクトを除去します。
広いリスニングエリア内での周波数特性の問題の補正に加えて、Audyssey MultEQ では、完全自動化されたサウンドシステムのセットアップが提供されます。これにより、アンプに接続されたスピーカーの数と、それらがサテライトスピーカーまたはサブウーファーであるかどうかが自動認識されます。少なくとも 1 つのサブウーファーが接続されている場合、Audyssey MultEQ では、各サテライトスピーカーとサブウーファー間の最適なクロスオーバー周波数が決定されます。スピーカーの極性が自動的にチェックされ、他のスピーカーに対して逆位相に接続されたスピーカーがある場合には警告されます。メインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離が測定され、各スピーカーからサウンドが聴こえてくるタイミングが合うようにディレイが調整されます。そして最終的には、各スピーカーの再生音量が測定され、すべて同じレベルになるように音量トリムが調整されます。

Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® 技術と連動することにより、すべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。また、Dynamic Volume は Audyssey DynamicEQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

本機は、Audyssey ラボラトリーズ社からのライセンスに基づき製造されています。米国および外国特許出願中です。Audyssey MultEQ、Audyssey Dynamic EQ および Audyssey Dynamic Volume は Audyssey ラボラトリーズ社の登録商標です。

Windows および Windows Media Audio は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

iTunes は、米国 Apple Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- "Made for iPod" とは、特にiPodとの接続用に設計され、Appleの性能基準を満たすことをその開発者が保証している電子機器であることを示します。この機器の操作、および安全· 規制基準の順守については、Appleは責任を負いません。
- "Works with iPhone" とは、特にiPhoneとの接続用に設計され、Appleの性能基準を満たすことをその開発者が保証している電子機器であることを示します。この機器の操作、および安全· 規制基準の順守については、Appleは責任を負いません。

iPod および iPhone は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

Macrovision

This product incorporates copyright protection technology that is protected by method claims of certain U.S. patents and other intellectual property rights owned by Macrovision Corporation and other rights owners. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision Corporation, and is intended for home and other limited viewing uses only unless otherwise authorized by Macrovision Corporation. Reverse engineering or disassembly is prohibited.

仕様・外観寸法図

FM チューナー部

周波数範囲 .... 76.0—90.0 MHz
実用感度 .... IHF 1.8 μV/16.4 dBf
S/N比 .... モノラル／ステレオ 75/70 dB
歪み .... モノラル／ステレオ 0.2/0.3 %
ステレオセパレーション .... 1 kHz 45 dB
実効選択度 .... ±300 kHz 60dB
イメージ妨害比 .... 83 MHz 50dB
チューナー出力レベル
.... 1kHz, ±75 kHz Dev 800mV

AM チューナー部

周波数範囲 .... 531—1602 kHz
実用感度 .... Loop 400 μV/m
S/N比 .... 50 dB
歪み .... 400Hz, 30% Mod. 0.5%
実効選択度 .... ±18 kHz 70dB

オーディオ部

定格出力（20 Hz – 20 kHz/THD=0.08%）

フロントL/R .... 8Ω 110 W/Ch
センター .... 8Ω 110 W/Ch
サラウンドL/R .... 8Ω 110 W/Ch
サラウンドバックL/R .... 8Ω 110 W/Ch

実用最大出力（JEITA）

フロントL/R .... 6Ω 160 W/Ch
センター .... 6Ω 160 W/Ch
サラウンドL/R .... 6Ω 160 W/Ch
サラウンドバックL/R .... 6Ω 160 W/Ch

ヘッドホン定格出力
.... 370 mW（1 kHz、0.08%、32Ω）

入力感度／インピーダンス .... 180 mV/47 kΩ
S/N比（アナログ入力／ピュアダイレクト）
.... 105 dB
周波数特性
（アナログ入力／ピュアダイレクト）
.... 8 Hz – 100 kHz（± 3 dB）
（デジタル入力／96 kHz PCM）
.... 8 Hz – 45 kHz（± 3 dB）

ビデオ部

信号方式 .... NTSC
入力・出力インピーダンス .... 75 Ω
入出力レベル .... 1 Vp-p
S/N比 .... 60 dB
周波数特性（ビデオ） .... 5 Hz—8 MHz（—1dB）
周波数特性（コンポーネントビデオ）
.... 5 Hz—80 MHz（—3dB）

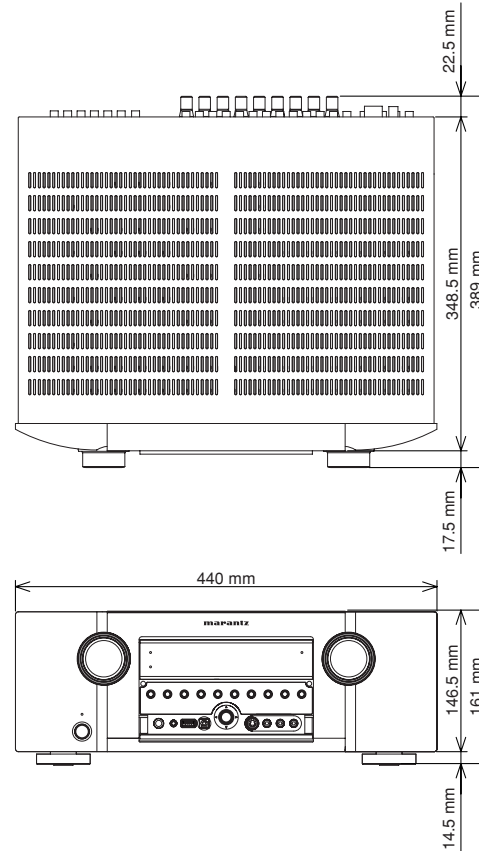
HDMI

入出力端子： 19ピンHDMI端子
HDMI Ver.1.3a
（ディープカラー、Dolby TrueHD、
DTS-HD Master Audio、
スーパーオーディオCD、
DVDオーディオ対応）

付属品

リモコン（RC007SR） 1
単4形乾電池 2
マイク 1
AMループアンテナ 1
FMアンテナ 1
電源コード 1
ワイヤレスレシーバーRX101 1
取扱説明書 1
保証書 1

総合

電源電圧 .... AC 100 V 50/60 Hz
消費電力（電気用品安全法による） .... 650 W
待機電力
（ノーマル） .... 0.7 W
（エコノミー） .... 0.4 W
重量 .... 12.7 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

その他

お手入れ

- 本機が汚れたときはやわらかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときはやわらかい布に食器用洗剤を5～6倍にうすめた液を浸し、固く絞ってから汚れをふきとってください。その後、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。
  また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ヘッドホンのご使用について

ヘッドホン使用時は音量を上げすぎないようご注意ください。大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より1年間です。お買い上げ販売店または弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理について。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または当社サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度"困ったときは"をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1) 品名　**AV サラウンドレシーバー**
2) 品番　**SR6004**
3) シリアルナンバー（製造番号）
4) お買い上げ日　年　月　日
5) 故障の状況（できるだけ具体的に）
6) ご住所
7) お名前
8) 電話番号

セットアップコード

Blu-ray Disc プレーヤー

ソースボタン名：BD

メーカー	コード
Denon	5034, 5035, 5036
Hitachi	5031, 5032, 5033
Integra	5013
JVC	5014, 5015, 5017, 5018, 5019, 5020
LG	5010, 5011
Marantz	5000, 5026, 5027
Mitsubishi	5024, 5025
Onkyo	5013
Panasonic	5001, 5002, 5003
Philips	5004
Pioneer	5005
RCA	5012
Samsung	5005
Sharp	5028, 5029, 5030
Sony	5007, 5008, 5009, 5016
Toshiba	5012
Yamaha	5021, 5022, 5023

DVD プレーヤー

ソースボタン名：DVD

メーカー	コード
Aiwa	2036, 2037
Apex	2012, 2017, 2018, 2019, 2021, 2034
BOSE	2038, 2039, 2063
Denon	2047, 2048
Funai	2049
GE	2009, 2020, 2029, 2033
Harman Kardon	2061
Hitachi	2008, 2012, 2031
JVC	2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
Kenwood	2053, 2054
Koss	2058
Magnavox	2007, 2011, 2023, 2025
Marantz	2025, 2065
Marantz (Blu-ray)	2064
Mitsubishi	2011, 2015
Onkyo	2062
Oritron	2009, 2030
Panasonic	2003, 2015, 2016, 2055
Philips	2007, 2011, 2058
Pioneer	2002, 2014, 2056
Proscan	2009, 2020, 2032
RCA	2005, 2009, 2020, 2035, 2057
Sampo	2041
Samsung	2008, 2012, 2022, 2024, 2027
Sanyo	2050, 2052
Sharp	2044, 2045
Sherwood	2051
Sony	2001, 2013, 2059
Toshiba	2004, 2008, 2026, 2028
Yamaha	2046, 2060
Zenith	2010

衛星放送チューナー

ソースボタン名：DSS

メーカー	コード
Alphastar	4027
Amstrad	4046, 4047, 4050
Atsky	4048
B Sky B	4021, 4045, 4046
Chaparral	4039
DIRECTV	4001, 4016, 4044
DISH Network	4030
Drake	4026
Echostar	4007, 4017, 4018, 4019, 4020, 4062, 4063, 4064
Eurosky	4047, 4056
Express Vu	4017
Foxtel	4051
Freesat	4056
Fujitsu	4025
GE	4002, 4008, 4009
General Instruments	4036, 4037
Gradiente	4044, 4057
Hitachi	4001, 4015
Hughes	4001, 4016
Humax	4049, 4050, 4051, 4052, 4053
Janeil	4025
JVC	4017
Mitsubishi	4001
Nokia	4058, 4059, 4060, 4061
Optima	4048
Panasonic	4004, 4010
Philips	4031, 4035, 4044, 4057
Proscan	4002, 4008, 4009, 4011
Radio Shack	4036, 4037
RCA	4002, 4008, 4009, 4029
Realistic	4040
Rural Cable	4036
Samsung	4022, 4027, 4042, 4043, 4050, 4054, 4055
Schneider	4041, 4043
SKY	4044, 4045, 4057
Skyplus	4048
Skysat	4041, 4047, 4056
Sony	4003, 4012, 4014, 4065, 4066, 4067
Star Choice	4032
Star Trak	4024
STS	4038
SuperDish	4028
Teac	4049
Thomson	4046, 4056
Toshiba	4001, 4034
Uniden	4005, 4006, 4013
Universum	4056
Video Pall	4025
Zenith	4023, 4025, 4033

テレビ

ソースボタン名：TV

メーカー	コード
Acer	1141
Admiral	1002, 1009, 1089
Aiko	1059
Aiwa	1117, 1118
Akai	1001
Amtron	1023
Anam	1113
Anam National	1023, 1069, 1092
AOC	1003, 1024, 1049, 1127
Audiovox	1023
Bell & Howell	1009, 1025
Benq	1104, 1142
Broksonic	1003, 1097, 1098, 1113
Celebrity	1001
Citizen	1003, 1013, 1023, 1026, 1059, 1063
Colortyme	1003, 1043
Contec	1113
Contec/Cony	1023, 1045, 1047
Craig	1020, 1022, 1023, 1113
Crown	1023, 1067
Curtis Mathes	1003, 1013, 1025, 1026, 1062, 1103, 1110
Daewoo	1003, 1013, 1024, 1035, 1036, 1059, 1084, 1101
Daytron	1003, 1013, 1016
Dimensia	1103, 1110
Dumont	1003, 1010, 1153
Electroband	1001
Electrohome	1001, 1003, 1069, 1133
Emerson	1003, 1013, 1015, 1020, 1021, 1022, 1023, 1025, 1038, 1044, 1045, 1048, 1055, 1061, 1094, 1096, 1099, 1101, 1113
Envision	1003
Fisher	1025, 1051, 1091, 1160
Fujitsu	1038, 1124, 1125, 1155
Funai	1023, 1038, 1113
Gateway	1150
GE	1003, 1018, 1022, 1046, 1054, 1069, 1085, 1103, 1110, 1113, 1133, 1136, 1153

その他

Goldstar 1003, 1013, 1024, 1030, 1045, 1080, 1100, 1112, 1154
Hallmark 1003
Hisense 1116
Hitachi 1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
Infinity 1067
Janeil 1134
JBL 1067
JC Penney 1003, 1013, 1018, 1019, 1024, 1026, 1046, 1047, 1054, 1063, 1083, 1085, 1100, 1103, 1110, 1112, 1133, 1154
Jensen 1003
JVC 1028, 1029, 1045, 1047, 1050, 1060, 1065
Kawasho 1001, 1003
Kenwood 1003
Kloss Novabeam 1023, 1056, 1057, 1134
KTV 1013, 1023, 1033, 1034, 1073, 1099, 1113
LG 1024, 1030
M.Wards 1002, 1009, 1038
Magnavox 1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1081, 1106
Marantz 1003, 1031, 1067, 1122
Mitsubishi 1003, 1024, 1051, 1115, 1122, 1133
Motorola 1014, 1069
NEC 1003, 1012, 1024, 1043, 1069
NET-TV 1137, 1150
Orion 1020, 1096
Panasonic 1017, 1067, 1069, 1095, 1111
Philips 1003, 1011, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1067, 1069, 1106
Pioneer 1003, 1018, 1037, 1070, 1071, 1094, 1145, 1147, 1149
Plasmsync 1135
Portland 1003, 1013, 1024, 1059
Price Club 1026
Prism 1018
Proscan 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1085, 1103, 1110
Proton 1003, 1045
Quasar 1010, 1069, 1073, 1111, 1153
Radio Shack 1003, 1013, 1015, 1023, 1024, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110, 1113
RCA 1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1014, 1024, 1049, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1110, 1113, 1153
Realistic 1013, 1015, 1023, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110
Runco 1010, 1153
Sampo 1150
Samsung 1003, 1013, 1024, 1026, 1040, 1045, 1062, 1078, 1083, 1090, 1100, 1105, 1114, 1120, 1121, 1146, 1148, 1157
Sansui 1119
Sanyo 1003, 1025, 1051, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
Sharp 1003, 1013, 1014, 1015, 1045, 1055, 1064, 1066, 1076, 1089, 1123
Signature 1009
Sony 1001, 1102, 1108
Soundesign 1003, 1023, 1038, 1063, 1113
Starlite 1023
Supre-Macy 1134
Sylvania 1003, 1039, 1042, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1089, 1151
Symphonic 1023, 1039, 1044
Tandy 1014
Tatung 1069
Technics 1018
Techwood 1003, 1018
Teknika 1003, 1009, 1013, 1023, 1024, 1026, 1038, 1045, 1047, 1059, 1063, 1111, 1113
Telecaption 1074
Toshiba 1003, 1019, 1025, 1026, 1042, 1074, 1098, 1107, 1111, 1135, 1136
Totevision 1013
Universal 1046, 1054
Video Concepts 1113
Viewsonic 1006, 1022, 1109, 1128, 1129, 1130, 1131, 1138, 1143, 1145, 1150
Wards 1003, 1009, 1015, 1024, 1038, 1044, 1046, 1052, 1054, 1056, 1057, 1067, 1086, 1103, 1110
White Westinghouse 1001, 1101
Yamaha 1003, 1024
Zenith 1003, 1009, 1010, 1132, 1144, 1153

CD プレーヤー

ソースボタン名：CD

AIWA 3001, 3002, 3003
AKAI 3004, 3005, 3006
AUDIO 3007
AUDIO LABS 3008
CALIFORNIA 3008
CARVER 3010, 3011, 3009
CASIO 3012, 3020
CURTIS 3020, 3012
DENON 3013
EMERSON 3014
FISHER 3011, 3015, 3016, 3017, 3018
GE 3019
GENEXXA 3014, 3021, 3020
HARMON 3022, 3023, 3051
HITACHI 3020
INKEL 3024
JC PENNEY 3012, 3020, 3025
JVC 3026, 3027
KARDON 3022, 3051, 3023
KENWOOD 3028, 3029, 3030, 3031, 3032, 3033
KRELL 3010
LUXMAN 3035, 3036, 3037, 3038
LX I 3012, 3020, 3014
MAGNAVOX 3010, 3039, 3040
MARANTZ 3010, 3041, 3042, 3043
MATHES 3012, 3020
MCS 3012, 3020
MGA 3023
MISSION 3010
MITSUBISHI 3023, 3044
NAD 3034, 3045
NAKAMICHI 3046, 3047, 3048
NEC MCS 3025
NIKKO 3007, 3016
ONKYO 3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3102, 3103
OPTIMUS 3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
PANASONIC 3008, 3060, 3061
PHILIPS 3009, 3010, 3010, 3040
PIONEER 3020, 3021, 3062, 3063, 3064
QUASAR 3008
RCA 3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
REALISTIC 3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
ROTEL 3010
RS ORIGINAL 3070
SAE 3010, 3083
SAMSUNG 3071
SANSUI 3014, 3068, 3072, 3073
SANYO 3011, 3018, 3074, 3075, 3076
SCOTT 3014
SEARS 3012, 3014, 3020, 3028, 3042
SHARP 3028, 3042, 3077
SHERWOOD 3042, 3056, 3070, 3078, 3024
SHURE 3025
SONY 3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101
SYLVANIA 3010
SYMPHONIC 3083
TEAC 3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
TECHNICA 3007, 3008, 3061, 3087, 3088
THETA DIGITAL 3040
TOSHIBA 3045
VICTOR 3026
YAMAHA 3007, 3089, 3090, 3091, 3092
ZENITH 3016, 3093, 3094, 3095, 3096

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in China

09/2009　541110361011M　mzh-d